(受学管７-４)

木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事

図面番号	図　面　名　称	縮　尺	図面番号	図　面　名　称	縮　尺	図面番号	図　面　名　称	縮　尺
M-00	表紙・図面リスト	―――	A-01	建築改修工事特記仕様書１	―――	E-01	電気設備工事特記仕様書-１	―――
M-01	共通特記仕様書	―――	A-02	建築改修工事特記仕様書２	―――	E-02	電気設備工事特記仕様書-２	―――
M-02	機械設備工事　特記仕様書－１	―――	A-03	建築改修工事特記仕様書３	―――	E-03	受変電設備　高圧単線結線図	―――
M-03	機械設備工事　特記仕様書－２	―――	A-04	建築改修工事特記仕様書４	―――	E-04	分電盤結線図	―――
M-04	付近見取図　配置図	1/2500 1/500	A-05	建築改修工事特記仕様書５	―――	E-05	幹線設備　１階平面図	1/200
M-05	機械設備工事　系統図	―――	A-06	建築改修工事特記仕様書６	―――	E-06	幹線設備　R階平面図	1/200
M-06	機械設備工事　機器表	1/20	A-07	建築改修工事特記仕様書７	―――	E-07	体育館１階平面図	1/100
M-07	空調設備　１階平面図	1/100	A-08	建築改修工事特記仕様書８	―――	E-08	電気設備　立面図	1/100
M-08	空調設備　２階平面図	1/100	A-09	建築改修工事特記仕様書９	―――	E-09	電気設備　展開図	1/100
M-09	施工標準図・参考図	―――	A-10	建築改修工事特記仕様書10	―――	E-10	詳細図、配線系統図	―――
			A-11	配置図兼仮設計画図	1/500			
			A-12	改修　１階平面図	1/100			
			A-13	改修　２階平面図	1/100			
			A-14	改修　屋根伏図	1/100			
			A-15	改修　北・南・西・東立面図	1/150			
			A-16	改修　南・西展開図	1/100			
			A-17	現況・改修　矩計図	1/20			
			A-18	ｺｰﾄﾗｲﾝ配置改修１階平面図	1/100			
			A-19	収納台車新設詳細図	1/5 1/20 1/50			
			A-20	空調室外機置場詳細図	1/50 1/30 1/20			
			A-21	仮設計画　１階平面図(参考図)	1/100			
			A-22	仮設計画　２階平面図(参考図)	1/100			
			A-23	仮設計画　屋根伏図(参考図)	1/100			
			A-24	仮設計画　北・南・西・東立面図(参考図)	1/100			

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所

611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号

TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .
訂正年月日	
監修	設計	製図

工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
図面名称	表紙・図面リスト

縮尺

図面番号　No　M－００号図

枚ノ内

A　工事概要

1　工事名称　(受学管７－４）　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事

2　工事場所　宇治市木幡赤塚４番地

3　工事期間　入札通知書による。

4　規模構造　鉄筋コンクリート造　２階建

5　延床面積　６０８．５㎡

6　工事範囲
・体育館空調設置工事に伴う機械設備工事　一式
　空調機器設置工事
　換気設備設置工事
・上記に伴う建築工事　一式
　空調機器基礎新設工事
　外構工事
　塗装改修工事
　体育施設改修工事
・上記に伴う電気設備工事　一式
　空調機器の電源工事
　換気設備の電源工事
・上記に伴う撤去・処分　一式

B　特記仕様書

1　共通事項

a施工基準
本工事は契約書及び①質疑回答書②現場説明書③特記仕様書④設計図⑤公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編）及び公共建築工事標準仕様書（建築工事編機械設備工事編・電気設備工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和４年版）により施工する。なお、設計図書間に相違がある場合の優先順位は上記記載の順とする。

b監理基準
本工事は建築改修工事監理指針及び建築・機械設備・電気設備・各工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修令和４年版）により監理する。

c提出書類等
契約書及び設計図書に定められた提出書類等を監督職員の指示により、定められた期日までに提出する。受注者は、下請契約を締結する場合には、下請金額に関わらず、施工体制台帳を提出する。
また、施工体系図においては、すべての下請負人及び警備業者を記載する。
なお、施工体制台帳には監督職員が指示する書類を添付して提出する。

d建設業退職金共済制度
受注者は建設業退職金共済制度（建退共）に加入の上、掛金収納書を提出する。工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場標識」を掲示し、工事完成時には「建退共運営実績報告書」、「労働者の就労日報」及び「共済証紙受払簿」を提出する。また、下請負人に対しても同共済制度加入を奨励する。

e工事実績情報
受注者は受注時、変更時及び完成時の各時点において、あらかじめ登録内容について監督職員の確認を受けた上で、それぞれ１０日以内に（一財）日本建築情報総合センターへ工事実績情報サービス入力システム（ＣＯＲＩＮＳ）の登録申請を行う。
また、登録後、直ちに登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する（作成、登録等に伴う費用は受注者の負担とする）。

f建設工事保険等
受注者は、工事目的物・工事材料等を建設工事保険等（第三者保険を含み、火災による損害が見込まれる場合は火災保険を含む）に付し、その保険証書の写し又はこれに代わるものを提出する。なお、その保険の加入期間は、工事着工の時から、工事完成期日後１４日迄とする。

g労災補償に必要な法定外の保険契約について
受注者は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」（令和元年法律第35号）に基づき、公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険（法定外の労災保険）に付する。

h工事写真・完成写真
工事写真撮影ガイドブック（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和５年版）を参考に、着工前・工事中の各段階の工程の内容が充分把握できるよう撮影する。工事完成時には、完成写真を撮影し、着工前・工事中と共に工事用アルバムに整理の上１部提出する（データ共）。
なお、着工前・完成写真は、着工前・完成を一対（左右または前後）として整理すること。

i不正軽油使用防止の徹底
受注者は建設機械等の燃料としての軽油はＪＩＳ規格軽油以外のものを使用してはならない。
また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。

j一般事項
・　軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。
・　工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。
・　騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。
・　既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。
・　使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。
・　工事完成時には、社内検査を実施する。
・　本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。
・　使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。

kその他
・　交通誘導警備員は、現場説明書による。
・　公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めに従って、各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げ、所定の様式により監督職員に提出する。
・　受注者は、宇治市が指名停止処置を行っている第三者に対して宇治市の契約についての全て、若しくは一部を下請、受託させてはならない。

l過積載防止
受注者は本工事における材料等の搬出入に伴う、工事車両の過積載防止について、十分注意を払うと共に、下請負人への指導を徹底する。

m官公庁その他への手続き
工事の施工に必要な官公庁その他への手続きは、受注者の責任において速やかに行うものとする。
なお、これに要する費用は受注者の負担とする。

n技術者及び現場代理人
受注者は、主任技術者及び監理技術者並びに現場代理人について、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者から選任し、配置しなければならない。

o工事完了時の整地
受注者は工事完了時に、工事敷地内及び車両通行部分は、必要に応じ砂を搬入し、整地を行う。既設コンクリート舗装、アスファルト舗装等の損傷箇所については、原状復旧する。

p建設発生土の処分
・　建設発生土を搬出する場合は「残土処理計画書（報告書）」を提出する。同計画書には処理場所の位置図及び経路図、受入承諾書を添付する。同報告書には処分したことが判明する資料（受入証明書）及び写真等を添付する。
・　その他の建設発生土の取扱いについては、現場説明書による。

q解体等工事の事前調査
・　受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第1項・第4項に基づき、改修工事対象となる全ての部材について、特定建築材料の使用の有無について調査し、その結果を発注者に説明する。
また、第18条の15第3項・第4項に基づき、事前調査結果の記録を作成し、保存しなければならない。
調査方法は、分析による調査、目視、設計図書等による。
・　受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第5項に基づき、事前調査結果を公衆の見やすい場所に掲示する。

2　発生材等処分

工事に伴う撤去材
・　撤去材・発生材は、場外搬出し関係法令を遵守し処理するものとし、「廃棄物処理計画書（報告書）」を適時提出する。同計画書には、当該廃棄物の処分業の許可証の写し、受注者と処分業者の契約書の写しに加えて、処分地の位置図及び経路図を添付する。また廃棄物を委託して運搬する場合は、該当する収集運搬業の許可証（搬出地と搬入地）の写しと受注者と運搬業者との契約書の写しを添付する。同報告書には処分したことが判明する資料として、運搬管理表(又はマニフェストの写し)及び写真等を添付する。
・　本工事の施工により発生するアスファルト塊、コンクリート塊及び木材は再資源化施設に搬出する。
・　その他の建築副産物の取扱いについては、現場説明書による。
・　「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」による産業廃棄物の収集運搬車に係る表示及び書面添え付けを行う。
・　工事完了時に産業廃棄物の収集運搬車両への表示状況が確認できる写真を提出する。

産業廃棄物税
「京都府産業廃棄物税条例」に基づき導入される産業廃棄物税（以下「産廃税」という）は京都府内の最終処分施設に搬入される産業廃棄物について課税されるものである。また、中間処理施設に搬入された産業廃棄物においてもリサイクル後の処理残滓（ザンサイ）等が最終処分場に搬入される場合は、最終処分場に搬入される量に対して課税される。
なお、本工事においても、産廃税相当額を見込んでいる。（産廃税も本工事に含む）

3　仮設工事

工事電力･工事用水
現場説明書による。

工事用電力設備の保安責任者
工事用電力設備の保安責任者を定め報告する。当該施設に電気主任技術者が専任されている場合はその指示を仰ぐ。
持込電動機器は整備された機器以外は持込させてはならない。また、仮設分電盤内に漏電遮断器を取り付け事故の防止に努める。

設置・維持管理
現場説明書による。

仮囲い
施工範囲・資材置場等に対しての侵入防止策を講じる。（フェンスバリケード（シート貼り共）等）
詳細については仮設計画図による。

内外足場・養生等
足場等は、労働安全衛生法・建築基準法・建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い適切な材料および構造のものとし、適切な保守管理を行う。高所作業車使用時含む。また、仮設計画を作成し監督職員と協議を行う。
近接する他の部材や工作物の部分を損傷しないようにメッシュシート又は工事用シート等で養生を行う。外部足場については、手摺先行型枠組本足場（Ｗ＝900以上）とする。足場の設置に関しては、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省　平成１５年４月制定・平成２１年６月１日改正）」に基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保する。また、外部足場には昇降足場を設置する。

墜落制止用器具の使用について
受注者は、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則等の改正（平成31年2月）に伴い、高所作業を行う場合には、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に基づき、墜落、転落による労働災害の防止に努める。

4　その他

ホルムアルデヒド等の放散量測定について
「学校環境衛生基準」により、工事着工前及び工事完成時において、当該居室における空間のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・パラジクロロベンゼン･エチルベンゼン・スチレンの濃度を測定し分析結果を監督職員に提出する（検査方法・判定基準とも「学校環境衛生基準」（平成２１年４月１日施行）による）
分析機関・測定器具については、国土交通省住宅局「ホルムアルデヒド、トルエン、パラジクロロベンゼン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレン用パッシブ採取機器（サンプラー）一覧表（学校用）」による。（平成２１年４月１日改訂版）
測定場所：体育館　２箇所

電気・機械設備工事
工事着工に際し、事前に必要な機器（照明機器・放送設備・空調機器・受信設備等）器具の機能確認を行い、その結果を書面にて監督職員に報告する。

名称	内容	サイズ	部数
完成図（背張り製本）	特記仕様書・完成図・施工図	Ａ３版	１部
完成図書	機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類（写）	Ａ４版	２部
諸官庁提出書類	副本		一式
完成図データ	CADデータ（ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する）、PDF	ＣＤ－Ｒ	２部

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No　Ｍ－０１ 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	共通特記仕様書		枚ノ内

機械設備工事特記仕様書　№１

【工事概要】

1　工事場所　　宇治市木幡赤塚４番地

2　建物概要

建物名	構造	階数	延床面積（m²）	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備考
	ＲＣ	2			○甲　○乙	
					○甲　○乙	
					○甲　○乙	
					○甲　○乙	

3　工事科目　　●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目＼建物名称	体育館棟		
空気調和設備	●	○	○
換気設備	●	○	○
排煙設備	○	○	○
自動制御設備	○	○	○
衛生器具設備	○	○	○
給水設備	○	○	○
排水設備	●	○	○
給湯設備	○	○	○
消火設備	○	○	○
ガス設備	●	○	○
厨房機器設備	○	○	○
浄化槽設備	○	○	○
医療ガス設備	○	○	○
撤去工事	●	○	○
	○	○	○

【特記事項】

1　一般事項

1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和　　年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和　　年版（以下「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和　　年版」による。

2）工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

2　特記事項

項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

章	項目	特記事項
一般事項	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課営繕技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編第1章第４節１．４．２（３）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第１０条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者	※適用する　　○適用しない
	○技能士（一級）	※配管（配管工事） ○建築板金（ダクト製作及び取付け）　　○冷凍空気調和機器施工
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが　※できる　　○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない　　○設置する　（○本工事　　○別途）
	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)　・公共建築設備工事標準図(機械設備工事編) ・機械設備工事監理指針　・機械設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針　・工事写真撮影ガイドブック機械設備工事 ・公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)　編(最新版)
	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。	○引き渡しを要するもの　【　　】 ○再生資源利用を図るもの【　　】 ○特別管理産業廃棄物 ○ＰＣＢ使用機器　○臭化リチウム　○
		○建設発生土の処理 右記のほか、 現場説明書による	○構外指定地に搬出処理　※(一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○構外搬出適切処理 (運搬及び処分費は　○本工事　○別途)
			○構内指示場所に敷き均し
		再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書「Ⅱ特記事項　14 建設副産物の取扱い　2)再生資源利用(促進)計画・実施書について」による。	
		1）「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。 2）関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。 3）冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く）。 （積込：※本工事　○別途、　処分費：※本工事　○別途、　運搬費：※本工事　○別途）	
		○アスベストの処理等 1）次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) ○配管エルボ部保温材　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) ○煙道の断熱材　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) ○アスベスト成形板　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) アスベスト成形板の処理等 施工調査　アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認・施工範囲等の確認 確認範囲　※成形板の製造年等の確認　○Ｘ線解析法 2）アスベスト含有調査は以下のとおりとする。 （ただし、調査費用は　※本工事　○別途　とする。） ※ＪＩＳ Ａ １４８１－２「建材製品中のアスベスト含有率測定方法－第２部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又はＪＩＳ Ａ１４８１－３「建材製品中のアスベスト含有方法－第３部：アスベスト含有率の Ｘ線回折定量分析方法」による。 3）アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。	

章	項目	特記事項
一般事項	※工事関係書類	営繕工事契約関係書類提出書類書式集◆一覧表により提出。 ●宇治市ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ参照　<http://www.city.uji.kyoto.jp>
	※履行報告	月報　※２部　○３部　毎月末に〆め、翌月の５日までに提出する。
	※工事写真	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編(最新版）」による。 2）工事完成時、整理の上、１部提出する。 3）デジタルカメラで撮影可とする。
	※完成図書	名称／内容／大きさ／部数 ○完成図／金文字製本／Ａ４版／１部 ○完成図／○背貼り製本（　版）　○Ａ４ファイル止め／／２部 ○施工図／○背貼り製本（　版）　○Ａ４ファイル止め／／２部 ●機器完成図等／機器製作図　ファイル止め 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書／Ａ４版／２部 ○諸官庁提出書類／副　本／／１式 ○原図／完成図／／１部 ●完成写真／アルバム綴り／／２部 電子納品については、現場説明書による。
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。
	※総合試運転調整 （測定結果は報告書にて提出）	●風量調整（測定共）　○水量調整（測定共）　●室内外空気の温湿度測定 ○室内気流及びじんあいの測定　●騒音の測定　○別表２による ○飲料水の水質の測定　○雑用水の水質の測定　●室内温度測定（夏冬の切替による）
共通事項	●耐震施工	1）設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」による。 2）下記の設計用水平震度（ＫＨ）により、機器製作固定を行う。

設置場所	●特定の施設 ●重要機器	●特定の施設 一般機器	○一般の施設 重要機器	○一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
１階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

設置場所	○特定の施設 水槽	○一般の施設 水槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5
中間階	1.5	1.0
１階及び地下階	1.5	1.0

注１　耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。

注２　（　）内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。

注３　設計用鉛直震度は、設計用水平震度の１／２とする。

注４　上層階の定義は、６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上階２階。

注５　重要機器（水槽類）は、下記に示すものとする。（水槽類にはオイルタンク等を含む。）

【　　】

注６　「建築設備耐震設計・施工指針（２０１４年版）」による形鋼振れ止め支持を行う場合は、S_A種とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。

章	項目	特記事項
共通事項	○一般用弁	標準仕様書第２編２．２．１（ｱ）～（ｼ）によるほか、下記による。 1）水道直結部及び図面特記部の耐圧は１０Ｋ以上、その他は５Ｋ以上とする。 2）給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。
	○フレキシブルジョイント	機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはベローズ形、ＦＲＰに対しては合成ゴム製とする。
	○伸縮管継手（鋼管用）	鋼管用伸縮管継手は下記による。 ○ベローズ形　○スリーブ形
	○溶接接合	溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査　○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査）
	●地中埋設標及び埋設表示用テープ	1）給水管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 2）消火管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 3）ガス管　地中埋設標（●要　○不要）　埋設表示用テープ（●要　○不要） 4）油管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 5）ブライン管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 用途表示のあるテープ（幅は１５０mm以上）で、２倍長以上重ね合わせて使用する。
	○防食処理	土中埋設の排水用塩ビライニング鋼管は、防食処置を行う。
	●保温	1）保温材の使用は、下記による。 給水管・排水管／●ポリスチレンフォーム保温材　○ 排煙ダクト・煙道、排気筒／○ロックウール保温材　○ その他／○グラスウール保温材　●ロックウール保温材 2）膨張管及び膨張水槽からの補給水管の保温は、冷温水管に準ずる。 3）鋼板製タンクの保温　○必要　○不要 4）保温を施す膨張水槽等の蓋の保温　○必要　○不要 5）エア抜管の保温厚は２０mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜弁までとする。 6）露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内　○合成樹脂カバー１　○合成樹脂製カバー２　●カラー亜鉛鉄板 ・屋外　●ステンレス鋼板 7）弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内　○カラー亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板　○ ・屋外　○カラー亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板　○ 8）車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 9）合成樹脂製支持受　○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの
	●塗装	標準仕様書による他下記の配管は塗装(指定色塗装)を行う。ただし保温を行う配管ダクトを除く ●屋外(○ダクト　●配管)　○屋内ＰＳ･ＥＰＳ(○ダクト　○配管) ○屋内機械室・電気室(○ダクト　○配管)
	○吹出口及び吸込口ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合はＪＩＳ Ａ ４００９（空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ０．６mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとする。 ボックスの吊りは３点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。
	○ｽﾃﾝﾚｽ製ﾀﾞｸﾄの板厚	ステンレス製ダクトの板厚は　ＪＩＳ Ａ４００９　２０１７による
	○ボックス	ＰＦ管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。
	●容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。
	●誘導電動機	電動機出力が０．７５ｋＷ以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、ＪＩＳ Ｃ ４２１３（低圧三相かご形誘導電動機－低圧トップランナーモータ）による。
	○開放形膨張タンク等	開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製　○ステンレス鋼板製
	○電線及び電線管	電線及び電線管については標準仕様書第４編第１章第５節による

章	項目	特記事項
共通事項	●はつり	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。
	●インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第２編第５章による。 施工後確認試験 ●行う（国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和４　年度））による。 ○行わない
	○防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は　○遠方復帰式　（電気式（定格入力　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下）） ○手動復帰式
	○消音内貼	ダクト及びチャンバー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は　○不要　○必要 ・チャンバーの寸法は、外形寸法を示す。 （ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー類に必要に応じ設ける。
	○取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	●機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等　（○溶融亜鉛メッキ　●ＳＵＳ　）　ピット内 ・その他　（○一般品　○　） ●機器側の材質がＳＵＳ製の場合は、ＳＵＳ製とする。
	○防火区画	○平面階　○図示　○
	●掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。文字標識
	○天井仕上区分	（　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	○給油設備	地下オイルタンク／○設ける　○設けない 遠隔油量指示計／○設ける　○設けない 副指示計／○設ける　○設けない オイルサービスタンク／油面計　○ゲージ式　○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御用 ○返油ポンプの起動、停止制御用 ○満油警報 ○遠隔警報（○減油　○満減油） 油管（露出、トラフ内）／○配管用炭素鋼鋼管（黒）　○ 油管（地中）／○ポリエチレン被覆鋼管　○
	○建物導入部配管（排気及び通気を除く）	○標準図　施工４(a)　(ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄを使用) ○標準図　施工５(b)　(ﾎﾞｰﾙｼﾞｮｲﾝﾄを使用) ○標準図　施工５(c)　(ｽﾘｰﾀｯｸｼｮﾝを使用)
	●鋼材	屋外部分　○溶融亜鉛めっき（○２種３５　） ●ステンレス鋼製（ＳＵＳ３０４）
	○制御及び操作盤	構成／○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等／○運転（赤色）及び停止（緑色）表示 ○保護継電器の動作表示 接点及び端子／○遠方発停用端子 ○湿度調節器用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○給水量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○燃料消費量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）
空気調和設備	●主方式	○全空気方式（○中央　○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式　●個別方式　○
	●主要熱源機器	○吸収冷温水機　○チリングユニット　○空気熱源ヒートポンプユニット ●空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機（○ＥＨＰ　●ＧＨＰ　○　） ○
	○設計時の温湿度条件	場所／屋外／屋内（調整目標値） 時期／温度（ＤＢ）／湿度（ＲＨ）／温度（ＤＢ）／湿度（ＲＨ）／温度（ＤＢ）／湿度（ＲＨ） 冬期／℃／%／℃／%／℃／% 夏期／℃／%／℃／%／℃／%
	○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法　○スライドオンフランジ工法）
	○ダクトの分岐方法	○割込み工法　○直付け工法
	●配管材料（図面特記部分は除く）	冷温水管／○配管用炭素鋼管（白）　○ 冷却水管／○配管用炭素鋼管（白） ○塩ビライニング鋼管　（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ） 空調用排水管／○配管用炭素鋼管（白）（○ねじ接合　○ＭＤジョイントによる接合） ○水配管用亜鉛めっき鋼管 ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(ＲＦ－ＶＰ) ●ビニル管（ＶＰ）● 保温付ＶＰ管 補給水管／○配管用炭素鋼管（白）　○ 膨張管／○配管用炭素鋼管（白）　○ エア抜き管／○配管用炭素鋼管（白）　○ 冷媒管／○銅管　●断熱材被覆銅管（ガス管：ハイグレード仕様） ○パッケージ形空気調和機の２次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。
	●冷媒管接続方法	●火無工法とする。（ファイアレスジョイント使用）
	○温度計	○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計　○ガラス製二重管温度計
	○定風量ユニット 変風量ユニット	○メカニカルタイプ ○風速センサータイプ　（○プロペラ形センサー　○熱線センサー）
	○ファンコイルユニット ｶｾｯﾄ形ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄ	風量分配ダクトは　○亜鉛鉄板製　○自己消火性のポリスチレンフォームなど
	○バーナー制御方式	○オン・オフ制御　○ハイ・ロー制御　○比例制御
	○電動機盤	○進相コンデンサー　（○要　○不要）
	○排熱投入形再生器	直だき吸収冷温水機に（○要する。　○不要である。）
	○高温再生器の構造	※図面による。
	○ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ装置	発電方式／○原動機、発電機　○燃料電池 熱回収装置／○温水熱交換機　○排ガスボイラー　○排ガス熱交換機 ○熱回収用ポンプ　○その他 その他装置等／○補機付属制御装置　○冷却塔（放熱用）　○
	○集中リモコン	表示機能／○屋外機吸込温度　○空調エネルギー使用量按分　○運転時間積算 ○室内温度 データー管理機能／○屋外機吸込温度　○空調エネルギー使用量按分　○運転時間積算 ○室内温度 ○外部記憶媒体への出力

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所

611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号

TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　　細野幹生

製図年月日	2025．01．	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No　Ｍ－０２号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	機械設備工事　特記仕様書－１		枚ノ内

機械設備工事特記仕様書　№２

章	項目	特記事項
空気調和設備	○鋼板製煙道	厚さ　○３．２mm　○４．５mm ○ばい煙濃度計の取付座　○ばいじん量測定口 ○伸縮継手　○掃除口
	○ばい煙濃度計	○ファン付　○ファンなし （電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む）
	○瞬間流量計	○固定形　個 ○着脱可能形　（測定用タッピング　個　本体　個）
	●保温 （図面特記部分は除く）	１）冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内　隠ぺい部　●不要　○必要 露 出 部　○保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂製） ○　カラー亜鉛鉄板　● ビニル化粧テープ巻き ・屋外　●ステンレス鋼板 ●保温化粧ケース　○樹脂製　○アルミ合金製 ●ステンレス鋼板製 ・保温化粧ケースの下部カバー　○必要　○不要 ２）ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 ３）加湿用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 ４）トラフ内の油管はプラスチックテープ１／２重ね１回巻きとする。
換気設備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法　○スライドオンフランジ工法） ○スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト　○割込み方式　○直付け方式 排気ダクト　○割込み方式　○直付け方式
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 ダクトの長辺 ／ 板厚 ４５０mm以下 ／ ０．６mm ４５０mmを超え１２００mm以下 ／ ０．８mm １２００mmを超え１８００mm以下 ／ １．０mm １８００mmを超えるもの ／ １．２mm
	○排気フード	１）排気ﾌｰﾄﾞの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板（補強共）　○亜鉛鉄板 ２）排気ﾌｰﾄﾞ廻りに取付ける幕板は、上記ﾌｰﾄﾞと同材質とする。 ○本工事　○別途工事 ３）グリスフィルターの予備　○不要　○必要
	●保温	浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温　○不要　○必要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○不要　●必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○不要　○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○不要　○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第２編第３章第１節による。
排煙設備	○排煙対象部分	○廊下　○事務室　○図示　○最大面積　m²
	○ダクトの種別	○高圧１ダクト　○高圧２ダクト
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製　○普通鋼板製
	○排煙口	１）形　状　○スリットフェース形　○パネル形　○ダンパー形 ２）排煙口の開放　○手動　（○機械式　○電気式）　○煙感知器連動 ３）復帰装置　○手元復帰式（○手動式　○電気式）　○遠方復帰式 ４）ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。
	○保温	床下及び暗渠内の保温　○不要　○必要（図示）
自動制御設備		※図面による。
衛生器具設備	○小便器用節水装置	電気供給方式　○ＡＣ電源　○乾電池　○水流発電充電池
	○自動水栓	電気供給方式　○ＡＣ電源　○乾電池　○水流発電充電池 手動スイッチ　○　無し　○　有り
	○大便器用洗浄弁	操作方式　○手動式 ○電気開閉式　（○センサー式　○タッチスイッチ式 ）
	○水石けん入れ	○手洗器一体型　○手洗器分離型　○
	○身障者用器具	１）大便器洗浄弁　○センサー式　○タッチスイッチ式　○レバー式 ２）洗面器の水栓は自動水栓とする。
給水設備	○給水方式	○水道直結方式　○高置タンク方式　○増圧ポンプ方式(水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式(給水ポンプユニット)
	○配管材料 （図面特記部分は除く）	一般配管　○ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４） （呼び径６０Ｓｕ以下は拡管式、呼び径７５Ｓｕ以上は溶接接合） ○ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ポリ粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＢ、ＳＧＰ－ＦＰＢ） ○塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ） ○保温付き(保護材)ポリデン管
		地中配管［屋内］　○ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６） （呼び径６０Ｓｕ以下は拡管式、呼び径７５Ｓｕ以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（５０φ以下）（※２種　○１種） （ポリエチレン管の接合方法は ○電気融着 ○メカニカル） ○ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ポリ粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＤ、ＳＧＰ－ＦＰＤ） ○塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ） ○
		浴室、便所配管 ｺﾝｸﾘｰﾄ埋設配管　○ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６） （呼び径６０Ｓｕ以下は拡管式、呼び径７５Ｓｕ以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（５０φ以下）（※２種　○１種） ○ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ポリ粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＤ、ＳＧＰ－ＦＰＤ） ○塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ） ○保温付き(保護材)ポリデン管
	○緊急遮断弁装置	○要　○　不要 駆動方式　○電気式　○機械式
	○量水器	○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式

章	項目	特記事項
給水設備	○水栓柱	○合成樹脂製　（　） ○ステンレス製　（　） ○アルミニウム合金製（　） 特記なき場合、水栓取付け高さは約６００とする。
	○管の埋設深さ	１）一般敷地　○３００mm　○ ２）構内車両通路　○６００mm　○ ３）寒冷地では凍結深度以上とする。
	○加入金・負担金	○不要　○必要（○別途　○本工事）
	○本管引込工事	○本工事　○別途工事
排水設備	●排水方式	汚水と雑排水　[屋内]　●分流式　○合流式 汚水・雑排水と雨水[屋外]　●分流式　○合流式 ポンプ排水　○有り(○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽２次側) ○なし
	●放流式	汚水　○直放流下水管　○浄化槽　○ 雑排水　○直放流下水管　○浄化槽　●別途桝・側溝 雨水ポンプアップ　○直放流下水管　○雨水側溝　○雨水桝 湧水ポンプアップ　○直放流下水管　○雨水側溝　○雨水桝
	●配管材料 （図面特記部分は除く）	屋内雑排水管　○排水用塩ビライニング鋼管　（D-ＶＡ） ○鋼管（ＳＧＰＷ）（○ねじ接合　○ＭＤジョイントによる接合） ●保温付きビニル管（ＶＰ） ○耐火二層管　○
		屋内汚水排水管　○排水用塩ビライニング鋼管　（D-ＶＡ） ○ビニル管（ＶＰ）　○ＲＦ－ＶＰ ○耐火二層管　○
		通気管　○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ○鋼管（ＳＧＰＷ）（○ねじ接合　○ＭＤジョイントによる接合） ○ビニル管（ＶＰ） ○耐火二層管　○
		地中配管［屋内］　○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（ＲＥＰ－ＶＵ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（ＲＳ－ＶＵ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ●ビニル管（ＶＰ）　○ビニル管（ＶＵ） ○
		地中配管［屋外］　○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（ＲＥＰ－ＶＵ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（ＲＳ－ＶＵ） ●カラービニル管（ＶＰ）　○ビニル管（ＶＵ） ○コンクリート管
		鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ）（地中配管はＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ）とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。
	○満水試験継手	○必要（図示箇所に取付ける）　○不要
	○負担金	○不要　○必要（○別途　○本工事）
	○本管接続工事	○本工事　○別途工事
給湯設備	○給湯方式	○中央式　○局部式　ガス湯沸器
	○配管材料	○銅管（壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆銅管を使用してもよい。） ○ステンレス鋼管　圧縮・プレス接合 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付き(保護材)ポリブデン管 ○架橋ポリエチレン管
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第２編３．１．５の表２．３．５による。
消火設備	○消火設備の種類	○屋内消火栓　○スプリンクラー ○泡消火　○不活性ガス消火（　） ○連結送水管　○
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
	○配管材料 （図面特記部分は除く）	一般配管　○配管用炭素鋼管（白） ○圧力配管用炭素鋼管（白） 地中配管　○消火用ポリエチレン管（ＰＥ）
		屋内外地中配管　○外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＶＳ）　○消火用ポリエチレン管
	○保温	消火用充水タンクの保温を　○施工する（膨張タンクによる）　○施工しない 消火用呼水タンクの保温を　○施工しない　○施工する（膨張タンクによる） 屋外露出管の保温を　○施工しない　○施工する（給水管の保温仕様に準ずる） 屋内露出管の保温を　○施工しない　○施工する（給水管の保温仕様に準ずる） トレンチ内の保温を　○施工しない　○施工する（給水管の保温仕様に準ずる）
ガス設備	●ガスの種類	●都市ガス　（発熱量　●４５，０００kJ/N　m³　○　KJ/N　m³ ） ○液化石油ガス　（○５０ｋｇ　本立　○２０ｋｇ　本立）
	●ガスメーター　既設	親メーター　●貸与品　○購入
	●配管材料 （図面特記部分は除く）	一般配管　●配管用炭素鋼鋼管（白） ○
		屋内外地中配管　●ポリエチレン被覆鋼管 ●ガス用ポリエチレン管 ○
		都市ガスの場合は、供給者仕様による。　大阪ガスネットワーク(株)
	●地中埋設管の接合法	●ＳＧＭ工法　○ネジ工法　●ＰＥ管工法
	○ピット内施工法	○溶接工法
	●負担金	●不要　○必要（○別途　○本工事）
	●本管接続工事	●本工事　○別途工事
さく井設備	○掘削工法	○パーカッション式　○ロータリー式　○ダウンザホールハンマー式
	○孔口保護管	深度　（　）ｍ
	○ケーシング材質	○配管用炭素鋼鋼管（黒管）　○配管用ステンレス鋼鋼管

その他	●コア抜き （ﾀﾞｲﾔﾄﾞﾘﾙ穴明け）	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
	●校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	●交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	●保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	○鉄板敷き	１，５２４×６，０９６×厚２２㎜
	●アンカーボルト	中庭外壁に配管する冷媒管用支持金具取付はケミカルアンカーを使用すること。

別表　付属品・予備品

○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナー、ハンマー）
○マンホールフック　○パイプレンチ　○ポンププライヤー　○ラバーカップ（大、小）
○イージーキャビネット　箱　○キーボックス
○盤類予備品（ランプ及びヒューズの１００％）

試験・検査

○水圧試験　○排水満水試験　●排水通水試験
●気密試験　●点火試験　●機器類動作試験　●風量測定　●吹出口温度測定
●騒音測定　●振動測定　●絶縁試験
○消防設備試験　○水質検査　○水槽水張り試験　●アンカー引張試験（有資格者）　（屋外機、屋内機）

特記仕様

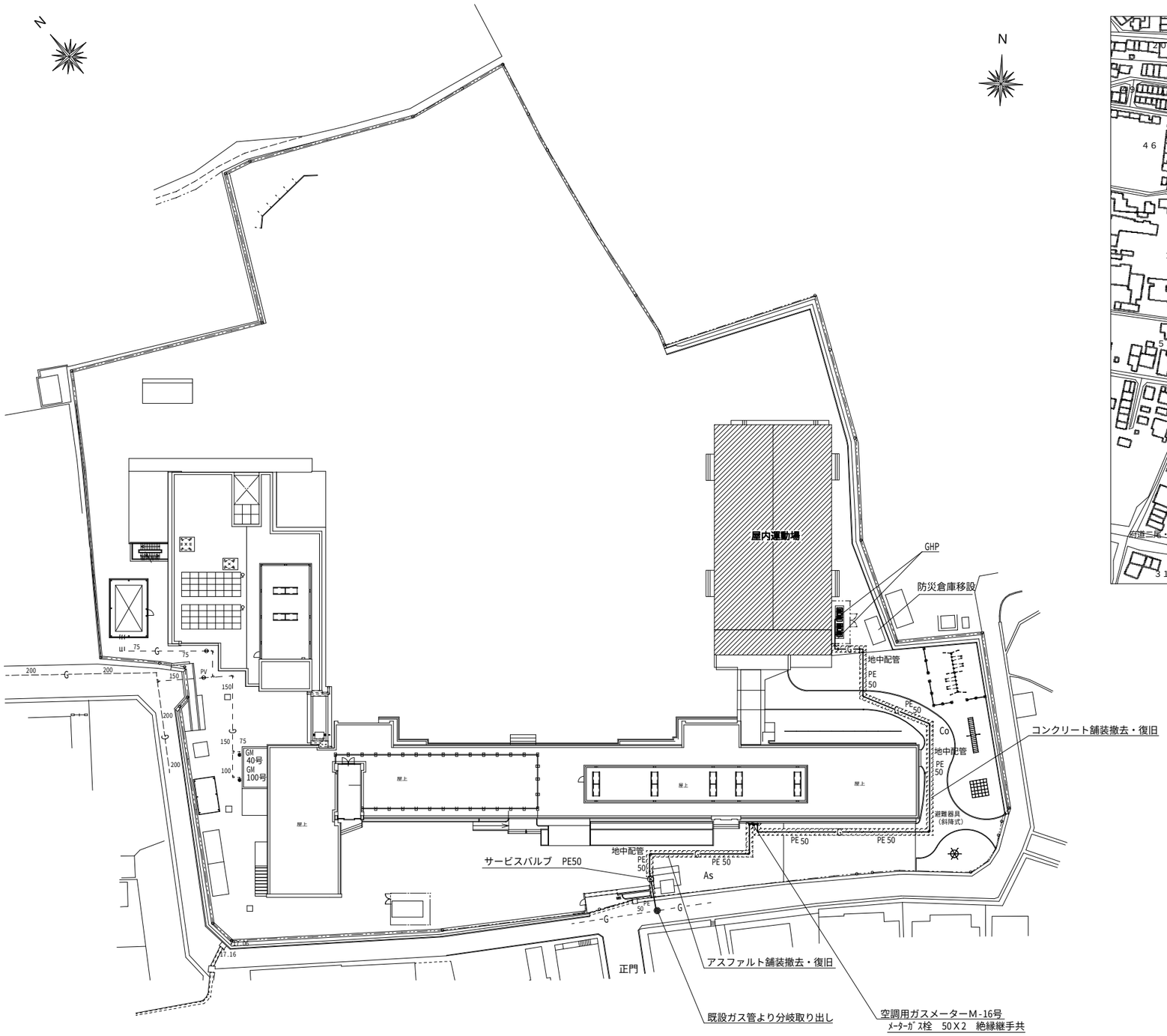
株式会社　木下建築設計事務所
611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日	2025．01．	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
訂正年月日			
監修	設計	製図	図面名称　機械設備工事　特記仕様書-２

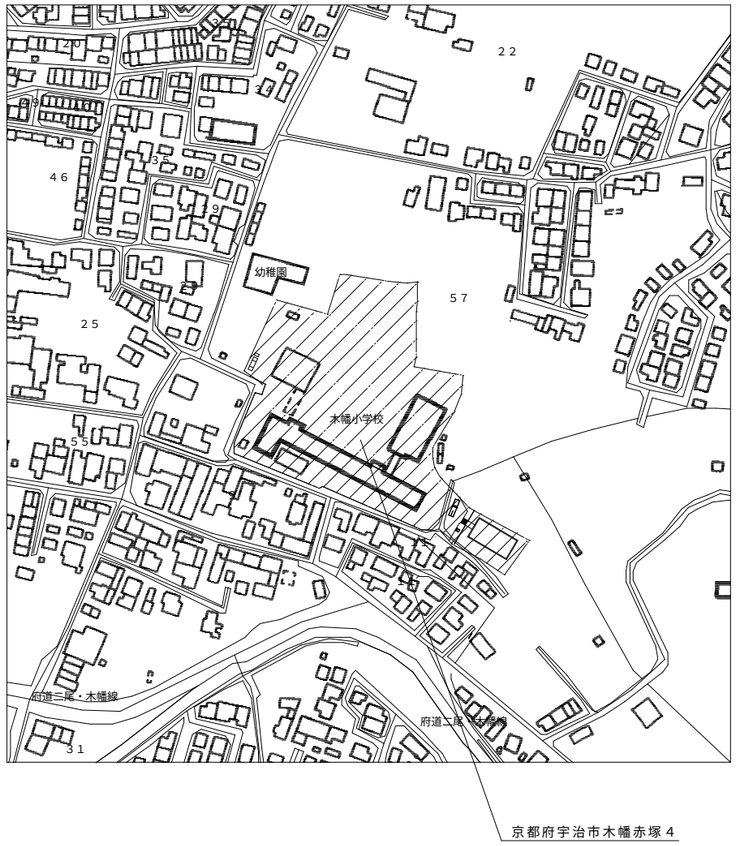
縮尺

図面番号　No　Ｍ－０３ 号図

枚ノ内



配置図　1:500



付近見取図　1:2500

特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生	製図年月日　2025 . 01 . 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　付近見取図　配置図	縮尺　1/2500 1/500	図面番号　No　M－０４ 号図 枚ノ内

凡　例

記　号	名　称	SGP（白）	VP	保温付-VP	PE	CUP-L	大阪ガス仕様 PLP	大阪ガス仕様 ELP	備考
——— R ———	冷　媒　管　　国土交通省仕様					●			ファイアレス ジョイント使用
——— D ———	ド レ ン 管　（屋外立管、屋外露出部分）		●						屋外は カラーVP
——— D ———	ド レ ン 管　（室内露出、化粧ｶﾊﾞ-内部分）			●					屋内は 保温付きVP
——— G ———	ガ　ス　管　（地中埋設、土間下部分）				●		●	●	
——— G ———	ガ　ス　管　（一般、露出部分）	●							塗装仕上
	空気搬送ファン　（新設　天井吊型）								
	壁付換気扇　（既設　24時間換気用他）								
	雑排水桝　　雨水桝								
Ⓓ	浸透桝　（樹脂製　200φ）								

1）上表中●印を適用する
2）管材は下記の通りとする

ＣＵＰ-Ｌ	リン脱酸銅継目無銅管（空調用断熱被覆銅管）
ＳＧＰ（白）	配管用炭素鋼鋼管
ＶＰ	硬質塩化ビニル管
保温付-ＶＰ	保温付硬質塩化ビニル管
ＰＥ	ガス用ポリエチレン管
ＰＬＰ	ガス用外面ポリエチレン被覆鋼管
ＥＬＰ	ガス用塩化ビニル被覆鋼管

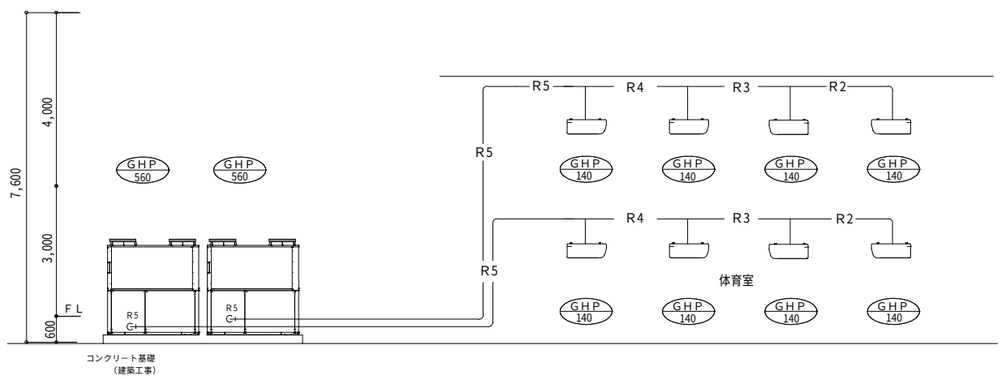
接着系（SUS製）アンカー

ﾎﾞﾙﾄ呼径	L(mm)	穿孔径(mm) d2
M-10	80	13.5
M-12	90	14.5

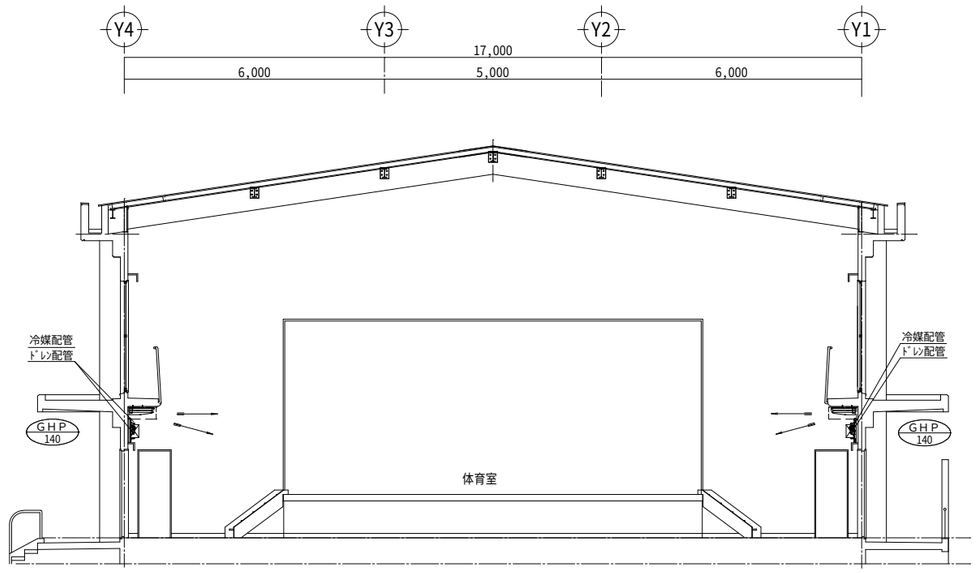
冷媒配管サイズ表

記　号	ガス管サイズ	液管サイズ
R1	12.7	6.35
R2	15.88	9.52
R3	22.2	9.52
R4	28.6	12.7
R5	28.6	15.88

※渡り配線は冷媒共巻きとする。



系統図



断面図　1/100

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細　野　幹　生

製図年月日	2025 . 01 .
訂正年月日	
監修	設計	製図

工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
図面名称	機械設備工事　系統図

縮尺

図面番号 No　M－０５ 号図

枚ノ内

機器表

記号	名称　型式	冷房能力 (Kw)	暖房能力 (Kw)	圧縮電動機 (KW)	送風電動機 (KW)	電源 (φ v)	消費電力(W) 冷房	消費電力(W) 暖房	本体寸法(mm) W×D×H	製品 重量(kg)	冷媒管 (m/m)	風量 m3/min	燃料 (kw/H) 冷房	燃料 (kw/H) 暖房	台数	参考品番	備考
GHP 560	ガスエンジン　パッケージエアコン	56.0	63.0		0.75x2	3φx200	1330	1190	2026 880 2228	870	28.58 15.88		46.1	42.7	2	ABGP560F2ND同等品	地上　コンクリート基礎　接着系アンカー　M12×4本
	ビルマルチ型　室外機 ハイパワープラス						非発電時	非発電時			R5		非発電時	非発電時		AGLS3A同等品	自立ユニット
	電源切替盤バッテリー100V変換トランス															GECBAT70A同等品	バッテリー
	自立運転スイッチ盤　(屋外用)															AGLS-TR同等品	100V変換トランス
	防振パッド															K-KSVP10B1同等品	防振パッド
GHP 140	ガスエンジン　パッケージエアコン	14.0	16.0			1φ×200V	84	84	1595 680 210	33	15.88 9.52				8	AXHP140NA同等品	体育室　ギャラリー　接着系アンカー　M12×6本
	天井露出型　屋内機										R2				2	ABRC1G3同等品	控室　リモコンスイッチ
															2	ADST301B1同等品	控室　スケジュールタイマー
		防球ガード　材質　ＳＳ400　指定色塗装　参考寸法　1800Ｘ800Ｘ350Ｈ　格子ﾋﾟｯﾁ　100Ｘ100													8	参考図同等品	ギャラリー　防球ガード　接着系アンカー　M12×6本
F-1	エアー搬送ファン	風量　1450m3/h　消費電力　1φＸ100Ｖ　60Ｈｚ　本体寸法　222ＨＸ1016ＷＸ197Ｄ													6	AH-2009SA2同等品	体育室　ギャラリー
		コントロールスイッチ　ＦＳ-08ＡＨＳ3													6	AH-G30A同等品	ギャラリー　防球ガード

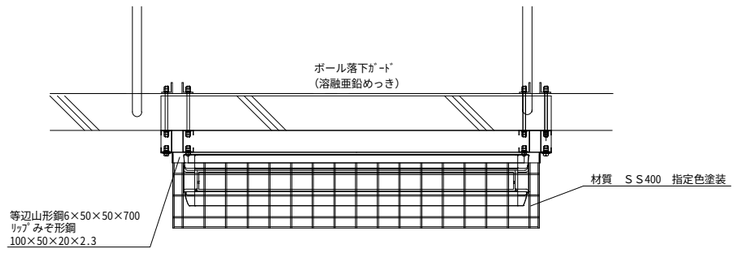
1、室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。本工事　制御ケーブルはＥＭ-ＣＥＥ1.25Ｘ２Ｃとする。
2、室外機と室外機の渡りﾘﾓｺﾝ用配管、配線（ＥＭ-ＣＥＥ1.25Ｘ２Ｃ　２本）結線調整は本工事。
3、ガスエアコン屋内ユニットリモコンスイッチは４台で１系統運転とする。　防球ガードは取り付ける。
4、ガスエアコンウィクリータイマースイッチは４台で１系統運転とする。
5、エアー搬送ファンのコントロールスイッチは３台で１系統運転とする。　防球ガードは取り付ける。
6、エアー搬送ファンのコントロールスイッチは電気設備業者に支給する。機器運転調整は本工事。
7、ガスエアコン屋外ユニットは、マルチマウント防振パット敷きとすること。

注記 1　フィルターの予備は室内機器と同数を納品する。

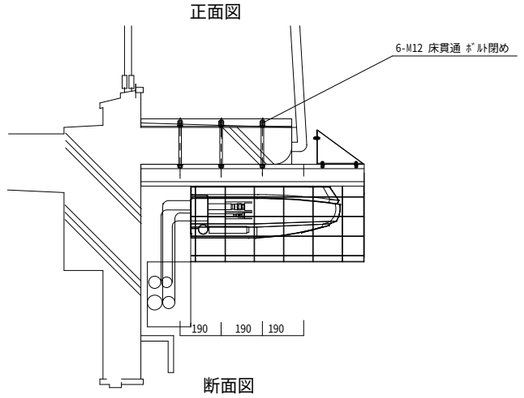
NO	品目	製造者名簿
1	ガスエアコン	アイシン精機（株）ダイキン工業㈱ヤンマーエネルギーシステム㈱
2	換気扇、ファン類	三菱電機（株）　パナソニック（株）日立アプライアンス（株）
3	保温付硬質塩化ビニル管	積水化学工業㈱　ＡＣＤ型　因幡電機産業㈱ ＮＤＤ型
4	屋内機用防球金具	ホーコス㈱因幡電機産業㈱

屋内機防球ガード等　仕様

防球ガード	材質　ＳＳ400　指定色塗装
	参考寸法　1800Ｘ800Ｘ350Ｈ
	格子ﾋﾟｯﾁ　100Ｘ100
上部吊架台	ﾘｯﾌﾟ溝形鋼
	C×100×20　SS400ﾒｯｷ仕上げ
ﾎﾟｰﾙ落下ｶﾞｰﾄﾞ	材質　ＳＳ400　SS400ﾒｯｷ仕上げ
	ｱﾝｸﾞﾙﾌﾟﾗｹｯﾄｷｬﾌﾟﾚｰﾄ
	寸法　2000×230×100H
吊り用ｱﾝｸﾞﾙﾌﾟﾗｹｯﾄ	L50×50×6　SS400ﾒｯｷ仕上げ
	700L×4本
	製作図面作成承諾を得ること

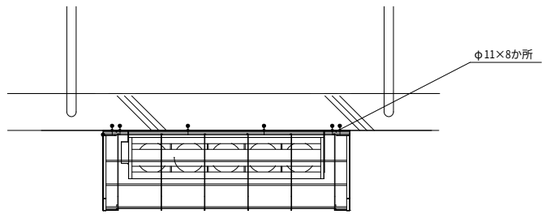


正面図

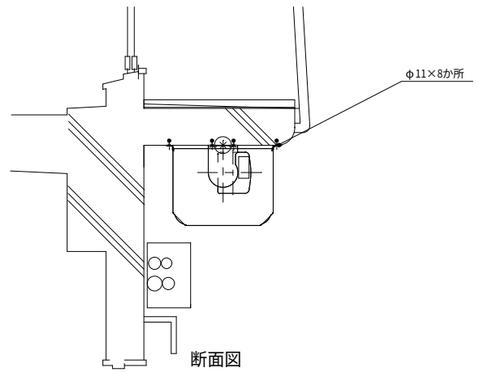


断面図

屋内機防球ガード取付参考図　1/20



正面図



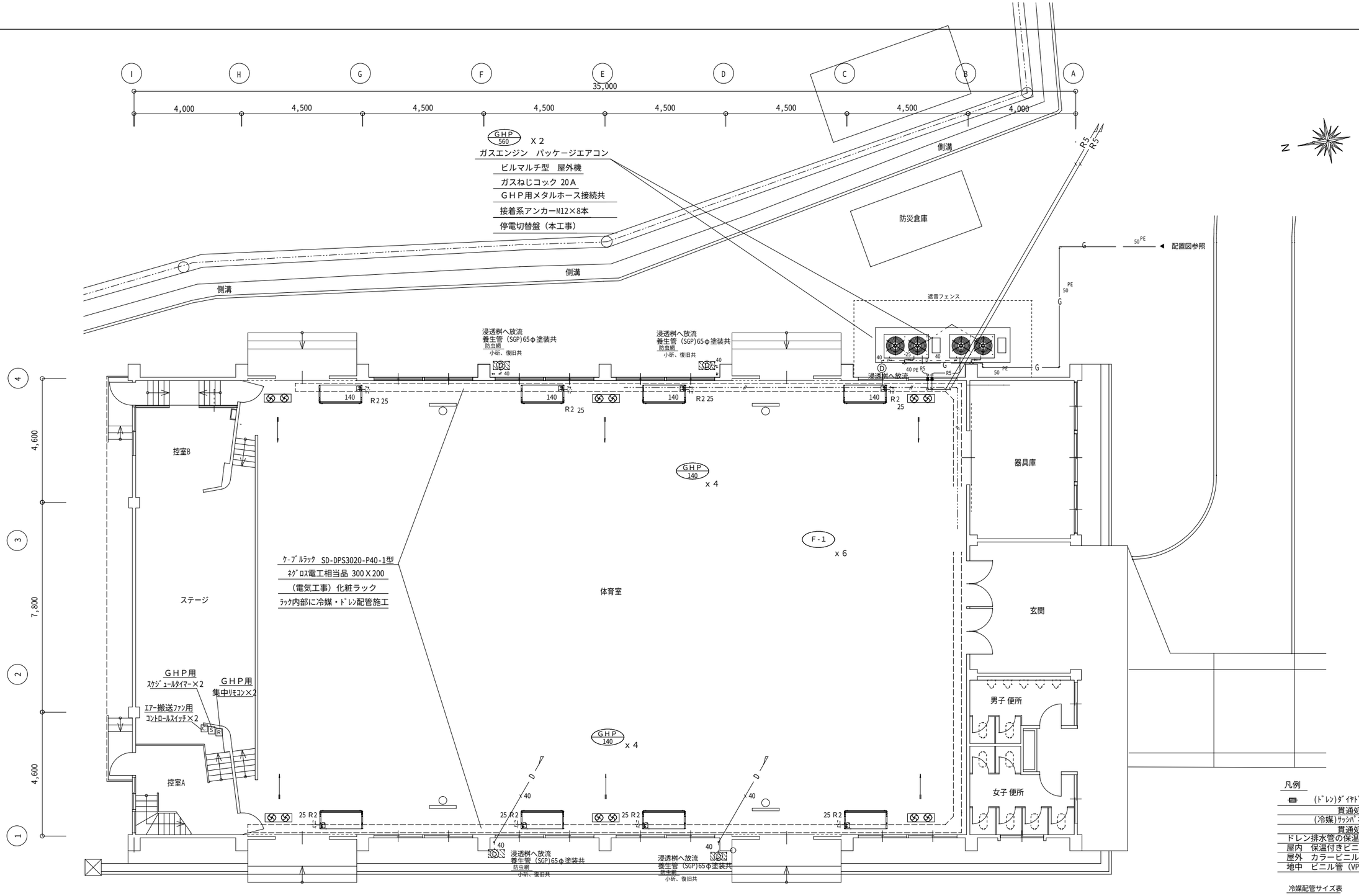
断面図

エアー搬送ファン防球ガード取付参考図　1/20

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７−１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日				1/20	No　M−06 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	機械設備工事　機器表		枚ノ内



凡例

⊟	(ﾄﾞﾚﾝ)ﾀﾞｲﾔﾄﾞﾘﾙ穴明けを示す
	貫通処理を行う
	(冷媒)ｻｯｼﾊﾟﾈﾙ穴明けを示す
	貫通処理を行う
ドレン排水管の保温仕様	
屋内	保温付きビニル管（VP管）
屋外	カラービニル管（VP管）
地中	ビニル管（VP管）

冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
R1	12.7	6.35
R2	15.88	9.52
R3	22.2	9.52
R4	28.6	12.7
R5	28.6	15.88

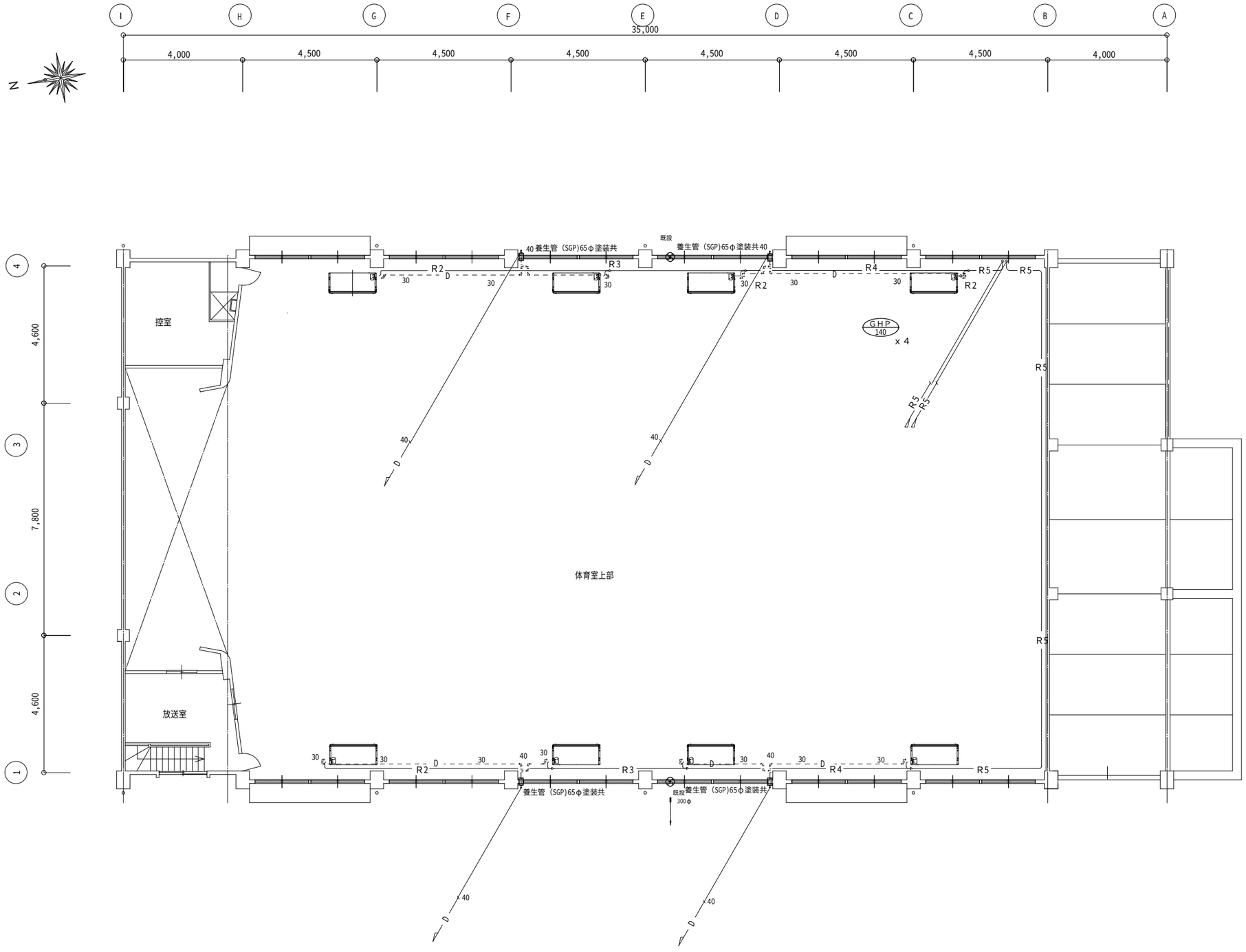
※渡り配線は冷媒共巻きとする。

１階平面図　1:100

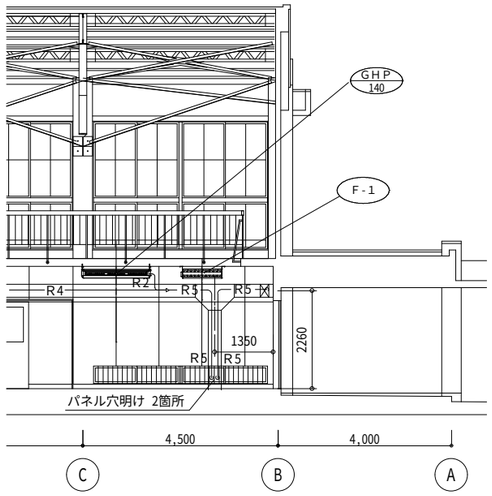
特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611−0026 京都府宇治市開町３７−１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日				1/100	No M−07 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	空調設備 １階平面図		枚ノ内



2階平面図　　1:100



展開図

凡例

⊟	(ﾄﾞﾚﾝ)ﾀﾞｲﾔﾄﾞﾘﾙ穴明けを示す 貫通処理を行う
	(冷媒)ｻｯｼﾊﾟﾈﾙ穴明けを示す 貫通処理を行う
ドレン排水管の保温仕様	
屋内	保温付きビニル管（VP管）
屋外	カラービニル管（VP管）
地中	ビニル管（VP管）

冷媒配管サイズ表

記　号	ガス管サイズ	液管サイズ
R1	12.7	6.35
R2	15.88	9.52
R3	22.2	9.52
R4	28.6	12.7
R5	28.6	15.88

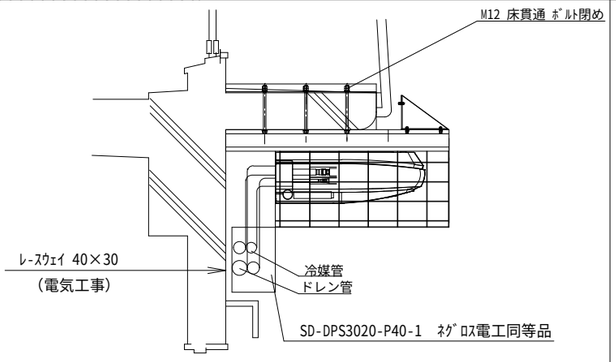
※渡り配線は冷媒共巻きとする。

特記仕様

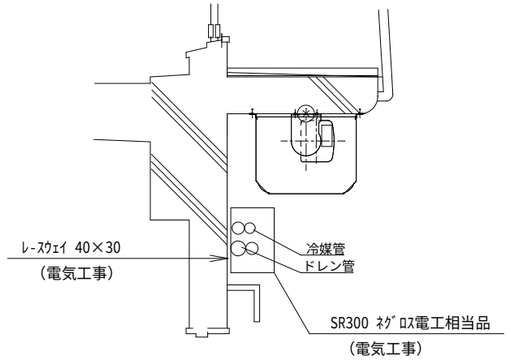
株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細　野　幹　生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日				1/100	No　Ｍ－０８ 号図
監修	設計	製図	図面名称　空調設備　２階平面図		枚ノ内

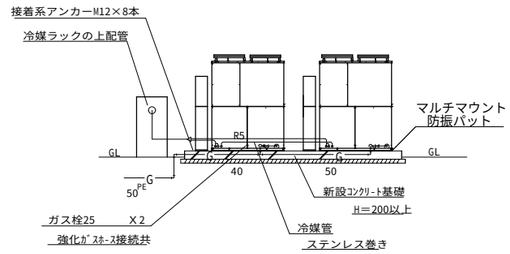
1 屋内機据付　断面図



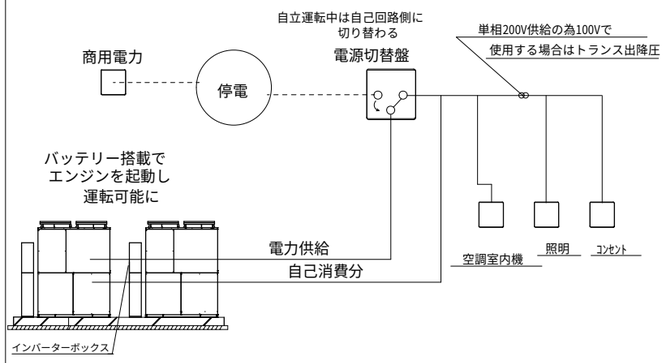
2 エアー搬送ファン取付参考図



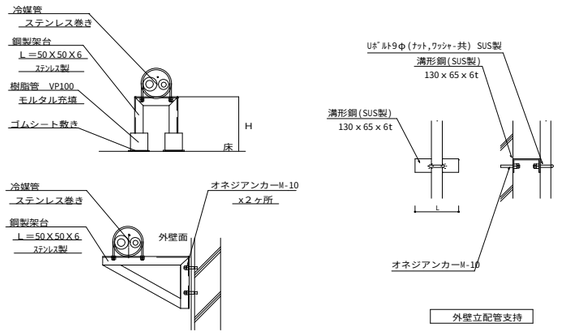
3 屋外機周り断面参考図　冷媒ラック断面参考図



4 停電時システムイメージ　参考図



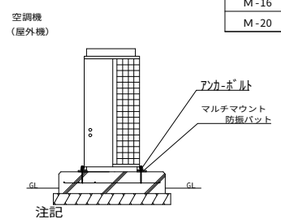
5 配管支持架台参考図



6 屋外機基礎参考図（地面設置の場合）

接着系アンカー

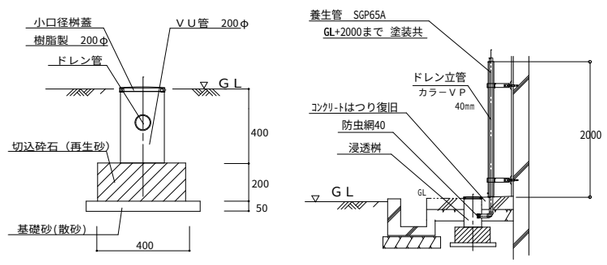
ﾎﾞﾙﾄ呼径	L(mm)	穿孔径(mm) d2
M-10	80	13.5
M-12	90	14.5
M-16	110	20.0
M-20	120	24.0



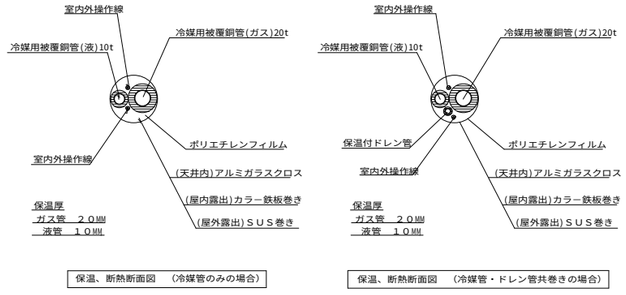
注記

1　ガスエアコン屋外ユニットは、マルチマウント防振パット敷きとすること。

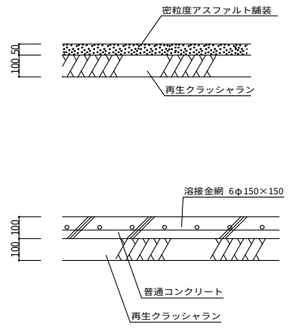
7 屋外ドレン管接続　浸透桝　養生管取付参考図



8 冷媒管保温、断熱・制御線共巻参考図



9 アスファルト舗装・コンクリート舗装詳細図



特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７−１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細　野　幹　生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
訂正年月日			
監修	設計	製図	図面名称　施工標準図・参考図

縮尺

図面番号　No　M−０９ 号図

枚ノ内

建築改修工事 特記仕様書

【1】 工事概要

1．工事場所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．敷地面積 ＿＿＿＿＿＿＿＿ ㎡

3．建築物概要

	棟名	構造	階数	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)	備考
						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修
						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修
						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修

4．その他

【2】 適用範囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。
上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和 4年版）をいう。（以下、これを「改修標仕」という。）
本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標仕」の適用を受けるものとする。

【3】 工事区分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

1,設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。
2,項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3,特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4,項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	① 適用基準等	○ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 建築工事標準詳細図 令和 4年改定 （監修：国土交通省） ○ 敷地調査共通仕様書 令和 4年改定 （監修：国土交通省） ○ 建築構造設計基準、同資料 令和 3年改定 （監修：国土交通省） ○ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 公共建築木造工事標準仕様書 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） （注：監修欄「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁営繕部を示す）
	② 建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。 下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」 にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。 （評価名簿によるもの） 床型枠用鋼製デッキプレート（ﾌﾗｯﾄﾃﾞｯｷ）、鉄骨柱下無収縮モルタル、 無収縮グラウト材（ﾌﾟﾚﾐｯｸｽ形、現場調合形）、押出成形セメント板、 成形伸縮目地材、乾式保護材(防水立上部)、陶磁器質タイル、既製調合モルタル（ﾀｲﾙ工事用）、既製調合目地材、ルーフドレン、吸水調整材（ﾓﾙﾀﾙ用）、 アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、 錠前類（ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠）、クローザー類(ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ、ﾌﾛｱヒﾝｼﾞ)、自動扉機構（制御装置・駆動装置、検出装置、 制御装置・駆動装置・検出装置）、自閉式上吊り引戸機構(手動開き式)、 重量シャッター、軽量シャッター、ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ、ガラス(ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ、型板ｶﾞﾗｽ、 網入板ｶﾞﾗｽ・線入板ｶﾞﾗｽ、熱線吸収板ｶﾞﾗｽ、倍強度ｶﾞﾗｽ、熱線反射ｶﾞﾗｽ）、 ガラスブロック(中空)、防水剤、現場発泡断熱材、ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（3000N、5000N）、 可動間仕切、移動間仕切(ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ)、トイレブ-ス、煙突用成形ライニング材、 天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム（屋上緑化システム、 屋上緑化軽量システム）、トップライト、エポキシ樹脂、 タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、 鋳鉄製ふた（マンホールふた・弁桝ふた）

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	③ 特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	④ 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速（Vo） ○ ３２ ○ （平成12年5月31日建設省告示第1454号） 地表面粗度区分 ○ Ⅰ ○ Ⅱ ○ Ⅲ ○ Ⅳ 多雪地域の指定 ○ なし ○ あり
	⑤ 現場代理人	本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第１０条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。
	⑥ 工事工程報告	月報は毎月末日に〆め、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（ ）曜日に提出する。
	⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)	適用する （適用事項は、現場説明書による）
	⑧ 設備工事との取合い	施工範囲 ○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ○ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。
	⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。
	⑩ 工事写真 (1.2.4)	工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。 下記のものを監督職員に提出する。 |	部数(ネガ1枚につき)	分類・規格	原版の大きさ（mm）
---	---	---	---
着工前	○ 1 ○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
工事中	○ 1 ○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
完成時 屋内	○ 2 ○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
完成時 屋内 (　　)箇所	○ 2 ○	○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上
完成時 外観	○ 2 ○	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上
完成時 外観 (　　)箇所		○ カラーパネル半切	○ 60×70以上	 写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。 完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。 ○ 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。
	11 電気保安技術者 (1.3.3)	適用する
	⑫ 施工条件 (1.3.5)	現場説明書による
	⑬ 発生材の処理等 (1.3.12)	○ 引渡しを要するもの （ ） ○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの （ ） ○ 指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による） ◐ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ○ 建設発生木材 ○ 指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による） ○ 指定地処分 （ ） ○ 自由処分 （ 最寄りの再資源化施設へ搬出すること ） ○ 指定副産物以外の搬出 ○ 構外搬出適切処理 ○ （ ） ○ 特別管理産業廃棄物 	種類	処理方法
---	---
○ 廃石綿等	
○ ＰＣＢを含む機器類	
○ ＰＣＢ含有シーリング	
○ 廃油	
○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）	
○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）	
○ ＳＦ６ガス使用機器		 ○ 廃石綿の処分地 （ ㈱京都環境保全公社瑞穂センター ） せっこうボードの処理方法 ○ 石綿含有せっこうボードの処理 改修標仕9.1.5による ○ ひ素・カドミウム含有のせっこうボードの処理 ○ 製造業者にて処分 ○ 埋立処分 ○ その他のせっこうボードの処理 ○ 最終処分 ○ 再資源化

章	項目	特記事項
1 一般共通事項		ＰＣＢ含有シーリング材の分析調査 ○ 行う（＿＿＿箇所） ○ 行わない ＰＣＢ含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱」による。 次の建設廃棄物は再資源化する。 ○ 蛍光灯ランプ ○ ＨＩＤランプ ○ 硬質塩化ビニル管・継手 再生資源利用［促進］計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書による。 マニフェスト制度 ○ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度により、適正な処理を行うこと。 ○ 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。
	14 石綿含有建材の調査 (1.5.1)	調査 ○ 行う 石綿の除去に当たり、あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を下記により行い、結果を取りまとめ、監督職員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。 調査範囲 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿ 調査事項 ※ 石綿使用部位の確認 ※ 石綿層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない 石綿含有分析方法 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと | 材料名	定性分析	定量分析
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ） | サンプル数 １箇所あたり３サンプル ○ 行わない 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ○ あり ○ なし
	15 調査のための破壊部分の補修 (1.6.3)	既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
	16 技能士 (1.7.2)	(1.7.2) 	工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業
---	---
仮設工事	○ とび作業
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	○ 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業
ﾌﾞﾛｯｸ及びALCﾊﾟﾈﾙ工事	○ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ○ ALCﾊﾟﾈﾙ工事作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	○ 金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工作業 ○ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ○ ｶﾞﾗｽ工事作業
防水工事	○ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ○ ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業 ○ ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ○ ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ○ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ○ 塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業 ○ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾄﾁ工法防水工事作業
石工事	○ 石張り作業
タイル工事	○ タイル張り作業
木工事	○ 大工工事作業
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業
金属工事	○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業
左官工事	○ 左官作業
塗装工事	○ 建築塗装作業
建具工事	○ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業
内装工事	○ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事作業 ○ ﾎﾞｰﾄﾞ仕上工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業
排水工事	○ 建築配管作業
舗装工事	○ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ○ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	○ 造園工事作業	 ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	17 施工の検査等 (1.7.5)	見本施工の実施 ○ 適用する（ ） ○ 適用しない
	18 化学物質の濃度測定 (1.7.9)	適用する （適用事項は、現場説明書による）
	⑲ 完成図 (1.9.2)	作成する （提出部数 ○ ２部 ○ ＿部 ） 詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。
	⑳ 保全に関する資料 (1.9.3)	作成する （提出部数 ○ ２部 ○ ＿部 ） ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。
2 仮設工事	1 足場その他 (2.1.3) (2.2.1)	労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ● 施行箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施行箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。 内部足場 ※ 脚立、足場板等 ○ ＿＿＿＿ 防護シート等 ○ 防音パネル ○ 防音シート ○ 養生シート ● ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 ○ A種 ● B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種 （表2.2.1） 足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中桟及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の２の(２)手すり据置方式又は(３)手すり先行専用足場方式を採用すること。 屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971 (屋根工事用足場及び施工方法)の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。
	2 既存部分の養生 (2.3.1)	既存部分の養生 ※ 行う（ ※ ビニールシート、合板 ○ ＿＿＿＿＿＿ ） ○ 行わない 既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う（ ※ ビニールシート ○ ＿＿＿＿＿＿ ） ○ 行わない 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ● 行わない 養生の方法 ○ 取り外しのうえ清掃 ○ ＿＿＿＿＿＿ 保管場所 ○ 室内にてカバー掛の上、適切保管 ○ ＿＿＿＿＿＿ 家具の移動 ○ 行う （ 図示 ） ● 行わない 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	3 仮設間仕切り (2.3.2)	○ 設ける （ 図示 ） | 種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填
---	---	---	---
○ A種	○ せっこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ○ 9.5mm ○ 合板 材質 ○ ﾗﾜﾝ合板 ○＿＿＿ 厚さ ○ mm ○ 9mm	○ なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/㎥ ○＿＿＿ 厚さ ○ 50mm
○ B種			
※ C種	全面シート張り			 ◐ 設けない
	4 監督職員事務所 (2.4.1)	規模 ○ 10㎡程度 ○ 20㎡程度 ○ 35㎡程度 ○ 65㎡程度 ○ 100㎡程度 仕上 床 ○ 合板張り素地 ○ ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ敷き ○ ﾊﾟﾝﾁｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 内壁、天井 ○ 合板又はせっこうﾎﾞｰﾄﾞ張り、合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り 屋根 ○ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り ○ 鉄板張り調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける（畳敷き） ○ ＿＿＿＿＿＿ 備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類ﾛｯｶｰ（上記６品、＿＿＿ 人分程度） ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ ＿＿＿＿＿＿ ○ 改修標仕（令和4年版） ○ 建築改修工事監理指針（令和4年版） ○ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図（令和4年改定） ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611−0026 京都府宇治市開町３７−１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

製図年月日	2025．01．
訂正年月日	
監修	
設計	
製図	

工事名称 木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事

図面名称 建築改修工事 特記仕様書１

縮尺

図面番号 No A−01 号図

枚ノ内

章	項目	特記事項
2 仮設工事	5 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる（ ● 有償 ○ 無償 ）
	6 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる（ ● 有償 ○ 無償 ）
	7 仮囲い等	○ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
	8 設計ＧＬ	○ 図示による ○ 設計ＧＬ＝現状ＧＬ

(2) 土・鉄筋・コンクリート工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。
なお、耐震改修工事に係る「鉄筋・コンクリート」の取り扱いは、後述の章「8 耐震改修工事」によるものとする。

① 埋め戻し及び盛土 (3.2.3) （表3.2.1）

○ A種 砂質土（山砂の類）を水締め又は機器による締固め
● B種 根切り土の中の良質土を機器による締固め
○ C種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め
○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め
○ その他（材料＿＿＿＿＿＿工法＿＿＿＿＿＿）
○ 建設発生土（盛土材）の外部からの受入土量（ ＿＿ m3）
発生場所（ ＿＿＿＿ ）

② 建設発生土の処理 (3.2.5)

下に定めるほかは、現場説明書による
○ 構外指示の受入場所に処分
受入場所 ○ (一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○ ＿＿＿＿＿＿
土壌調査 ○ 行う（受入場所指定の検査） ○ ＿＿＿＿＿＿
○ 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例
施行規則第７条第３項１３号及び第４項に規定する方法
仮置場所 ● 現場敷地内
● 構内指示の場所に敷き均し
○ 構内指示の場所にたい積

③ 鉄筋の種類 (5.2.1) （表5.2.1）

	種類の記号	径（mm）	備考
異形鉄筋	※ ＳＤ２９５	Ｄ１６以下	室外機基礎
	※ ＳＤ３４５	Ｄ１９以上	
	○		

④ 溶接金網 (5.2.2)

網目の形状、寸法 １５０×１５０ 鉄線の径 ６ mm

⑤ コンクリートの種類 (6.2.1)

種類 ※ 普通コンクリート ○ ＿＿＿＿＿＿ （表6.2.1）
類別 ※ Ⅰ類 ○ Ⅱ類

⑥ コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)

設計基準強度（Fc）

打設部位		Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	備考
構造体	基礎	○２４ ●２１	○１５ ●１８	室外機基礎
	上部	○２４ ●２１	○１５ ●１８	土間スラブを含む
土間コンクリート		○１８ ○	○１５ ○１８	
捨コンクリート		●１８ ○	○１５ ○１８	
軽量コンクリート		○２１ ○	※２１ ○１８	
無筋コンクリート		※１８ ○	○１５ ○１８	標仕6.14.1による

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
〔Ｆｃ＋構造体強度補正値(S)〕N/mm２
(6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

⑦ セメントの類別 (6.3.1)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
○ 高炉セメントＢ種 （適用箇所＿＿＿＿＿＿＿＿）
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントＢ種（施工箇所 ＿＿＿＿＿）

⑧ 骨材 (6.3.1)

粗骨材 ※ 砂利(JIS A5308),砕石(JIS A5005) ○ 高炉ｽﾗｸﾞ ○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○ 再生骨材H
細骨材 ※ 砂(JIS A5308),砕砂(JIS A5005) ○ 高炉ｽﾗｸﾞ ○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○ 銅ｽﾗｸﾞ ○ ﾌｪﾛﾆｯｹﾙｽﾗｸﾞ ○ 再生骨材H
アルカリシリカ反応性による区分 ※ A（無害） ○ ＿＿＿＿＿＿

⑨ 混和材料 (6.3.1)

○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のⅠ種(JIS A 6204)
防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
○ 混和材 ※ フライアッシュ(JIS A 6201)Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種
○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
○ コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207)
○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

⑩ 構造体強度補正値 (6.3.2)

※ 気温による構造体強度補正値（S） （表6.3.2）

予想平均気温（℃） 普通	早強	補正値 (S)	期間（打設日） 南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 N/mm2	3/6 ～ 6/30	3/11～ 7/20	3/11～ 7/10
			9/11～ 11/15	9/1 ～ 11/5	9/1 ～ 10/31
0以上 8未満	0以上 5未満	6 N/mm2	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10	11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む）

⑪ コンクリートの試験 (6.9.2)～(6.9.5)

※ フレッシュコンクリートの試験
○ 省略する

12 軽量コンクリート (6.10.1)～(6.10.3)

常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可
種類 ○ 1種 ○ 2種
施工箇所 ＿＿＿＿＿＿＿＿
気乾単位容積質量 ＿＿＿＿ t/m3

13 寒中コンクリート (6.11.1)

※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第６章第１１節（寒中コンクリート）による。

⑭ 暑中コンクリート (6.12.2)

※ 暑中における構造体強度補正値（S）

地域	日平均気温が25度を超える期間（打設日）	補正値
北部地域	7月１１日～8月３１日	※ ６N/mm2
中部地域	7月２１日～8月３１日	○ ３N/mm2
南部地域	7月 １ 日～9月１０日	

⑮ ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車１台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

3 防水改修工事

1 既存防水の処理 (3.1.4) (3.2.3)～(3.2.5)

既存保護層の撤去
○ 行う（範囲 ○ 図示による ）
● 行わない
既存防水層の撤去
○ 行う（範囲 ○ 図示による ）
● 行わない
既存露出防水層表面の仕上塗装の除去
○ 行う（ ○M4AS ○M4ASI ○M4C ○M4DI ○L4X） ● 行わない

2 既存下地の処理 (3.2.6)

既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ● 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿

3 アスファルト防水 (3.2.2)～(3.2.5)

○ 屋根保護防水工法

種別			防水層	施工箇所
○Ｐ１Ｂ 工法	○ B-1	○ B-2	表3.3.3	
○Ｐ１ＢⅠ工法	○ BI-1	○ BI-2	表3.3.4	
○Ｐ２ＡⅠ工法	○ AI-1	○ AI-2	表3.3.5	
	○ AI-3			
○Ｐ２Ａ 工法	○ A-1	○ A-2	表3.3.6	
	○ A-3			

○ 屋根露出防水工法

種別			防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○Ｍ４Ｃ 工法	○ C-1	○ C-2	表3.3.7			
	○ C-3	○ C-4				
○Ｍ３Ｄ 工法	○ D-1	○ D-2	表3.3.8			
○Ｐ０Ｄ 工法						

○ 屋根露出防水絶縁断熱工法

種別			防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○Ｐ０ＤⅠ工法						
○Ｍ３ＤⅠ工法	○ DI-1	○ DI-2	表3.3.9			
○Ｍ４ＤⅠ工法						

○ 屋内防水工法

種別			防水層	施工箇所
○Ｐ１Ｅ 工法	○ E-1	○ E-2	表3.3.10	
○Ｐ２Ｅ 工法				

○ 断熱材（屋根保護防水断熱工法）
厚さ ＿＿＿ mm

○ 断熱材（屋根露出防水断熱工法）
厚さ ３０ mm
種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿

ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上（保護防水工法）
※ フラットヤーンクロス（70g/m²程度）
○

立上り部の押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○
立上がり部の保護 ○ 乾式保護材
○ 窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様)(厚さ＿＿＿ 幅＿＿＿)
○ 窯業系パネルⅡ類（一般地仕様)(厚さ＿＿＿ 幅＿＿＿)
○ 普通れんが(JIS R 1250) ○ 化粧れんが(JIS R 1250)
○ コンクリート（工法＿＿＿＿＿＿）
保護層 平場の保護コンクリート厚さ ○ ＿＿＿ mm
○ こて仕上げ＿＿＿ mm
○ 床タイル張り等仕上げ＿＿＿ mm
コンクリート仕上がりの平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種 （表8.1.5）
脱気装置 ○ 設ける 材種（ ）
設置数量 （ １箇所／＿＿ m² ）
伸縮目地 ※ 成形伸縮目地材 ○ ＿＿＿＿＿＿
成形緩衝材 ※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の指定品 ○ ＿＿＿＿＿＿
屋上排水溝 ※ 図示による

4 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)～(3.4.4)

○ 屋根露出防水密着工法

種別			防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○Ｍ４ＡＳ工法	○ AS-T1	○ AS-T2	表3.4.1			
	○ AS-J2					

○ 屋根露出防水絶縁工法

種別			防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○Ｍ３ＡＳ工法	○ AS-T3	○ AS-T4	表3.4.2			
○Ｐ０ＡＳ工法	○ AS-J1	○ AS-J3				

○ 屋根露出防水絶縁断熱工法

種別			防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○Ｍ３ＡＳⅠ工法	○ AS-T1		表3.4.3			
○Ｍ４ＡＳⅠ工法	○ AS1-J1					
○Ｐ０ＡＳⅠ工法						

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度 ○ ＿＿＿＿
断熱材（屋根露出防水絶縁断熱工法）
厚さ＿＿＿ mm
種類 ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
脱気装置（絶縁工法）※ 設ける 材種（ ） 設置数量 （1箇所/＿＿＿ m²）
防湿層（屋根露出防水絶縁断熱工法） ○ 設ける ○ 設けない

5 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 (3.5.2)～(3.5.4)

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○Ｐ０Ｓ 工法	○ S(I)-F1	表3.5.1 表3.5.2 表3.5.3	○＿＿＿ ○ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
●Ｓ４Ｓ 工法	PC部材入隅増張 （※有り ○無し）				
○Ｐ０ＳⅠ工法	○ S(I)-F2 ○ S(I)-M1				
●Ｓ４ＳⅠ工法	● S(I)-M2				
○Ｓ３Ｓ 工法	○ S(I)-F1		○＿＿＿ ○ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
○Ｓ３ＳⅠ工法	PC部材入隅増張 （※有り ○無し）				
	○ S(I)-F2				
○Ｍ４Ｓ 工法	○ S(I)-M1 ● S(I)-M2		○＿＿＿ ○ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
●Ｍ４ＳⅠ工法					
○Ｐ１Ｓ 工法	○ S-C1		ﾓﾙﾀﾙ塗り厚さ ＿＿＿ mm		

S-F1、S-M1、S-M2の仕様
※ 非歩行仕様
○ 軽歩行仕様

断熱材（断熱工法）
厚さ ● ３０ mm
種類
機械的固定工法の場合
● 硬質ウレタンフォーム
接着工法の場合
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２の場合の防湿用フィルム ○ 設置する

接着工法の場合で、ＰＣｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の場合
目地処理 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
入隅部の増張り（Ｓ-Ｆ１、ＳＩ-Ｆ１の場合） ※ 図示による ○ ＿＿＿＿
絶縁用シート及び可塑剤移行防止用シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○ ＿＿＿＿
仕上げ塗料 ○ ｶﾗｰ ○ ｼﾙﾊﾞｰ
脱気装置（絶縁工法）※ 設ける 材種（ ） 設置数量 （1箇所/＿＿＿ m²）
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。
固定金具の材質及び寸法形状
※ 防錆処理した鋼板、ｽﾃﾝﾚｽ鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

6 塗膜防水 (3.6.2)～(3.6.3)

種別及び工程		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ＰＯＸ 工法	※ X-1 ○ X-2 ○ X-1H ○ X-2H	表3.6.1 表3.6.2			
●Ｌ４Ｘ 工法	○ X-1 ※ X-2 ○ X-1H ○ X-2H				
○Ｐ１Ｙ 工法	※ Y-2	表3.6.3			
○Ｐ２Ｙ 工法	○＿＿				

脱気装置(X-1) ○ 設ける 材種（ ） 設置数量 （1箇所/＿＿＿ m²）
保護層 ○ 設ける ● 設けない
● 既存防水層撤去のこと。（別図参照）

7 漏水試験

※ 水張り試験を行う （ ○ 屋内 ● 屋外 ）

8 保証書

※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。
（保証年限は工事目的物引渡しより１０年間以上とする。）

9 施工標識

工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。
材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ ＿＿＿＿＿＿
設置数量 （ １ ） 箇所

10 シーリング (3.1.4) (3.7.2)～(3.7.8)

シーリング材の種類 ※ 改修標仕 表3.7.1による

シーリング改修工法及び施工箇所

改修工法の種別	施工箇所
○ シーリング充填工法	
● シーリング再充填工法	既存ｼｰﾘﾝｸﾞ部(PC版・RCｼﾞｮｲﾝﾄ、建具廻り等共)
○ 拡幅シーリング再充填工法	
○ ブリッジ工法	

仕上げを行わない施工箇所（ ○ 図示による ） ○ ＿＿＿
目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地
※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ ＿＿＿＿＿＿
ガラス回りの目地
※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ ＿＿＿＿＿＿
その他の目地
※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ ＿＿＿＿＿＿

シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験 （部位 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 引張接着性試験 （部位 ＿＿＿＿＿＿ ）

11 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)

※ 外とい（外気に接するとい）

	材種	その他
ルーフドレン	※ ルーフドレン（JCW 301） ● 改修用塩ビドレン	取付け ○ ※水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する
軒どい	○ 硬質塩化ビニル製（角形） ○	（前高） 巾120mm （カラー）巾150mm
たてとい	● 硬質塩化ビニル管（VP） ○	（カラー）径 75mm
谷どい	○	
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの ○	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No Ａ－０２ 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	建築改修工事 特記仕様書２		枚ノ内

章	項目	特記事項

3 防水改修工事

○ 内とい（ＶＰ管は使用しない）

	材質	その他
たてとい及び横走り管	○ SGP ○	径 75㎜
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの ○	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下
防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による	※F☆☆☆☆

※ 掃除口を設ける（開放性のある自転車置き場のといを除く）
○ 養生鉄管を設ける（径＿＿ 厚さ＿＿ 長さ＿＿）
○ 既存といの撤去及び養生 （ ）
○ 鋼管製といの防露巻 （ ※ 改修標仕表3.8.4による ○ ＿＿＿＿）
○ たてとい受金物（ ）

12 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)

(表3.9.1)(表5.2.2)

種類	幅	板厚(mm)	表面処理		備考
○ 250 形	250	1.6	○ AB-1種	○ AB-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。
○ 300 形	300	1.8	○ AC-1種	○ AC-2種	
○ 350 形	350	2.0	○ BA-1種	○ BA-2種	
○			○ BB-1種	○ BB-2種	
曲げ材 ○＿＿		※ 2.0	○ BC-1種	○ BC-2種	
○オープン形式		○＿＿	○ C種		
○シール形式					

既存笠木等の撤去 ● 行う （範囲 ● 図示 SUS製 ）
● 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ○
板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○
建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法
※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿

4 外壁改修工事

1 施工数量調査 (1.6.2)

調査範囲 ● 外壁改修範囲 ○ 図示の範囲
調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。
モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○ 図示 ○ ＿＿＿＿
調査報告書の部数 ● 2部 ○ ＿＿＿＿
※ 施工に先立ち、建築仕上診断技術者（BELCA）による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。

2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.4) ～(4.2.7)

● コンクリート打放し仕上げ
● 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○＿＿＿＿	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○＿＿＿＿	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○＿＿＿＿	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○＿＿＿＿	○130

コア抜取り検査 ○ 行う ● 行わない （注入状況確認方法 ＿＿＿＿）
抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ ＿＿＿＿
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ● 無収縮モルタル充填
○ Ｕカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料 ※ １成分形又は２成分形ポリウレタン系 ○ ＿＿＿＿
ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シール工法
○ パテ状エポキシ樹脂
○ 可とう性エポキシ樹脂

(4.1.4) (4.3.5) ～(4.3.8)

○ モルタル塗り仕上げ
○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○	○130

コア抜取り検査 ○ 行う ○ 行わない
抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ ＿＿＿＿
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ Ｕカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料 ※ １成分形又は２成分形ポリウレタン系 ○ ＿＿＿＿
ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シール工法
○ パテ状エポキシ樹脂
○ 可とう性エポキシ樹脂

(4.1.4) (4.4.5) ～(4.4.6)

○ タイル張り仕上げ
○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○	○130

ひび割れ部の注入状況の確認
○ コア抜取り検査
抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ ＿＿＿＿＿＿

タイル撤去後の補修

工法	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル	
	○ 変成シリコーン樹脂	
	○ ウレタン樹脂	
○ タイル張替え工法		

3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.4) (4.2.7)

● コンクリート打放し仕上げ

工法	材料	施工箇所
● 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル	基礎、PC版
	○ ポリマーセメントモルタル	

(4.1.4) (4.3.9)

○ モルタル塗り仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル	
	○ ポリマーセメントモルタル	
○ モルタル塗替え工法	※ 改修標仕表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25㎜を超える場合の処置 ※ 図示 ○

(4.1.4) (4.4.5) (4.4.7) ～(4.4.8)

○ タイル張り仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル	
	○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	
○ タイル張替え工法	○ 張付けモルタル	
	○ 現場調合材料	
	○ 既調合モルタル	
	○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ○ 改修標準仕様書4.4.2による ○
タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験
○ 行う ○ 行わない
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ セメントモルタルによるタイル張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○
タイル張りの工法
外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り
外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
○ 有機系接着剤によるタイル張り
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコーン系 ○
タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル

4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) ～(4.3.16)

○ モルタル塗り仕上げ

工法	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）一般部	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）指定部	注入口（箇所/㎡）一般部	注入口（箇所/㎡）指定部	充填量（箇所/ml）	注入量（箇所/ml）	施工箇所
● ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ部分	※16 ○				※25 ○		ＲＣ部
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※25 ○						
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※13 ○		※12 ○			※25 ○	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※20 ○		※20 ○				
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※13 ○		※12 ○			※50 ○	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※20 ○		※20 ○				
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ部分	※ 9 ○				※25 ○		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○						
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※ 9 ○		※ 9 ○			※25 ○	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○		※16 ○				
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※ 9 ○		※ 9 ○			※50 ○	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※16 ○		※16 ○				
○注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ					※25 ○	※25 ○	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ｱｲﾙ固定工法							

アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4㎜の丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
○

注入口付アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径6㎜程度
○

注入工法用材料
○ ポリマーセメントスラリー

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm2)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上

保水係数 0.35～0.55
粘調係数 0.50～1.00
○ 充填工法用材料
○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル
○ モルタル塗替え工法用材料
既製目地材 ○ 使用する（形状 ）
仕上げ厚又は全塗厚が25㎜を超える場合の処置 ※ 図示 ○

(4.1.4) (4.4.5) (4.4.9) ～(4.4.15)

○ タイル張り仕上げ

工法	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）一般部	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）指定部	注入口（箇所/㎡）一般部	注入口（箇所/㎡）指定部	充填量（箇所/ml）	注入量（箇所/ml）	施工箇所
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ部分	※16 ○				※25 ○		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※25 ○						
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※13 ○		※12 ○			※25 ○	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※20 ○		※20 ○				
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※13 ○		※12 ○			※50 ○	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※20 ○		※20 ○				
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ部分	※ 9 ○				※25 ○		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○						
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※ 9 ○		※ 9 ○			※25 ○	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○		※16 ○				
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ全面	※ 9 ○		※ 9 ○			※50 ○	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※16 ○		※16 ○				
○注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ					※25 ○	※25 ○	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ｱｲﾙ固定工法							

アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4㎜の丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
○ ＿＿＿＿＿＿

注入口付アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径6㎜程度
○ ＿＿＿＿＿＿

工法	1箇所の面積(㎡)	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル	
		○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	
○ タイル張替え工法		○ 張付けモルタル	
		○ 現場調合材料	
		○ 既調合モルタル	
		○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○
タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験
○ 行う ○ 行わない
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ セメントモルタルによるタイル張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○
タイル張りの工法
外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り
外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
○ 有機系接着剤によるタイル張り
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコーン系 ○
タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル

5 目地改修工法 (4.1.4) (4.4.5) (4.4.16)

タイル張り仕上げ
○ 目地ひび割れ部改修工法
○ 伸縮調整目地改修工法
位置 ※ 改修標仕表4.4.2による ○ 図示による
寸法(幅×深さ)
ｺﾝｸﾘｰﾄ打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ 20㎜以上×10㎜以上 ○ ＿＿＿＿
その他 ※ 10㎜以上×10㎜以上 ○ ＿＿＿＿

6 樹脂注入工法 (4.2.4) (4.2.5)

建築補修用注入エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ○ 中粘度形

ひび割れの幅 (mm)	0.2～0.3未満	0.3～0.5未満	0.5～1.0以下
注入孔の間隔 (mm)	２００程度	３００程度	３００程度
注入量 (cc/mm)			

※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法
○ 機械式エポキシ樹脂注入工法

ひび割れ部の注入状況の確認
○ コア抜取り検査
（抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき１個 ○ ＿＿＿＿）
（抜取り部分の補修方法 ＿＿＿＿＿＿）
○ ＿＿＿＿＿＿

7 Ｕカットシール材充填工法 (4.2.6)

シーリング材の上にポリマーセメントモルタル
○ 行う

8 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ注入工法 (4.3.5)

アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒
○ ＿＿＿＿＿＿

9 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝｸﾞ注入工法 (4.3.5)

注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径外径6㎜程度
○ ＿＿＿＿＿＿

10 モルタル塗替え工法 (4.3.5)

モルタル ○ 現場調合材料
○ 既調合材料（ ）
既製目地材 ○ 使用する（形状 ）

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
訂正年月日			
監修	設計	製図	
図面名称	建築改修工事 特記仕様書３		

縮尺

図面番号 No Ａ－０３ 号図

枚ノ内

章	項目	特記事項

4 外壁改修工事

11 ﾀｲﾙ部分張替え工法及びﾀｲﾙ張替え工法 (4.4.5) (4.4.7) ～(4.4.8)

施工箇所及びタイルの種別	形状寸法(mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他
○ 図示		○ 磁器 ○ せっ器 ○ 陶器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	○ 有り ○ 無し		

○ 既調合モルタル（ ＿＿＿＿＿＿ ）
タイルの試験張り　※ 行わない　○ 行う（施工箇所 ＿＿＿＿ ）
タイルの見本焼　※ 行わない　○ 行う（範囲、仕様は図示による）
施工後の確認及び試験（タイル部分張替え工法を除く）
浮きの確認　※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験　※ 接着力試験機による接着力試験を行う　○ 行わない

12 窓下人研面台の補修

タイル張替え工法の伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置　※ 改修標仕表4.4.2による　○ 図示による

⑬ 仕上塗材 (4.1.5) (4.5.2) (4.5.6)

○ シール工法　（※仕上げ塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。）
※ 塗膜防水　（※弾性ウレタン系　○エポキシ系　 ）

薄付け仕上塗材（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ		工法	備考
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
● 外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
	● ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
	○ 着色骨材砂壁状		○こて塗り	○吹付け
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 防水形外装薄塗材E（ ○ 増塗材 ）	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラ-塗り	
	○ 凹凸状		吹付け	
○ 外装薄塗材S	砂壁状		吹付け	

厚付け仕上塗材　（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ		工法	備考
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け	
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
（ ○ 上塗材 ）	○ ひき起こし	○ かき落とし		
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け	
○ 外装厚塗材E	○ 平たん状	○ 凹凸状	○こて塗り	
（ ○ 上塗材 ）	○ ひき起こし		○ローラ-塗り	

複層仕上塗材　（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ		工法	備考
○ 複層塗材CE	○ 凸部処理		吹付け	
○ 複層塗材Si	○ 凹凸状			
○ 複層塗材E				
○ 複層塗材RE	○ ゆず肌状		ローラ-塗り	
○ 可とう形複層塗材CE	○ 凸部処理	○ 凹凸状	吹付け	
	○ ゆず肌状		ローラ-塗り	
○ 防水形複層塗材CE	○ 凸部処理		吹付け	
○ 防水形複層塗材E	○ 凹凸状		（○増塗材）	
○ 防水形複層塗材RE	○ ゆず肌状		ローラ-塗り	

※参考メーカー：エスケー化研（株）、菊水化学工業（株）、日本ペイント（株）

可とう形改修用仕上塗材　（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ	工法	備考
○ 可とう形改修塗材E	○ 平たん状	ローラ-塗り	
○ 可とう形改修塗材RE	○ さざ波状	ローラ-塗り	
○ 可とう形改修塗材CE	○ ゆず肌状	吹付け	

防火材料の指定　※ なし　○ ＿＿＿＿＿＿
下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修
※ 行う　（参考工法：＿＿＿＿＿＿　製造所：＿＿＿＿＿＿ ）
○ 行わない

仕上塗材の耐候性　※ 耐候形３種　● 耐候形１種
仕上塗材の上塗材　溶媒　※ 水系　○ ＿＿＿＿
樹脂　※ アクリル系　● シリコン系
外観　※ つや有　○ つやなし　○ メタリック

⑭ 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.5.4) (4.5.5)

既存塗膜の除去方法　※ 試験施工実施
○ サンダー工法
○ 高圧水洗工法（試験施工実施）（加圧力 ○ 30Mpa ○ ＿＿＿＿ ）
○ 塗膜はく離剤工法（製造所：＿＿＿＿ ）
● 水洗い工法　（ ○ ﾃﾞｯｷﾌﾞﾗｼ　○ 高圧ﾎﾟﾝﾌﾟ10～15pa ）
既存塗膜の除去範囲
※ 既存仕上げ面全体　○ 既存壁面の（＿＿＿%）　○ 別図に示す範囲

4 外壁改修工事

下地処理　下地のひび割れ部等の補修　○ 図示による
下地調整材　※ セメント系下地調整材（JIS A 6916）
○ ポリマーセメントモルタル
○ 防水形仕上塗材主材（JIS A 6910(複層仕上塗材)）

15 マスチック塗材塗り (4.1.5) (4.6.2)

種別　○ A種　※ B種　(表4.6.1)

16 部分改修工法 (4.5.7)

仕上げ塗材の種類　○ 薄付け仕上塗材　○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材
○ 防水形複層仕上塗材　○ マスチック塗材
施工箇所　○ 別図に示す範囲　○ ＿＿＿＿＿＿

17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.7.2) (4.7.3)

外壁用塗膜防水塗り
仕上げの形状 ＿＿＿＿＿＿ 工法 ＿＿＿＿＿＿
外壁用仕上げ塗材の耐候性　○ ＿＿＿＿＿＿
下地挙動緩衝材の適用　○ 適用する　○ 適用しない
吹付け工法の模様材の種類　＿＿＿＿＿＿　所要量 ＿＿＿＿ (kg/㎡)
外壁用仕上げ塗材の種類　＿＿＿＿＿＿　所要量 ＿＿＿＿ (kg/㎡)

5 建具改修工事

1 性能

※ 「第１章　一般共通事項　4　風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

2 施工数量調査 (1.6.2)

※ 行う（ ○ 建具金物　○ ガラス　○ ガラス止め材　○ ＿＿＿＿ ）
※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。
○ 行わない

3 改修工法 (5.1.3)

既存建具を新規建具に改修する場合
※ かぶせ工法（ ○ カバー工法　○ 持出し工法　○ ノンシール工法 ）
○ 撤去工法　（ ○ はつり工法　○ 引き抜き工法 ）
新規に建具を設置する場合
新規建具を設ける壁の開口方法　※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿
新規建具周囲の補修工法及び範囲　※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿

4 防火戸 (5.1.4)

※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
○ 連動させる　（※建具表による ○ ＿＿＿＿ ）
○ 連動させない

5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)

建具見本の製作　○ 行う　（建具番号 ＿＿＿＿＿＿ ）
特殊な建具の仮組　○ 行う　（建具番号 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ ブラインドボックス等の再使用　（ ＿＿＿＿＿＿ ）

6 防犯建物部品 (5.1.7)

開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所
・ ドア　適用箇所（ ＿＿＿＿＿＿ ）
・ サッシ　適用箇所（ ＿＿＿＿＿＿ ）
・ シャッター　適用箇所（ ＿＿＿＿＿＿ ）

7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ～(5.2.5)

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級　(表5.2.1)

性能等級	○ A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	※ S－4 ○	※ S－5 ○	※ S－6 ○
気密性	※ A－3 ○		※ A－4 ○
水密性	※ W－4 ○		※ W－5 ○
枠見込み(mm)	※ 図示　○ 70	○ 100	○ 図示　○

表面処理　(表5.2.2)

種別	色	施工箇所
○ BB－1種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による　○
○ BB－2種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による　○
○	○ 標準 ○ 特注	
○	○ 標準 ○ 特注	
○	○ 標準 ○ 特注	

○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）

結露水の処理方法　○ 水貯め式　○ 排水式　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
水切り、ぜん板等　※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○ ＿＿＿＿＿＿

5 建具改修工事

8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3)

防虫網　網の種別　※ 合成樹脂製　○ ガラス繊維入り合成樹脂製
○ ステンレス製（SUS316）
形式　※ 外部可動式　○ 固定式
線径、網目　※ 0.25mm以上、16～18メッシュ　○ ＿＿＿＿＿＿
防鳥網　○ 設置する

9 樹脂製建具 (5.3.2) ～(5.3.5)

外部に面する樹脂製建具の性能等級　(表5.3.1)

性能等級	○ A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	※ S－4 ○	※ S－5 ○	※ S－6 ○
気密性	※ A－4 ○		
水密性	※ W－4 ○	※ W－5 ○	
枠見込み(mm)	※ 図示　○		

○ 防音ドア、防音サッシとする場合(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○ ＿＿＿＿)
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合(断熱性の等級 ○H-4 ○H-5 ○H-6 ○H-7 ○H-8)

ガラス　※ 複層ガラス　○ 単板ガラス　○ 三重ガラス　○ ＿＿＿＿
表面色　○ 標準色　○ 特注色
水切り、ぜん板等　※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○ ＿＿＿＿＿＿

10 鋼製建具 (5.2.2) (5.4.2) ～(5.4.4)

外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性能の等級（ ○ ＿＿＿＿ ）(表5.2.1)
簡易気密扉の気密性、水密性　※ 適用する　○ 適用しない　(表5.4.1)
○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）

JISただし書き建具の寸法許容差（これ以外は改修標仕による）
※ 製造所標準製作規定寸法許容差による
鋼板類の厚さ　※ 表5.4.2（片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く）
○ ＿＿＿mm
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○ ＿＿＿＿＿＿
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※ 建具表による

11 鋼製軽量建具 (5.2.2) (5.5.2) ～(5.5.4)

簡易気密型ドアセットの気密性　※ 適用する（A－3）　○ 適用しない
○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）

鋼板　※ 表面処理亜鉛めっき鋼板　○ ビニル被覆鋼板
○ カラー鋼板
鋼板類の厚さ　※ 表5.5.1（片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く）
○ ＿＿＿mm
召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板　○ 　　)
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○ ＿＿＿＿＿＿
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法　※ 建具表による

12 ステンレス製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.6.2) ～(5.6.5)

外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性能の等級（ ○ ＿＿＿＿ ）(表5.2.1)
簡易気密扉の気密性、水密性　※ 適用する　○ 適用しない　(表5.4.1)
○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3 ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ○H-2 ○H-3 ）
○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2 ）

ステンレス鋼板の種類　○SUS304 ○SUS430J1L ○SUS443J1 ○ ＿＿＿＿
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○ ＿＿＿＿＿＿

JISただし書き建具の寸法許容差
※ 製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ　※ HL　○ 鏡面仕上げ
曲げ加工　※ 普通曲げ　○ 角出し曲げ

5 建具改修工事

13 建具用金物 (5.8.2) ～(5.8.4)

マスターキーの製作
※ 作成する　（＿＿＿ グループ、各グループ＿＿＿個）　○ 作成しない
○ 在来マスターキーに合わせる
鍵の制作本数　※ 3本1組（室名札付き）　○ ＿＿＿＿＿＿
鍵箱　※ 無　○ 有

開き戸　(表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
○ シリンダー箱錠	○ 握り玉：ｽﾃﾝﾚｽ ○ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金， （○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅 ） ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ：ｽﾃﾝﾚｽ	○ 取付位置 （　　） 実用性能項目 ※ ｸﾞﾚｰﾄﾞ３以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ｽﾃﾝﾚｽ建具) ○ 耐じん性能のｸﾞﾚｰﾄﾞ ○
○ 本締り錠	ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ：ｽﾃﾝﾚｽ	実用性能項目 ※ ｸﾞﾚｰﾄﾞ３以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ｽﾃﾝﾚｽ建具) ○ 耐じん性能のｸﾞﾚｰﾄﾞ ○
○ 空錠	○ 握り玉：ｽﾃﾝﾚｽ ○ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金， （○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅 ）	○ 取付位置 （　　）
○ グレモン錠	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ:亜鉛合金，(○ｽﾃﾝﾚｽ)	○ 取付位置 （　　）
ケースハンドル錠	ステンレス	
点検口錠	亜鉛合金程度，(○ｽﾃﾝﾚｽ)	
丁番	ｽﾃﾝﾚｽ，(○黄銅)	
○ ピボットヒンジ	ｶﾊﾞｰ部:ｽﾃﾝﾚｽ，(○亜鉛合金)	亜鉛合金は木製建具用のみ
点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き
○ フロアヒンジ	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ，(本体は鋼)	ドアクローザー
○ ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ(丁番型)	鋼（焼付け塗装 ）	○ 遅延閉り機能付き
○ ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ(ﾋﾟﾎﾞｯﾄ型)	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ，(本体は鋼)	
○ ドアクローザー	本体：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ｱｰﾑ部：鋼（焼付け塗装 ）	
閉鎖順位調整器	ｽﾃﾝﾚｽ，（○鋼 ）	
○ 押棒・押板	(○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅，○合成樹脂)	○ 取付位置 （　　）
上げ落し（フランス落し）	亜鉛合金程度，(○ｽﾃﾝﾚｽ)	
○ ｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ	鋼（ｸﾛｰﾑめっき），（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
戸当り	亜鉛合金程度，(○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅)	○ あおり止め付き

引戸　(表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
引戸用錠	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合:ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ等はｽﾃﾝﾚｽ
○ クレセント		○ 取付位置 （　　）
引手類		木製建具の場合:ｽﾃﾝﾚｽ （○黄銅）
戸車（上吊りの場合を除く）		
レール（上吊りの場合を除く）	ステンレス， （○ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金　○黄銅 ）	黄銅は木製建具用のみ

窓　(表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
クレセント・調整器・ヒンジ等	建具製作所の仕様による。	

金属製建具用丁番　※ 表 5.8.2による　○ ＿＿＿＿＿＿
樹脂製建具用丁番　※ 表 5.8.3による　○ ＿＿＿＿＿＿

14 自動ﾄﾞｱ開閉装置 (5.9.2) ～(5.9.3)

駆動装置及び検出装置の性能
○ 引き戸用駆動装置性能値
※ 改修標仕 表5.9.1による（○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2）
○

種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源

○ 車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置性能値
※ 改修標仕 表5.9.2による
○

耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No　A－04 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	建築改修工事　特記仕様書４		枚ノ内

章	項目	特記事項

5 建具改修工事

○ 引き戸用検出装置性能値
※ 改修標仕 表5.9.3による
○

放射無線周波数電磁界耐性	耐電圧	防錆	防滴	電源

戸の開閉方式　※ 建具表による　○ _____
引き戸検出装置の種類　○ 表 5.9.4 (_____) による　※ 建具表による
タッチスイッチの種類　○ 無線式タッチスイッチ　○ 光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房　○ 大形押しボタンスイッチ　○ 非接触スイッチ
凍結防止措置　○ 行う

15 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3)

性能値等の区分 (表5.10.1)

適用戸の総質量(kg)	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力(N)	※15以下　○	※20以下　○
手動閉じ力(N)	※15以下　○	※20以下　○

性能等 _____
品質・規格 _____

16 重量シャッター (5.11.2)～(5.11.4)

種　類　○ 管理用シャッター (ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ○ 設ける) 耐風圧強度 (_____)
○ 外壁用防火シャッター(ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ※ 設ける) 耐風圧強度 (_____)
○ 屋内用防火シャッター(ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ※ 設ける)
○ 屋内用防煙シャッター(ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ※ 設ける)
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 _____ Pa
開閉方式　※ 電動式（手動併用）　○ 手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所　※ 図示による　○ _____
スラット及びシャッターケース用鋼板

材質	めっきの付着量
○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの　○
○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの　○

17 軽量シャッター (5.12.2)～(5.12.4)

開閉方式　○ 電動式（手動併用）　※ 手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所　※ 図示による　○ _____
耐風圧強度 _____ Pa
スラット

材質	めっきの付着量	形状
○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロッキング形
○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形

18 オーバーヘッドドア (5.13.2)～(5.13.4)

セクション材　※ スチールタイプ　○ アルミニウムタイプ　○ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ
耐風圧性能 _____ Pa
開閉方式　※ バランス式　○ チェーン式　○ 電動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所　※ 図示による　○ _____
収納形式　○ スタンダード形　○ ローヘッド形
○ ハイリフト形　○ バーチカル形
ガイドレール等　※ 溶融亜鉛めっき鋼板　○ ステンレス鋼板

19 ガラス (5.14.2)～(5.14.4)

材料

種別	種類等	種別	種類等
○ ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ		○ 強化ガラス	
○ 型板ガラス		○ 熱線吸収板ｶﾞﾗｽ	
○ 網入板ガラス		○ 複層ガラス	
○ 線入板ガラス		○ 熱線反射ｶﾞﾗｽ	
○ 合わせガラス		○ 倍強度ガラス	
○		○	

ガラス溝の大きさ (図5.14.1)

種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代
○ アルミニウム建具	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による
○ 鋼製建具			
○ ステンレス建具	○	○	○
○	○	○	○

20 ガラス留め材 (5.14.2)

建具の種類	材質
アルミニウム製	※ シーリング材(SR-1)　○ グレイジングチャンネル
樹脂製	○ グレイジングチャンネル
鋼製・銅製軽量・ステンレス製	※ シーリング材(SR-1)　○ パテ　※ １種　○ ２種
木製	※ パテ（木製用）

※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※ 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

21 ガラスブロック (5.14.5)

寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	パターン	防火認定
×	○ ○ 図示	○ クリア　○ ｶﾗｰ(　) ○ 乳白　○ 熱線反射		※ なし ○ あり

※ 品質規格はJIS A5212 による
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。

○ 壁用金属枠及び補強材 _____
○ 力骨　材質　※ SUS304　○ _____
寸法・形状　※ 径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋　○ _____
○ シーリング　※ 表3.7.1による　○ SR-1　○ PS-1　○ _____
○ 化粧目地モルタルの色　○ 白　○ グレー
○ 金属製化粧カバー　材質　○ SUS304　○ _____
寸法・形状　※ 図示による　○ _____
○ 目地幅の寸法
○ 平積みの場合　※ 8mm以上、15mm以下　○ _____
○ 曲面積みの場合　※ 外側15mm以下、内側6mm以上
(曲率半径はｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸの幅寸法の１０倍以上)
○ _____
○ 伸縮調整目地の位置　※ 6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮調整目地を設ける。
○ _____

22 木製建具 (5.7.2)～(5.7.4)

建具材の加工、組立時の含水率の種別　※ Ａ種　○ Ｂ種
代用樹種の適用　※ 可　○ 不可
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　○ _____

○ フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等　※ 改修標仕5.7.2(2)(イ)(a)による

表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
○ 普通合板	表面の樹脂 ○ 板面の品質（※ 広葉樹１種 ○_____） 接着の程度（○ １種　○ ２種）	
○ 天然木化粧合板	樹種名 (　) 接着の程度（○ １種　○ ２種）	
○ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ※ プリント ○ ポリエステル化粧合板 ○ メラミン化粧合板 ○ 接着の程度（○ １種　○ ２種）	
○ ＭＤＦ		

表面板の厚さ　※ 図示による　○ _____ (表5.7.6)
引き戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　○ 適用しない　○ 適用する

○ かまち戸
かまち樹種 (_____)　鏡板樹種 (_____)
見込み寸法　※ 36mm　○ _____
○ ふすま
張りの種別　○ Ｉ型　○ Ⅱ型
上張り（押入等の裏側以外）　○ 鳥の子　○ 新鳥の子又はビニル紙程度
見込み寸法　※ 19.5mm　○ _____
○ 戸ぶすま
表面板の仕上　※ 図示による　○ _____
見込み寸法　※ 30mm　○ _____
○ 紙張り障子
見込み寸法　※ 30mm　○ _____

23 ポリカーボネイト樹脂板

種類 _____
厚さ _____ mm

6 内装改修工事

① 揮発性有機化合物対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2) (6.9.2) (6.10.2)(6.11.2) (6.11.4)(6.11.5) (6.13.2)(6.14.2) (6.16.4)(9.5.3) (9.5.4)

木材、木れんが、ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ・ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ、ｶｰﾍﾟｯﾄ、合成樹脂塗床、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、ﾎﾞｰﾄﾞ類、タイル、断熱材の接着に使用する
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆
○ _____
木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆
○ _____

② 他の部分との取り合い等 (6.1.3)

既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
○ 図示による
○ 範囲 (　)　仕上げ (　)

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
○ 図示による
○ 範囲 (　)　仕上げ (　)

天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※ 既存のまま
○ 図示による
○ 範囲 (　)　仕上げ (　)

3 既存床の撤去等 (6.2.2)

種別	工法	施工箇所
○ ビニル床シート等	○ 下地ﾓﾙﾀﾙの除去	※ 図示による ○ _____
○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○ _____
○ フローリング張り床材		
○ 床タイル		
○ 床組		

コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、４章外壁改修工事による。

4 既存壁の撤去等 (6.3.2)

間仕切壁撤去に伴う構造体の補修
※ 改修標仕4.3.10によるモルタル塗り
(塗り厚25mmを超える場合の補修　○行う　○行わない)
○ _____

⑤ 木下地等 (6.5.1)～(6.5.9)

材料のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆又は改修標仕6.5.2(1)(ウ)(b)による
含水率　下地材　※ Ａ種(15%以下)　○ Ｂ種(20%以下)
造作材　※ Ａ種(15%以下)　○ Ｂ種(18%以下)
以下に規定されているものは、その規定による。

JAS 1083（製材）に基づく製材

○ 下地用製材

使用箇所	樹種	寸法	等級	含水率	保存処理
			○１級 ※２級		

○ 造作用製材

使用箇所	樹種	寸法	等級	含水率	保存処理
			○無節 ○上小節 ○小節 ○並		

○ 広葉樹製材

使用箇所	樹種	寸法	等級	含水率	保存処理
			○特等 ※１等 ○２等	※10%以下 ○	

○ JAS 1083（製材）以外の製材 (表12.2.2)

使用箇所	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	含水率
			※Ａ種　○Ｂ種		

使用木材のうち杉、ひのきについては京都府産木材とする。
○ 工事完成までに、ｳｯﾄﾞﾏｲﾚｰｼﾞCO2京都の本認証書（京都府産木材証明書及びｳｯﾄﾞﾏｲﾚｰｼﾞCO2計算書）（注１）を提出する事を原則とする。当該認証を受けた木材の使用が困難な場合には、京都の本証明書（京都府産材本材証明書）（注２）を提出すること。
証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。
一般財団法人京都府木材組合連合会
TEL：075-802-2991
注１)認証書
注２)証明書は製材助、流通業者の全てが取扱事業体又は認証機関登録事業体でなければ発行されない。
詳細は上記法人のホームページを参照すること。

○ 工事完成までに、京都府産木材の産地証明書を提出すること。

※ 京都木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都木材規格(KTS)材証明書（発行機関：(一社) 京都府木材組合連合会)を提出すること。

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材
○ 造作用集成材

使用箇所	品名	樹種	見付材面数	寸法	見付材面の品質
					※１等　○２等

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所	品名	樹種		寸法	化粧板薄厚	見付材面数	見付材面の品質
		化粧材	芯材				
							※１等　○２等

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材
○ 造作用集成材

使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率
				※15%以下　○

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧薄板厚	見付材面の品質	含水率
						※15%以下 ○

JAS 0701（単板積層材）に基づく造作用単板積層材
○ 造作用単板積層材

使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理
			○表面化粧加工なし ○１等　○２等　○３等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工　○塗装加工	○適用する ○適用しない

JAS 0701（単板積層材）以外の造作用単板積層材
○ 造作用単板積層材

使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
		○表面化粧加工なし ○ _____ ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工　○塗装加工	※14%以下 ○	○適用する ○適用しない

○ JAS 3079（直交集成板）

施工箇所	品名	曲げ性能(強度等級)	種別	接着性能(使用環境)	樹種	寸法(mm)

合板等
「合板の日本農林規格」による普通合板

使用箇所	品名	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理
※体育室	※ﾗﾜﾝ合板	※5.5mm ○ ___	※ﾗﾜﾝ	※１類 ○２類	広葉樹 ※２等以上 ○ _____ 針葉樹 ※C-D以上 ○ _____	○防虫処理 ○難燃処理 ○防炎処理

「合板の日本農林規格」による構造用合板

使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理
※畳床下地材、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り下地材		※２級以上 ○ ___	※12mm ○ ___		※１類 ○特類	※C-D以上 ○ _____		○防虫処理 ○強度等級 _____

「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

使用箇所	品名	厚さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理
				○１類 ○特類	

「合板の日本農林規格」による天然化粧合板

使用箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ	接着程度	防虫処理
			○１類 ○２類	

「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

使用箇所	品目	厚さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
			○１類 ○２類			

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No Ａ－０５ 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	建築改修工事　特記仕様書５		枚ノ内

章	項目	特記事項

6 内装改修工事

パーティクルボード

使用箇所	厚さ	各種区分
	※15mm ○____	※１３Ｐタイプ又は１３Ｍタイプ ○_____

JAS 0360 に基づく構造用パネル

使用箇所	等級	厚さ

ＭＤＦ

使用箇所	厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

造作材化粧面の釘打ち
※ 隠し釘打ち ○ 釘頭埋め木 ○ つぶし頭釘打ち ○ 釘頭現し

諸金物の形状、寸法及び材質
※ かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、表6.5.3から表6.5.5までに示す程度の市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、表8.20.1［鉄鋼の亜鉛めっきの種別］のＦ種程度の亜鉛めっきを施したもの
○ _____

○ 防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位 _____
○ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	○Ｋ２ ○Ｋ３ ○Ｋ４
	○Ｋ２ ○Ｋ３ ○Ｋ４

○ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ○	※JIS K 1571に適合又は同等品 ○
	○	

○ 薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理 適用部位 _____
○ 合板等の加圧注入処理等の適用 適用部位 _____

防虫処理 ※ 行う （範囲：ラワン材等 ※「製材の日本農林規格」による保存処理 K1）
○ 行わない

6 軽量鉄骨天井下地 (6.6.2)～(6.6.4)

野縁等の種類 屋内 ※ 19型 ○ 25型 (表6.6.1)
屋外 ○ 19型 ※ 25型

野縁受け・つりボルト・インサートの間隔 _____ mm
周辺部の端からの寸法 _____ mm
野縁の間隔 _____ mm
はずれ留め補強 ※ 有り ○ 無し
既存の埋込みインサートの使用 ※ 再利用しない ○ 再利用する
あと施工アンカーの引抜き試験 ○ 行う（ ___箇所以上、___N/箇所 ）
○ 行わない

開口補強
つりボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○ _____
天井のふところの補強
（1.5m以上3m以下） ※ 改修標仕6.6.4(8)による ○ _____
（3mを超える） ※ 図示による ○ _____
天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない

7 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)

スタッド、ランナ等の種類 (表6.7.1)
※ 表6.7.1におけるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類 ○ _____
スタッドの高さが5mを超える場合
※ 図示による ○ _____

8 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)

○ ビニル床シート

区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	工法	施工箇所
発泡層無	○ 単層ビニル床シート	ＴＳ	○ 2.5 ※ 2.0 ○	※ 無地 ○ マーブル ○ 柄物	※ 熱溶接 ○	※ 仕上表による
	※ 複層ビニル床シート	ＦＳ				
発泡層有	○ 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	ＨＳ				
	○ クッションフロア	ＫＳ				

○ ビニル床タイル

区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	寸法	施工箇所
接着形	※ ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＫＴ	※ 2.0 ○ 3.0	○ 無地 ○ 柄物	○300×300 ○450×450	
	○ 単層ビニル床タイル	ＴＴ	○ 2.0 ○			
	○ 複層ビニル床タイル	ＦＴ	○ 2.0 ○ 2.5 ○ 3.0			
置敷形	○ 置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＦＯＡ	○ 4.0 ○		○500×500	
	○ 薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＦＯＢ	○		○	

○ 帯電防止床シート ○ 帯電防止タイル

種類	性能	厚さ (mm)
○ ○	※ 体積抵抗値 1.0×10^{9} Ω以下 ○	

○ 視覚障害者用床タイル

種類	形状	備考
○ 塩化ビニル系 ○ レジンコンクリート系 ○ 磁器又はせっ器質タイル	※ ３００mm角 ○ １５０mm角 ○	

○ 耐動荷重性床シート

種類	厚さ (mm)	備考
○ ○	○ ○	

○ 防滑性床シート ○ 防滑性床タイル

種類	寸法	厚さ (mm)
○ ○	○ ○	

○ ビニル幅木

種類	高さ (mm)	厚さ (mm)
○ 軟質 ○ 硬質	※ 60 ○ 75 ○ 100 ○	※ 1.5 ○ 2.0

○ ゴム床タイル張り

色柄	種類	厚さ (mm)	寸法 (mm)
	○ 単層品 ○ 積層品		

○ 織じゅうたん

種別	織り方	パイル形状	帯電性	色柄	接合方法	施工箇所
○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種			○ 適用	※ 無地 ○	※ ﾋｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞ工法 ○ つづり縫い	

○ タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	施工箇所
		○ ﾀﾞﾘｯﾊﾟｰ工法 ○ 全面接着工法	○ 適用	

○ タイルカーペット

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施工箇所
※ 一種 ○ 二種	※ ループパイル ○	※ 500×500 ○	※ 6.5 ○	

タイルカーペットの敷き方 平場部分 ※ 市松敷き ○ _____
階段部分 ※ 模様流し ○ _____
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
下敷き材 ※ JIS L 3204(反毛フェルト)の第２種２号 呼び厚さ8mm
○ _____
見切り、押さえ金物 材質、形状等 ※ 図示による
○ _____

10 合成樹脂塗床 (6.10.2)(6.10.3)

厚膜型塗床材
○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材
※ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ ○ つや消し仕上げ
塗厚（mm） ○ _____
○ エポキシ樹脂系塗床材
※ 薄膜流しのべ工法 （ ○ 平滑 ○ 防滑 ）
○ 厚膜流しのべ工法 （ ○ 平滑 ○ 防滑 ）
○ 樹脂モルタル工法 （ ○ 平滑 ○ 防滑 ）
薄膜型塗床材
○ エポキシ樹脂系塗床材
塗床材料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

11 フローリング張り (6.11.2)～(6.11.6)

フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標仕6.11.2(2)による
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

単層フローリング (表6.11.1)～(表6.11.6)

種類	樹種	厚さ(mm)	大きさ	工法	備考
○ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ１等	※ なら ○	○ ○ 15 ○ 12 ○ 8	○ 表6.11.1 ○ 表6.11.3 ○ 表6.11.5	釘留め工法 ○ 根太張り工法 ○ 直張り工法 ○ 接着工法	
○ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ１等	※ なら ○	○ 8 ○ 15 ○		○ 接着工法	○ 防水処理足金物付

複合フローリング

種類	樹種	厚さ(mm)	工法	種別	備考
○ １×６タイプ ○ フローリングボードタイプ ○	※ なら ○	○ 8 ○ 15 ○	釘留め工法 ○ 根太張り工法 ○ 直張り工法 ○ 接着工法	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	

接着工法のフローリング裏面の不陸緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート ○ _____

仕上げ塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス塗り（１液形）Ｂ種
○ オイルステインの上ワックス塗り ○ 生地のままワックス塗り
○ _____

12 畳敷き (6.12.2)

種別 ○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種 ○ Ｄ種 （ KT-____）
衝撃緩和型畳 （畳表： ○C1 ○C2 ）

13 せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2)(6.13.3)

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ○ _____
合板のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標仕6.13.2(2)の(a)～(d)のいずれか
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
表面への化粧張り等の加工 ※ 図示による ○ _____

種別 ※ 表6.13.1によるＪＩＳ規格品とする (表6.13.1)

種類	規格、厚さ (mm) 等	
○ せっこうボード(GB-R)	※ 12.5(不燃) ○ 9.5(準不燃)	
○ 化粧せっこうボード(GB-D)	○ 杉柾模様 ○ トラバーチン模様 （軽鉄下地は専用のものとする）	○ 12.5(不燃)
○ 不燃積層せっこうボード(GB-NC)	○ トラバーチン模様 ○ 模様なし	※ 9.5(不燃)
○ シージングせっこうボード(GB-S)	○ 15(不燃) ○ 12.5(準不燃) ※ 9.5(準不燃)	
○ 強化せっこうボード(GB-F)	○ 21(不燃) ○ 15(不燃) ○ 12.5(不燃)	
○ ロックウール吸音ボード(RW-B)	※ 25 ○	
○ グラスウール吸音ボード(GW-B)	※ 25 ○	
○ 吸音あなあきせっこうボード(GB-P)	○ 9.5(準不燃)	
○ ロックウール化粧吸音板(DR)	内部用 フラット	○ 12(不燃) ※ 9(不燃)
	内部用 立体模様	○ 15(不燃) ※ 12(不燃)
	軒天用 フラット	○ 12(不燃) ※ 9(不燃)
	軒天用 立体模様	○ 15(不燃) ※ 12(不燃)
○ けい酸カルシウム板(0.8FK)	タイプ２ （無石綿） ○ 8.0 ○ 6.0 ○	
○ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による ※ 1.2	
○ 難燃木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15	
○ 断熱木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15	
○ 火山性ガラス質被層板	○ 研磨品 （○ 3 ○ 6 ○ 9 ○ 9.5 ○__）	
	○ 無研磨品 （○ 3 ○ 6 ○ 9 ○ 9.5 ○__）	
○ 普通合板	厚さ 接着の程度 表板樹種	
	板面の品質 防虫処理○行う	
○ 天然木化粧合板	厚さ 接着の程度	
	化粧板樹種 ○ なら ○ しおじ 防虫処理○行う	
○ 特殊加工化粧合板	厚さ 接着の程度 化粧加工の方法	
	表面性能 ○F ○FW ○W ○WS 防虫処理○行う	
○ その他下張り用合板		

合板類の張付け (表6.13.3)
○ Ａ種 ○ Ｂ種
せっこうボードの目地処理 (表6.13.5)
○ 継目処理 ○ 突付け ○ 目透かし
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類 (表6.13.5)
○ ベベルエッジ ○ スクエアエッジ

14 壁紙張り (6.14.2)(6.14.3)

防火性能・種類・規格・施工箇所 ※ 図示による ○ 下表による

施行箇所	防火性能	品質・規格

素地ごしらえ モルタル及びせっこうプラスター面 ○ Ａ種 ※ Ｂ種 (表7.2.4)
コンクリート面 ○ Ａ種 ※ Ｂ種 (表7.2.5)
せっこうボード面及びその他のボード面 ○ Ａ種 ※ Ｂ種 (表7.2.7)

15 天井廻り縁

材質 ○ アルミニウム製 ○ 塩化ビニル製

16 モルタル塗り (6.15.2)～(6.15.6)

モルタル ○ 現場調合材料
○ 既調合材料（ _____ ）
既製目地材
○ 設ける （形状 _____ ）
床目地 ○ 設ける ○ 設けない
目地の種類 ※ 押目地 ○ _____
目地割り ※ 2m程度 ○ _____
最大目地間隔 ※ 3m程度 ○ _____

17 タイル張り (6.16.2)～(6.16.4)

伸縮調整目地等 床面 ※ 縦・横とも4m以内ごと ○ _____
壁面 ※ 図示による ○ _____
タイルの試験張り ○ 行わない ○ 行う
タイルの見本焼 ○ 行わない ○ 行う
施工後の確認及び試験
浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験 ※ 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○ 行わない

タイルの種類

施工箇所・ﾀｲﾙの種類	形状・寸法(mm)	生地	釉薬	耐凍害性	耐滑り性	役物	色	工法その他
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	

壁タイル張りの工法
内装タイル
○ 密着張り ○ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
内装タイル接着張りの有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ○ _____
○ 既調合モルタル _____
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法 ○ _____

18 セルフレベリング材塗り (6.17.2)～(6.17.3)

塗厚（mm） ○ 10 ○ 15 ○ _____

7 塗装改修工事

① 塗装材料 (7.1.3)

塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

② 下地調整 (7.2.1)～(7.2.7)

塗替えで下地調整の種別がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ○ 図示 ○ _____
(表7.2.1)～(表7.2.7)

素地	種別	備考
木部	○ ＲＡ種 ※ 不透明塗料塗りの場合はＲＢ種 ○ ＲＣ種	
鉄鋼面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	
亜鉛めっき鋼面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	
モルタル及びせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面及びＡＬＣパネル面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ面	○ ＲＡ種 ○ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
せっこうボード及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611−0026 京都府宇治市開町３７−１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

製図年月日	2025 . 01 .
訂正年月日	
監修	設計	製図
工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
図面名称	建築改修工事 特記仕様書６
縮尺	
図面番号	No Ａ−０６ 号図
枚ノ内	

章	項目	特記事項

7 塗装改修工事

③ 素地ごしらえ (7.3.2)～(7.3.7)

(表7.3.2)～(表7.3.7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種　○ B種
	透明塗料塗りの場合	○ A種　※ B種
鉄鋼面（DP以外）		○ A種　※ B種　○ C種
鉄鋼面（DP）		○ A種　※ B種　○ C種
亜鉛めっき鋼面		○ A種　○ B種
ﾓﾙﾀﾙ面及びせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面（DP）		○ A種　※ B種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP以外）及びALCﾊﾟﾈﾙ面		○ A種　※ B種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面及びｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP）		○ A種　○ B種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DPのみ)		○ A種　※ B種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及びその他のﾎﾞｰﾄﾞ面	目地：継目処理工法	※ A種　○ B種
	目地：継目処理工法以外	○ A種　※ B種

④ 錆止め塗料塗り (7.4.2) (7.4.3)

錆止め塗料の種別

素地面	塗装の種類		塗料の種別	工程の種別	備考
鉄鋼面	SOP (工程の種別は表7.4.3)	塗替え	○A種	※C種 ○	
		新規見え掛り	○A種	※A種 ○	
		新規見え隠れ	○A種	※B種 ○	
	EP-G (工程の種別は表7.4.3)	塗替え	○A種 ※B種	※C種 ○	
		新規見え掛り	○A種 ※B種	※A種 ○	
		新規見え隠れ	○A種 ※B種	※B種	
	DP (工程の種別は表7.4.4)	塗替え	7.4.2(1)(イ)(a)による	※B種(下地調整RB種) ○C種(下地調整RC種)	
		新規	7.4.2(1)(イ)(a)による	○A種	
亜鉛めっき鋼面	SOP (工程の種別は表7.4.5)	塗替え	※A種 ○B種	※C種 ○	
		新規 鋼製建具等	※A種 ○B種	※A種 ○	
		新規 その他	※B種 ○	※B種 ○	
	EP-G (工程の種別は表7.4.5)	塗替え	○C種 ○	※C種 ○	
		新規 鋼製建具等	○C種 ○	※A種 ○	
		新規 その他	○C種 ○	※B種 ○	
	DP (工程の種別は表7.4.6)	塗替え	○B種 ○	ー	
		新規	○B種 ○	ー	

⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)

工程の種別　(表7.5.1)～(表7.13.1)

記号	名称	種別		
SOP	合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り 種類 ※１種 ○____	木部	新規外部	※ A種 ○ B種 ○ C種
			新規内部	○ A種 ※ B種 ○ C種
			塗替え	○ A種 ※ B種(外部の場合工程3, 工程4は行わない) ○ C種
		鉄鋼面		○ A種 ※ B種 ○ C種
		亜鉛めっき面	鋼製建具塗替え	※ A種 ○ B種 ○ C種
			その他塗替え・新規	○ A種 ※ B種 ○ C種
CL	ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗り	○ A種（着色塗料の種類________）※ B種		
※屋根遮熱塗装：超耐久型ﾌｯ素樹脂系屋根用遮熱塗料　ｴｽｹｰ化研（株）及び同等品　下地調整はＲＢ種とする				
NAD	ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料塗り	○ A種 ※ B種		
DP	耐候性塗料塗り	鉄鋼面		○________
		亜鉛めっき鋼面		○________
		ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		○ A-1種 ○ B-1種 ○ C-1種 ○ A-2種 ○ B-2種 ○ C-2種
		上塗り		○ １級　ふっ素樹脂系等 ○ ２級　シリコン系等 ○ ３級　ポリウレタン系等
EP-G	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ面,せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面,ﾓﾙﾀﾙ面,せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面,その他ﾎﾞｰﾄﾞ面		○ A種 ※ B種 ○ C種　しみ止め ○________ ※ しみ止めｼｰﾗｰ (B種及びC種の場合)
		木部	新規	※ A種 ○ B種 ○ C種
			塗替え	○ A種 ※ B種 ○ C種
		鉄鋼面		○ A種 ※ B種 ○ C種
		亜鉛めっき鋼面		※ A種 ○ B種
EP	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り	○ A種 ※ B種 ○ C種　しみ止め ○________ ※ しみ止めｼｰﾗｰ（B種及びC種の場合）		
UC	ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り	○ A種 ※ B種		
	ｽﾃｲﾝ塗り	○ ﾋﾟｸﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り(表7.13.1) ○ ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(OS)		
WP	木材保護塗料塗り	○ A種 ※ B種		

クリヤラッカー塗りＡ種の工程２の運用
　○ 適用する（着色剤：○ 溶剤系着色剤 ○ 油性染料着色剤）　○ 適用しない
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程１の着色の適用
　○ 適用する　○ 適用しない
オイルステイン塗りの工程等
　○ ________

8-1 耐震補強工事（鉄筋工事）

1 鉄筋の種類 (8.2.1)

(表8.2.1)

	種類の記号	径（mm）	備考
異形鉄筋	※ SD295	D16以下	
	※ SD345	D19以上	
	○		

※ SD295はＦｃ:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する

2 溶接金網 (8.2.2)

網目の形状、寸法 ________　鉄線の径（mm）________

3 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4) (8.4.2) (8.4.3)

部位	接合方法	径（mm）
○	○ 重ね継手　○ ｶﾞｽ圧接継手	D19以上
○	○ 機械式継手　○ 溶接継手	
○	○ 重ね継手　○ ｶﾞｽ圧接継手	D16以下
○	○ 機械式継手　○ 溶接継手	

○ 機械式継手　適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき　※ 構造図による
　施工完了後の継手部の試験　※ 行う　○ 行わない
　不合格となった継手部への措置等　※ 監督職員と協議する
○ 溶接継手　適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき　※ 構造図による
　溶接完了後の溶接部の試験　※ 行う　○ 行わない
　不合格となった溶接部への措置等　※ 監督職員と協議する
○ 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ　※ 構造図による ○ ______
○ 鉄筋継手位置　※ 構造図による　○ 表8.3.3による
○ 鉄筋の定着長さ　※ 構造図による　○ 表8.3.4による
○ 機械式定着工法　適用箇所、種類　※ 構造図による
○ 帯筋組立の形、継手及び定着　※ 構造図による

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
※ 構造図による　○ 表8.3.6による（次の2項目のかぶり厚さを除く。）
○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。
○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

施工箇所等	最小かぶり厚さ（mm）

機械式継手及び溶接継手のあき　○ ______

5 圧接完了後の試験 (8.3.8)

試験方法
　○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。

6 割裂補強筋 (8.21.6) (8.22.7)

形状　○ スパイラル筋　○ ______
種類の記号　○ SR235 または SWM-P　○ ______
呼び径、曲げ直径、ピッチ　○ 図示による（______）○ ______

8-2 耐震補強工事（コンクリート工事）

1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)

コンクリートの類別　※ Ⅰ類　○ Ⅱ類

○ 普通コンクリート

打設部位		Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	備考
構造体	基礎	○24　○	○18　○	
	上部	○24　○	○18　○	

○ 軽量コンクリート

打設部位(適用箇所)	Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	備考
	○21　○	※21　○	

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
　{Fc ＋構造体強度補正値(S)} N/mm２
（標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない）

2 普通ｺﾝｸﾘｰﾄの材料 (8.2.5)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
○ 高炉セメントのＢ種（施工箇所________）
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントのＢ種（施工箇所________）

骨材
　粗骨材　※砂利(JIS A5308),砕石(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
　細骨材　※砂(JIS A5308),砕砂(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 銅ｽﾗｸﾞ　○ ﾌｪﾛﾆｯｹﾙｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
　アルカリシリカ反応性による区分　※ A（無害）　○ ______

混和材料　○ 混和剤　※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のⅠ種(JIS A6204)
　防錆剤　※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
　○ 混和材　※ フライアッシュ(JIS A6201) Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種
　　○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
　　○ コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207)
　　○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

3 構造体強度補正値 (8.2.5)

※ 気温による構造体強度補正値（S）　(表8.2.4)

予想平均気温（℃）		補正値（S）	期間（打設日）		
普通	早強		南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 N/mm２	3/6 ～ 6/31　9/11～ 11/15	3/11～ 7/20　9/1 ～ 11/5	3/11～ 7/10　9/1 ～ 10/31
0以上 8未満	0以上 5未満	6 N/mm２	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10	11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む）

4 構造体用モルタル (8.2.6)

モルタル圧縮強度　______
フロー値　______

5 型枠（せき板） (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)

合板の規格　※ 「合板の日本農林規格」の「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板の規格」による合板
　○ ______
合板の材種　※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板　○ ______
厚さ（mm）　※ １２　○ ______

打放し仕上げのせき板
※ 合板せき板を用いる場合　(表8.1.4)

種別	板面の品質	施工箇所
○ A種	※8.2.7(2)(ｱ)　○	
○ B種	※8.2.7(2)(ｲ)　○	
○ C種	※8.2.7(2)(ｲ)　○	

○ 合板せき板を用いない場合
　せき板の材料 ______

コンクリートの仕上がりの平たんさ

種別	適用箇所
○ a種	
○ b種	
○ c種	

スリーブの材種　(表8.2.6)

適用箇所	材種（規格その他）
水密を要する地中部分等	※ つば付き鋼管（JIS G3452 の黒管に厚さ6 mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの）
水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管（JIS K6741 のＶＵ）
上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき鋼板（径200 mm以下は厚0.4 mm以上、径200 mmを超え350 mm以下は厚0.6 mm以上）○

円形スリーブ（溶解亜鉛めっき鋼板）は、筒形の両側を外型に折り曲げてつばを設ける。
硬質ポリ塩化ビニル管は、防災区画を貫通する場合には使用しない。
外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ　※ 図示による　○ ２０mm
シアコネクターとセパレーターの兼用　○ 可　○ 不可

6 コンクリートの試験 (8.8.2)～(8.8.5)

※ フレッシュコンクリートの試験
○ 省略する

7 軽量コンクリート (8.9.1)

常時土又は水に直接接する部分の使用　○ 可　○ 不可
種類　○ １種　○ ２種

気乾単位容積質量　______ t/m3

8 暑中コンクリート (8.10.2)

※ 暑中における構造強度補正値（S）

地域	日平均気温が25度を超える期間（打設日）	補正値
北部地域	7月11日～8月31日	※ ６N/mm2　○ ３N/mm2
中部地域	7月21日～8月31日	
南部地域	7月 1 日～9月10日	

9 寒中コンクリート

※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第６章第１１節（寒中コンクリート）による。

10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)

コンクリートの種類　※ 普通コンクリート　○ ______
設計基準強度　※ 18N/mm2　○ ______
スランプ　※ 15cm又は18cm　○ ______
セメントの種類
　※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
　○ 高炉セメントB種
　○ フライアッシュセメントB種
適用箇所
　※ 標準仕様書6.14.1(4)による箇所
　○ 図示による（______）

11 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車１台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

8-3 耐震補強工事（あと施工アンカー工事）

1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4)

○ 金属系アンカー
　引張耐力 ______　せん断耐力______
　径 ______　埋込み長さ______
　セット方式　※ 本体打込み式改良型　○ ______
　接合筋　種類 ______　長さ ______
　　径 ______

○ 接着系アンカー
　引張耐力 ______　せん断耐力______
　種類　※ カプセル型回転・打撃式　○ ______
　アンカー筋　※ 改修標仕表8.2.1の異形棒鋼　種類 ______
　　径 ______　埋込み長さ______
　　新設壁内への定着長さ______

埋め込み配管等の探査
　範囲　※ あと施工アンカー施工部分全て
　方法　※ 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
　　○ 図示による

2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7)

性能確認試験　○ 行わない　○ 行う
施工確認試験　※ 行う（ 引張試験機による引張試験　確認強度 ______ ）
　○ 行わない
１ロット　※ １日に施工されたものの径及び仕様ごと ○ ______
試験の箇所数　※ １ロットに対し３本、無作為に抜き取る
　○ ______

8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）

1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)

○ 監督職員の承諾する工場
※ 建築基準法第６８条の２５に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨制作工場又は同等以上の能力のある工場
　（○Ｓ　○Ｈ　○Ｍ　○Ｒ　○Ｊ）グレード以上

2 鉄骨制作工場における施工管理技術者 (8.1.6)

○ 適用する　○ 適用しない

3 鋼材の種別 (8.2.8)

種類の記号	使用箇所	規格等
SS400		JIS G 3101
SM400A		JIS G 3106
SN400A		JIS G 3136

※ 図示による

4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

ボルトの種別　○ トルシア形高力ボルト（建築基準法の認定品）
　○ ＪＩＳ形高力ボルト（JIS B 1186）　２種(F10T)
　○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（建築基準法の認定品、１種(F8T)）

ねじの呼び______
すべり係数試験（対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する）
　○ 行わない
　○ 行う　試験方法等　○ 図示による　○ ______
ＪＩＳ形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの５倍を超える場合の回転量 ______

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL (0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号 No　A－07 号図
訂正年月日					
監修 / 設計 / 製図		図面名称	建築改修工事　特記仕様書７		枚ノ内

章	項目	特記事項
8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）	5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5)	摩擦面の処理 ○ ブラスト処理（表面粗度５０μmRz以上） ○ りん酸塩処理 ○ 図示による（　　） すべり耐力等の確認方法　○ ＿＿＿＿ 試験方法等　○ 図示による　○ ＿＿＿＿ （対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する）
	6 溶接材料 (8.2.10)	溶接材料 ※ 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による ○ 図示による　○ ＿＿＿＿
	7 ｽﾀｯﾄﾞ (8.2.11)	種類等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

章	項目	特記事項
	8 工作図 (8.13.2)	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ及びｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等 ※ 図示による　(図に無い場合は鉄骨設計基準による)
	9 ﾎﾞﾙﾄ孔 (8.13.8)	母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ﾎﾞﾙﾄの孔型 ※ ねじの呼び径 +1.0 mm　○ ＿＿＿＿
	10 仮組	○ 実施する　部位（　　） ○ 実施しない
	11 技能資格者	溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う　試験の要領　○ 図示による　○ ＿＿＿＿
	12 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)	開先の形状 ○ 図示による　○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ ＿＿＿＿ 鋼製エンドタブの切断　○ 有　○ 無 切断する箇所及び切断範囲　※ 図示による　○ ＿＿＿＿ 切断面の仕上げ　※ グラインダーにより、粗さ 100μm Rz 程度以下及びノッチ深さ 1mm 程度以下に仕上げる スカラップの形状 ○ 図示による　○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による　○ 改良型スカラップ
	13 溶接部の試験 (8.15.12)	H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等 ○ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ(独立行政法人建築研究所)」3.5.2による受入検査 ○ 抜き取り検査①　※ 抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付則3「溶接」に関する試験方法等 ○ JASS 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 ○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験　工場溶接　平均出検品質限界(AOQL)　※ 全数　○ 検査水準　※ 第6水準　○ 第__水準 現場溶接　平均出検品質限界(AOQL)　※ 全数　○
	14 錆止め塗料 (7.4.2) (8.17.2) (8.17.4)	塗料の種別　○ 鉄鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.4.1による　○ A種　○ B種　○ C種 ○ ＿＿＿＿　○ D種　○ E種 ○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.4.2による　○ A種　○ B種　○ C種 ○ ＿＿＿＿ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） ○ 表7.4.1による　○ A種　○ B種　○ C種 ○ ＿＿＿＿　○ D種　○ E種 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない　○ 行う 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ○ 行わない　○ 行う　(塗装範囲　○ 図示による　○ ＿＿＿＿)

章	項目	特記事項
8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）	15 耐火被覆 (8.18.2) ～(8.18.9)	種別

種類	材料・工法	適用箇所（部位･部分）
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○	
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○	
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○	
○ ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	-	
○ 耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所（部位・部分）
○ ３０分耐火	
○ １時間耐火	
○ ２時間耐火	
○ ３時間耐火	

章	項目	特記事項
	16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) ※公共建築工事標準仕様書(R4版)による。	適用 ○ 構造用アンカーボルト 材質　○ SNR400B　○ ＿＿＿＿ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による　○ ＿＿＿＿ ○ 建方用アンカーボルト 材質　○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法　(表7.10.1) 種別　○ A種　○ B種 柱底均しモルタルの厚さ　○ ５０mm　○ ３０mm
8-5 耐震補強工事（グラウト）	1 グラウト材 (8.2.12)	グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ ＿＿＿＿ 無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ ○ 現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度　(N/mm2)　※ 30以上　○ ＿＿＿＿ ※ 一般部ｺﾝｸﾘｰﾄと同等以上の強度(鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ壁増設工事の壁頭部) ｺﾝｼｽﾃﾝｼｰJ14ロート値(秒)　※ 6～10　○ ＿＿＿＿ 乾燥収縮　(10^{-4})　※ 0　○ ＿＿＿＿ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験　※ 行う　○ 行わない コンシステンシー試験　※ 行う　○ 行わない
	2 柱底等の均しモルタル (8.2.12) ※公共建築工事標準仕様書(R4年版)(7.2.9)(7.10.3)による。	モルタルの種別　※ 無収縮モルタル　○ ＿＿＿＿ 材料の調合等　※ 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(I)による。 ○ ＿＿＿＿ 厚さ　※ 図示による　○ ＿＿＿＿ 工法　※ A種　○ B種

章	項目	特記事項
8-6 耐震補強工事（現場打ちRC壁の増設工事）	1 補強工法	○ 新設耐震壁　○ 増打ち耐震壁　○ 開口部閉鎖壁　○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
	2 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設　※ 図示による ○ ＿＿＿＿ 既存構造体の撤去範囲　※ 図示による ○ ＿＿＿＿ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による
	3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁（増打ち壁増設の場合） ※ 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の10～15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による
	4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)	割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による 開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設そで壁の端部横筋 ※ ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き ○ 図示による
	5 コンクリートの打込み工法 (8.21.8)	○ 流込み工法 ○ 圧入工法 ※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くW配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による
	6 既存構造体との取合い (8.21.9)	
	7 仕上げ (8.21.10)	※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)
8-7 耐震補強工事（鉄骨ブレース設置工事）	1 補強工法	○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース　○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨頬杖付ブレース　○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル　○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿） ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法　○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
	2 既存部分の撤去 (8.22.2)	既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。

章	項目	特記事項
8-7 耐震補強工事（鉄骨ブレース設置工事）	3 既存部分の処理 (8.22.3)	目荒しの程度 ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-3による。
	4 既存構造体との取合い (8.22.7)	割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による
	5 仕上げ (8.22.9)	※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
8-8 耐震補強工事（柱補強工事）	1 補強工法	○ 溶接金網巻き工法　○ 溶接閉鎖フープ巻き工法 ○ 鋼板巻き工法　○ 帯板巻き付け工法 ○ 連続繊維補強工法　○ ＿＿＿＿
	2 既存部分の撤去 (8.23.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-２による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示による 設備機器・配管等の撤去及び移設　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による 既存構造体の撤去範囲　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。
	3 既存部分の処理 (8.23.3) (8.24.3)	目荒し程度 ※ 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 柱及び梁の成型（連続繊維補強工法） ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。　(※ 30R　○ ＿＿＿) ○ 図示による
	4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖ﾌｰﾌﾟ巻き工法 (8.23.5)	柱頭のスリット　○ 設ける　○ 設けない 柱脚のスリット　○ 設ける　○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ　○ ＿＿＿＿ mm 打込みの工法　○ 流込み工法　○ 圧入工法
	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工　○ 円形　○ 角形　○ ＿＿＿＿ 柱頭のスリット　○ 設ける　○ 設けない 柱脚のスリット　○ 設ける　○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のﾓﾙﾀﾙ剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接　○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様　※ 本特記仕様書8-5-1による ○ ＿＿＿＿ グラウト材の厚さ　○ 20mm　○ ＿＿＿＿ mm

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No Ａ－０８ 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	建築改修工事　特記仕様書８		枚ノ内

章	項目	特記事項
8-8 耐震補強工事（柱補強工事）	6 連続繊維補強工法 (8.2.13) (8.24.6)	工法 ○ (一財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○ _____ 材料 ○ 炭素繊維 ○ アラミド繊維 ○ ガラス繊維 性能 引張強度 _____N/mm2 ヤング係数_____N/mm2 製造所 _____ 製品名 _____ 柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ　炭素繊維シート ※ 20mm以上 ○ _____ アラミド繊維シート ※ 10mm以上 ○ _____ 仕上げモルタルの除去 ※ 構造躯体まで除去する ○ ﾓﾙﾀﾙ除去は行わない ひび割れ部改修 ○ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ ※ 樹脂注入工法 ○ ﾓﾙﾀﾙ塗り仕上げ ※ 樹脂注入工法 炭素繊維の目付量 ※ 図示による ○ _____ 炭素繊維ｼｰﾄの巻数 ※ 図示による ○ _____ 引張強度試験 ※ 行う　試験数量 (_____) ○ 行わない 付着強度試験 ※ 行う　試験数量 (_____) ○ 行わない
	7 仕上げ (8.23.7) (8.24.7)	※ 図示による ○ _____
8-9 耐震補強工事（耐震スリット）	1 耐震スリット新設工事 (8.25.2)	方向 / タイプ / 耐火性能 / 防水性能 ○ 垂直方向 / ※ 完全（全貫通型）スリット / ○ 耐火型 / ○ 有り ○ 水平方向 / ○ せん断型部分スリット / ○ 非耐火型 / ○ 無し ○ 品質・規格 _____ 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) 耐震スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○ _____ 耐震スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ _____ 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ _____ 既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○ _____
8-10 耐震補強工事（免震改修）	1 既存部分の撤去 (8.26.5)	既存部分が鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造又は鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。
	2 既存部分の処理 (8.26.6)	既存部分が鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造又は鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
	3 支承材・減衰材 (8.26.7) (8.26.10)	○ 支承材 材質 _____ 諸元 _____ ○ 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差_____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による
8-10 耐震補強工事（免震改修）	4 仕上げ (8.26.13)	※ 図示による ○ _____
	5 耐火被覆 (8.26.14)	仕様 _____
	6 ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ (8.26.15)	仕様 _____ 工法 _____
	7 検査 (8.26.16)	項目 _____ 数量 _____
	8 維持管理要領 (8.26.17)	維持管理要領に記載する項目 ※ 維持管理の目的 ※ 点検種別(○ 定期点検 ○ 応急点検 ○ 詳細点検) ※ 点検の実施時期 ※ 点検項目 ※ 統括管理体制 ※ 点検／検査結果の保管 ○ _____ 維持管理に必要な計測機器の設置 ○ 地震計 (仕様 _____) ○ 下げ振り (仕様 _____) ○ けがき板 (仕様 _____) ○ 別置き試験体 (仕様 _____) ○ _____ (仕様 _____)
8-11 耐震補強工事（制振改修）	1 既存部分の撤去 (8.27.2)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による ○ _____ 方法 ※ 図示による ○ _____ 既存鉄骨の処置方法 _____
	2 既存部分の処理 (8.27.3)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
	3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)	減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差_____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による
	4 仕上げ (8.27.8)	※ 図示による ○ _____
	5 検査 (8.27.9)	項目 _____ 数量 _____
8-12 耐震補強工事（基礎工事）	1 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○ 撤去範囲及び方法 ○ 図示による (_____) ○ ○ 杭頭部の処理 ○ 図示による (_____) ○ ○ 既存杭の補強 ○ 図示による (_____) ○ ○ 既存杭の健全性を確認する試験 ○ 図示による (_____) ○
	2 埋戻し及び盛土 (8.28.3)	埋戻し及び盛土の種別 ※ 改修標準仕様書8.28.1による ○ A種 適用箇所 (_____) ○ B種 適用箇所 (_____) ○ C種 適用箇所 (_____) 土質 (_____) 受渡場所 (_____) ○ D種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする) 適用箇所 (_____) ○ その他 (材料 _____ 工法 _____) 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理 ○ 図示による ○ _____ 山留め壁等の存置箇所 (※ 図示 ○)
	3 杭地業 (8.2.15) (8.28.4)	支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ○ 図示による (_____) ○ 杭の材料、工法、寸法、施行方法等 ○ 図示による (_____) ○ ○ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施行方法 ○ 図示による (_____) ○ ○ 杭の継手の箇所数、材料、工法等 ○ 図示による (_____) ○ ○ 杭の溶接継手 技能資格者の技量 ○ 図示による (_____) ○ 溶接部の確認 ○ 図示による (_____) ○ ○ 杭頭の処理 ○ 処理する ○ 処理しない 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ○ 図示による (_____) ○ ○ 杭頭の中詰め材料 ○ 基礎のコンクリートと同調合のもの ○ 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ○ 評定等の評価内容による 建込み時の杭の鉛直度 ○ 1/100以内 ○ 評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ○ 図示による (_____) ○
	4 砂利地業等 (8.2.15)	材料 ※ 再生クラッシャラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石 砂利厚さ ○ 60mm ○ 砂地業 ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂
	5 捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業 (8.28.4)	捨ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ ※ 50mm ○
9 ユニット及びその他の工事	1 家具、ﾕﾆｯﾄ等の揮発性有機化合物対策	本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。 収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板類、MDF及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ等の ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤 ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 含まれる可塑剤 ※ ﾌﾀﾙ酸･ﾌﾞﾁﾙ等を含有しない、難揮発性のもの ○ _____
	2 フリーアクセスフロア (20.2.2)	※ 建設技術評価制度「耐震型ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの開発」の技術評価を取得した製品とする。 施工箇所 / 寸法(mm) / フロア高さ(mm) / 耐震性能 / 所定荷重 / 帯電防止性能 / 漏えい抵抗 スロープ及びボーダー ※ 製造所の標準仕様 ○ 図示による コンセント等の取付け ※ 製造所の標準仕様 （コンセント本体は別途設備工事） 配線用取出し用開口 ※ 対応品又は工場加工品 （施工箇所は図示） 空調用吹出しパネル ○ あり (※ 固定式 ○ 可変式 施工箇所は図示) ※ 表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕１９章内装工事による。 フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○ _____ 耐衝撃性能 ○ _____ ローリングロード性能 ○ _____ 耐燃焼性能 ○ _____
9 ユニット及びその他の工事	3 可動間仕切 (20.2.3)	種類：構造形式 / 構成基材 / 表面仕上 / 遮音性 / ﾊﾟﾈﾙ内に取付ける建具 寸法・形状 ○ パネル式 / ○メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付 / ○ スタッド式 / ○ ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 / ○ パネル材料のホルムアルデヒト放散量 ※ F☆☆☆☆
	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作方法による種類 / パネル表面材・仕上 / パネル圧接装置の操作方法 / 遮音性能 ハンガーレールの取付け下地の補強 ※ 取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障ない耐力及び変形量となるように補強する。 パネルをランナーに取り付ける部品 ※ ランナーに加わる重量の５倍以上の荷重に耐えられるもの ○ _____ ハンガーレール及びランナー ※ パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、体力及び変形量が使用上支障ないもの あと施工アンカー 材質 _____ 寸法 _____ 引抜耐力試験 ※ 行う
	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 ○ メラミン樹脂系化粧板 ○ ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 ※ 幅木型 ○ 足金物型 パネル材料のホルムアルデヒト放散量 F☆☆☆☆ ドアエッジの材質 ※ トイレブース製造所の仕様による ○ _____
	6 手すり (20.2.6)	○ SUS304（表面処理 ※ HL程度 ○ _____) ○ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき (※ (表14.2.2) による種別 (○___) 種) ○ アルミニウム 表面処理 (※ (表14.2.1) による種別 (○___) 種) 種別 (_____) 種 (_____) 色合等 ○ 標準色 (_____) ○ 特注色 (_____) 手すりの握り部分 材種 / 表面仕上げ / 直径(mm) / 取付場所 / 備考 ○ 集成材（材種： ） / ○ クリアラッカー ○ / ○ 35程度 ○ 45程度 ○ ビニル製 / ○ 35程度 ○ 45程度
	7 階段滑り止め (20.2.7)	材種 ○ ステンレス製（SUS304） 幅 ○ 約３５mm ○ _____ 形状 ○ ビニルタイヤ入り 両端ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞ ○あり (○ビニル ○ SUS304) 取付工法 ※ 接着工法 ○ 埋込み工法
	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分 / 種類 / 色彩 / 備考 ○ 黒板 / ※ 焼付け ○ / ○ 鋼製黒板 ○ ほうろう黒板 / ※ 緑 ○ 黒 / ○ 曲面 ○ スクリーン付引分け ○ ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ / / ○ ほうろう白板 ○ _____ / ※ 白 / ○ 曲面 ○ スクリーン付引分け 額縁金属 ○ アルミ製 （表面処理の種別 ○Ｂ－２ ○Ｂ－１) 品質・規格 _____
	9 鏡 (20.2.10)	厚さ (mm) ※ 5 ○ _____

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生

製図年月日 2025．01．	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺
訂正年月日			図面番号 No Ａ－０９ 号図
監修 / 設計 / 製図	図面名称	建築改修工事 特記仕様書９	枚ノ内

章	項目	特記事項

9 ユニット及びその他の工事

10 表示・標識 (20.2.11)

衝突防止表示
※ 図示による（市販品 ○ ステンレス製 径 30 ㎜ ○ ＿＿＿＿＿＿）
○ なし
法令に基づく表示
※ 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。

室名札

厚さ(㎜)	材質	色	書体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○ アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
○	○ アルミ板		○ 丸	○	○ 持出型

外国語表現 ○ 行う （○ 英語 ○ ＿＿＿＿＿＿）
寸 法（㎜） ○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による

ピクトグラフ（便所、車いす、階段等）

厚さ(㎜)	材質	印刷等の種別	取付け形式	備考
○ 5	○ アクリル板	○ シルク印刷	○ 平付型	
○	○ アルミ板	○	○ 持出型	

寸 法（㎜） ○ 150×150 ○ 図示による

案内板（館内、各階、便所）

厚さ(㎜)	材質	色	書体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
○	○アルミ板		○ 丸	○	○ 持出型

外国語表現 ○ 行う （○ 英語 ○ ＿＿＿＿＿＿）
寸 法（㎜） ○ 600×600 ○ 100×600 ○ 200×200 ○ 図示による
館名板等
品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

11 タラップ (20.2.12)

材質及び仕上げ
○ SUS304（スリップ止め加工 ※あり ○なし ）
○ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
（ ※ （表14.2.2）による種別（※C種 ※__種））

12 ブラインド (20.2.14)

形式	種類	ｽﾗｯﾄの材質	ｽﾗｯﾄ幅（㎜）	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材質
○ 横形	※ ギヤ式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金	※ 25	※ 鋼製
	○ コード式		○ 35	○＿＿＿＿
○ 縦形	※ ２本操作コード式	○ ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ	○ 80	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ
	○ １本操作コード式	○ ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	○ 100	合金製

13 ロールスクリーン (20.2.15)

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
○ スプリング式	○ ガラス繊維製	※ 製造所の仕様	○ 図示による	
○ コード式	○ 合成・天然繊維製		○ ＿＿＿＿	
○ 電動式	○ 木製			

14 カーテン (20.2.16)

(20.2.16)

取付箇所	形式 ｼﾝｸﾞﾙﾀﾞﾌﾞﾙ	片引	引分	開閉操作方法 電動	ひも引	手引	カーテン用きれ地の種別・品質・特殊加工等	ひだの種類 つまみ	箱片	ﾌﾟﾚｰﾝ
	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○		○	○	○

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

15 カーテンレール (20.2.16)

材料 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス
○ ＿＿＿＿＿＿
形式 ○ 片引き ○ 引分け （暗幕用は300 ㎜以上の召合せの重ね掛けとする。）
形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型
強さによる区分 ※ 10-90 ○＿＿＿仕上げ ※ アルマイト ○＿＿＿＿＿＿

16 ブラインドボックス カーテンボックス

○ 図示による ○ 市販品（アルミニウム製 押出し型材）
仕様等 溝幅×深さ（㎜） ○ 90×150 ○ 150×80 ○ 120×80 ○ ＿＿＿
表面処理 ○ C－1（無着色） ○ C－2（着色）

17 くつふきマット

材種 ○ 塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製（SUS304）受枠）
○ 硬質アルミニウム合金（受枠とも） ○
○ ゴム製（ステンレス製（SUS304）受枠）

18 鋼製書架及び棚

種類	規格等	JISによる種類
○ 鋼製書架	※ JIS S 1039 の規格による	○ 1種 ○ 2種 ○ 3種
○ 鋼製物品棚	○ 法務省型	○ 4種 ○ 5種 ○ 6種

19 収納家具(木製)

材質、形状、寸法
※ 図示による ※ ＿＿＿＿
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ※ ＿＿＿＿

9 ユニット及びその他の工事

20 掲示板

	枠の材質	表面の材質	照明器具	施錠	品質・規格
○ 屋内	○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（B-2）		―	―	
	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）				
○ 屋外	○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（B-2）	押しﾋﾟﾝﾀｲﾌﾟ	○ あり	○ あり	900W×600H
	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）		○ なし	○ なし	

21 カウンター

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

22 洗面カウンター

材 種 ○メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）○人工大理石（品質 図示）
奥行き（㎜） ○約450 ○約600 ○＿＿＿＿

23 流し台ユニット

種類	部品寸法（㎜）	規格	仕様
○ 流し台		○ 優良住宅部品	トラップ付き
○ コンロ台		○ 優良住宅部品	バックガード有り
○ 吊戸棚		○ 優良住宅部品	高さ 約500 ㎜
○ 水切り棚		○ 優良住宅部品	ステンレス製１段式
○			

24 非常用救助袋等

※ 垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。
形式 ○ 傾斜式 ○ 垂直式
品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

25 鍵箱

市販品 形式 ※ 釣下式 ○ 差込式
（ ○ 30 ○ 60 ○ 120 ○＿＿＿） 組用（＿＿） 個

26 車止め

形式	材質	柱径・肉厚（㎜）	高さ（㎜）
○ 上下式鎖内蔵型	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）	○ φ76.3 t=2.0	○ GL+700
（ ○ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ付き ）	○	○ φ114.3 t=2.5	○ GL+850

基礎 無筋コンクリート造 ３５０×３５０ Ｈ２５０程度

㉗ フェンス

表面仕上等	種類	門扉の仕様
● 亜鉛めっき ● 樹脂塗装	○ ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ ○ ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ	○ 片開き
○ ビニル被覆 ○	○ ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ ● 遮音ﾌｪﾝｽ	● 両開き

参考：朝日ｽﾁｰﾙ工業 目隠し遮音ﾌｪﾝｽ(GM-2860-GG)同等品

28 防煙垂れ壁

○ 固定式

材質	厚さ（㎜）	高さ（㎜）	備考
※ 網入り磨き板ガラス	※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き
○ 線入り磨き板ガラス	○	○	

○ 可動式

種類	材質	高さ（㎜）	備考
※ 垂直降下式（巻取り型）	※ 不燃布（不燃認定品）	※ 500 ○ 800 ○	ガイドレール ※ 固定式（壁押込型） ○ 可動式（天井収納型）
※ 回転降下式	鋼板制又はアルミ製	※ 500 ○ 800 ○	表面仕上げ ※ 天井材張り ○

降下機構
煙感知器運動及び手動開放装置（埋込型）

㉙ 既存床面改修工事

サンダー掛け ウレタン塗装３回塗
ミニバスケットボールコート 書き替え
6人制バレーボールコート 書き替え
9人制バレーボールコート 書き替え
バトミントンコート 書き替え

10 排水工事

本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 材料 (21.2.1)

材種（表21.2.1）	管の種類	呼び径	基床の厚さ
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管(１種)		
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	○ ＶＰ ○ ＶＵ ○ ＲＳ－ＶＵ		
○ 硬質ポリ塩化ﾋﾞﾆﾙ管継手	○ ＤＶ ○ ＶＵ継手		

○ 凍上抑制層に用いる材料 ○ 砂（○ 砂の粒度試験 ）○ ＿＿＿＿＿＿

2 側塊、排水桝及びふた (21.2.1)

○ 側塊の形状および寸法 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
○ 排水桝の種類 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿

○ 鋼鉄製マンホールふたの種類

種類	適用荷重（安全荷量）
○ 水封形 ○ 密閉形(ﾃｰﾊﾞｰ・ﾊﾞｯｷﾝ式)	○ T- 2用（5KN） ○ T-6用(115KN)
○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形(ﾊﾞｯｷﾝ式)	○ T-20用（50KN）

○ グレーチングふた

種類	材質	形式	適用荷重	タイプ	上面形状
○ 溝ふた用	○ 鋼製	受枠 ※ なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形
○ 桝ふた用	○ ｽﾃﾝﾚｽ製	○ あり	○ T- 2用	※ 細目	※ 凹凸形
○ 嵩上げ用	○ 鋳鉄製	○ 図示	○ T- 6用		
○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定 ※ なし	○ T-14用		
		○ 図示	○ T-20用		

3 縁石 (21.3.1)

歩車道境界ブロックのJIS による呼び名 ※ A ○ ＿＿＿＿
地先境界ブロックのJIS による呼び名 ○ A ○ C ○ ＿＿＿＿
砂利地業の厚さ ※ 100㎜ ○ ＿＿＿＿

4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)

鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ ＿＿
コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ ＿＿
鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ ＿＿
現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/㎟２) ※ １８ ○ ＿＿
スランプ(㎝) ○ １５ ○ １８ ○ ＿＿

現場打の鉄筋 種類の記号 ※ SD295 ○ ＿＿＿

11 舗装工事

本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

① 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)

路床の構成
○ 凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○ ＿＿＿＿
○ 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○図示による ○150㎜ ○＿＿＿＿
歩道部 ○図示による ○50㎜ ○＿＿＿＿
（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
○ 行う ○ 行わない
盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 （表3.2.1）
路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない
路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 （表22.2.1）
種 類 ○ 地盤改良材 （ ） ○ 高炉ｾﾒﾝﾄB種
○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号
○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号
添加量 ＿＿＿＿ kg/m3
路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う（ ※ 乱した土 ○ 乱さない土 ）
路床締固め度の試験 ※ 行う（埋戻し部、盛土部） ○ 行わない

② 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)

路盤の厚さ 100 ㎜
材料 ● 再生クラッシャラン（RC-40,30,20）
○ クラッシャラン（C-40,30,20） ○ ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ（CS-40）
路盤締固め度の試験 ※ 行う

③ アスファルト舗装 (22.4.2)～(22.4.6)

舗装の種類	表層(㎜)	基層(㎜)	カラー舗装の種類
※ アスファルト舗装	50		※ 顔料混入加熱アスファルト混合物

アスファルト ○ 再生アスファルト （ ○ ６０～８０ ○ ８０～１００ ）
○ ストレートアスファルト

再生加熱アスファルト混合物の種類

区分	● 一般地域	○ 寒冷地域
表層	● 密粒度アスファルト混合物（13）	※ 密粒度アスファルト混合物（13F）
	○ 細粒度アスファルト混合物（13）	

施工
アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない
アスファルト締固め度、厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない

④ コンクリート舗装 (22.5.2)～(22.5.6)

構成

コンクリートの種類	部位	厚さ(㎜)	設計基準強度(N/㎟)	スランプ(㎝)
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	土間	100	18	18

早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する
目地
注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ
種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○ ＿＿＿＿
間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○ ＿＿＿＿
コンクリート版厚さの試験 ※ 行う

5 カラー舗装 (22.6.2)～(22.6.4)

種類	部位	配合その他
※ 加熱系ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石 結合材 ○ ｱｽﾌｧﾙﾄ ○ 石油樹脂（添加量 ＿＿） ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない 舗装の厚さ ＿＿＿ ㎜	○ 車路 ○ 歩行者用通路	
○ 常温系ニート工法		
○ 常温系塗布工法		

着色部の下部
舗装の平たん性 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装
※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2)～(22.7.6)

舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ ＿＿＿＿
表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない
開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない

7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)

○ コンクリート平板舗装

種類	寸法（㎜）	厚さ（㎜）	目地
※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C)	○ ３００角	※ ６０	※ 砂
○ 洗出平板(W) ○ 擬石(S) ○	○	○	○ モルタル

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法(㎜)	厚さ(㎜)	曲げ強度(N/㎟)	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック ○ 京ｴｺﾚﾝｶﾞ ○ 透水性ブロック	車路		※ 80 ○＿＿	※ 5.0 ○＿＿	※ 標準品
	歩行者用通路		※ 60 ○ 80	※ 3.0 ○＿＿	○＿＿＿＿ ○＿＿＿＿
○ 植生ブロック	―		○ 60 ※ 80 ○ 100		

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材 ※ 砂

○ 舗石舗装

種類	形状寸法(㎜)	厚さ(㎜)	工法	基層	基層の厚さ(㎜)
○ 花崗岩		○ 80～100	○ うろこ張り	○ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※ 70
○＿＿＿		○＿＿＿	○＿＿＿	○ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※ 50 ○＿＿＿

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

8 砂利敷き (22.9.2)

通 路 ※ A種 ○ B種
建物周囲その他 ○ A種 ※ B種
※ 下敷きの使用材料は再生クラッシャランとする

9 白線引き

種 類 ○ 溶融式 ● ペイント式 幅（㎝） ● 15 ○ ＿＿＿

12 環境配慮改修工事

1 一般事項 (9.1.1)

● 石綿含有吹付け材除去工事
● 除去工法 （ 湿式集じん装置付きディスクグラインダー工法 ）
○ 封じ込め工法 （ ）
○ 囲い込み工法 （ ）
○ 石綿含有保温材除去工事
○ 石綿含有成形板等除去工事
○ 石綿含有仕上塗材除去工事
※石綿含有建築仕上塗材・下地調整材劣化部除去工事

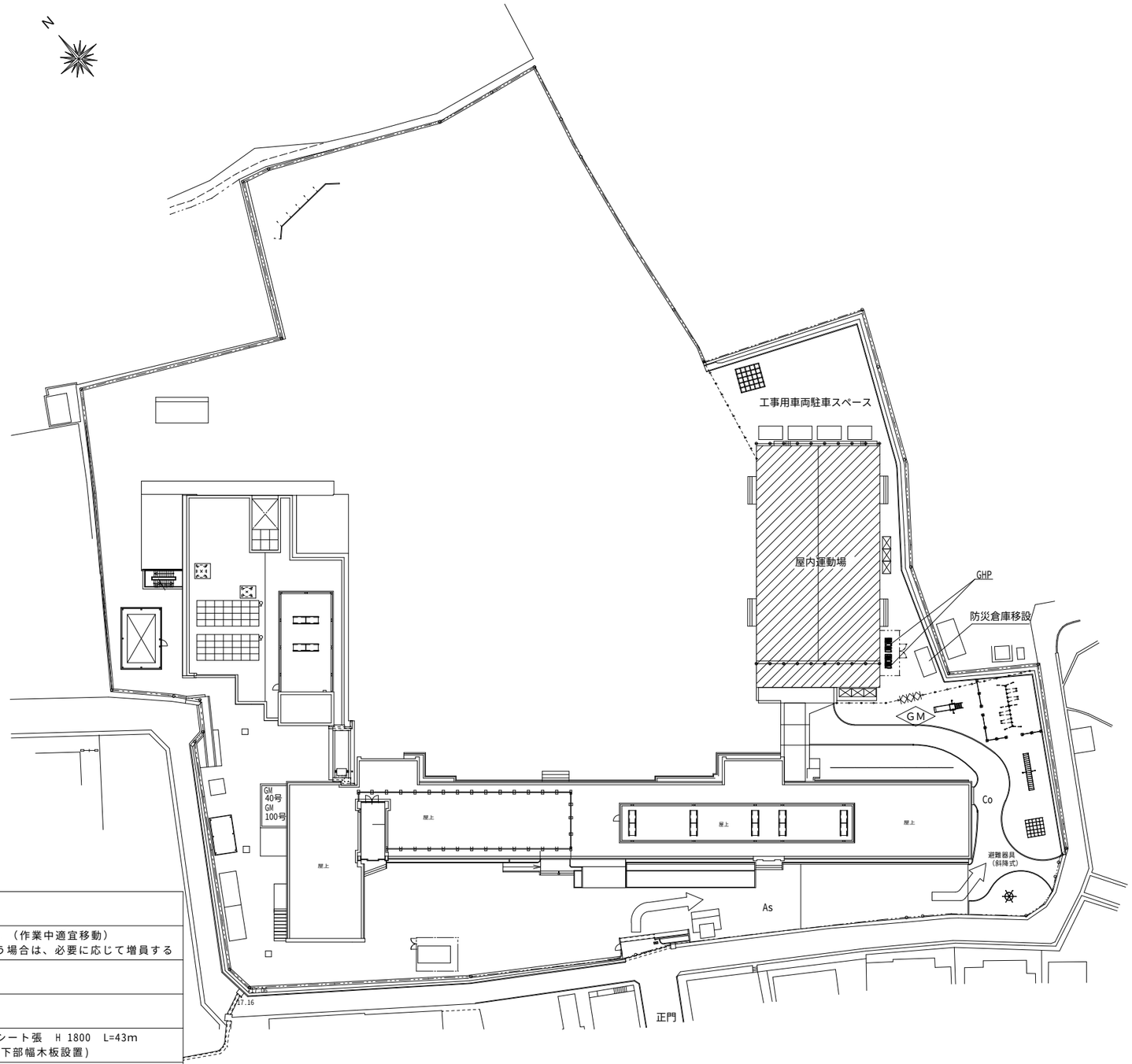
2 仕上げ工事 (9.1.1)

石綿含有建材除去後の仕上げ工事
※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日					No A－１０ 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	建築改修工事 特記仕様書１０		枚ノ内



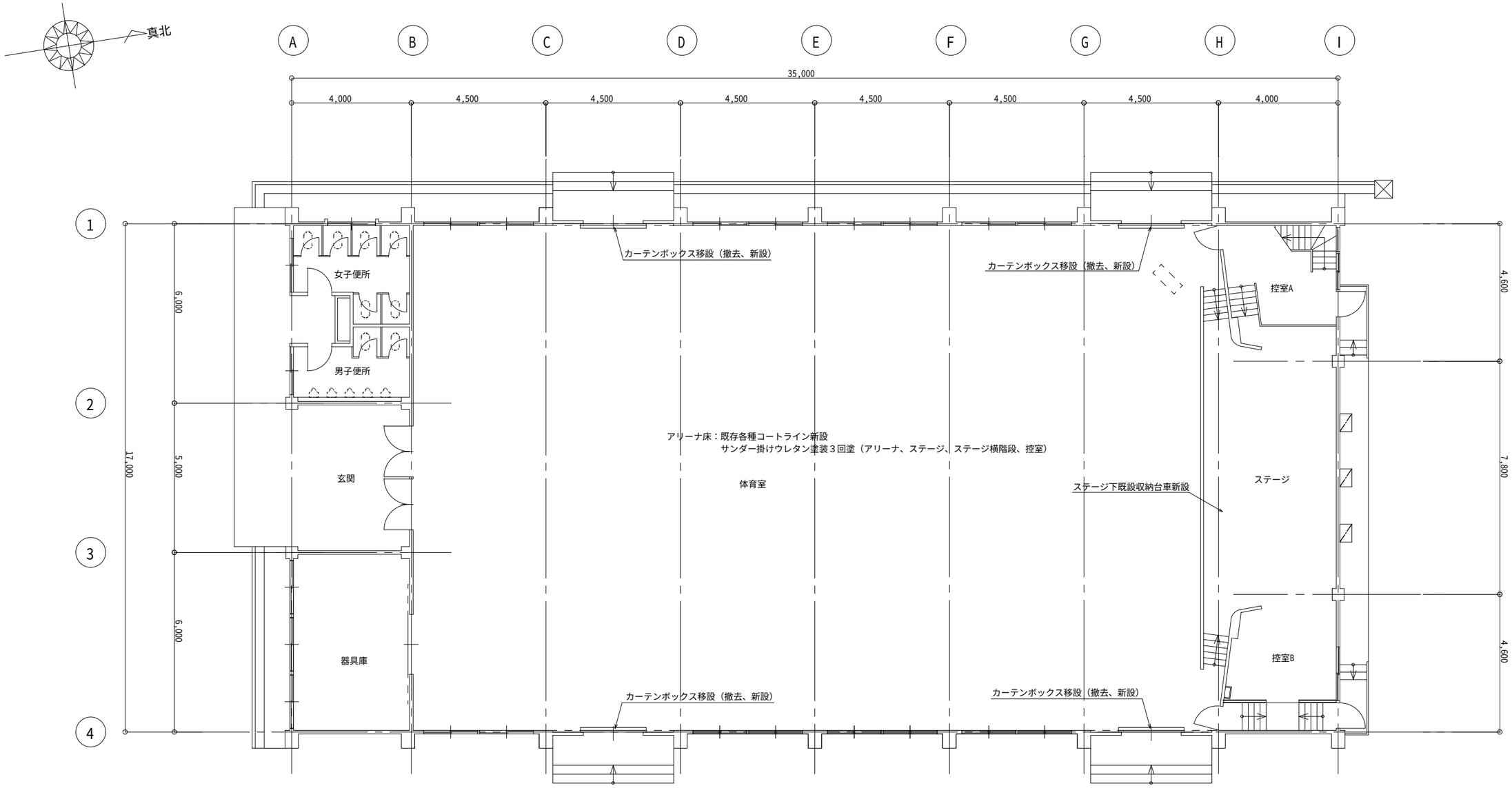
凡例・特記事項	
GM	交通誘導警備員の配備位置を示す。（作業中適宜移動） 大型重機による進入及び作業を行う場合は、必要に応じて増員する
	改修位置を示す
	工事用車両進入路を示す
	仮囲　フェンスバリケード＋養生シート張　H 1800　L=43m （下部幅木板設置）
	キャスターゲート（W3000）
	枠組本足場　W＝1,200
	単管一本足場

配置図　1:500

特記仕様

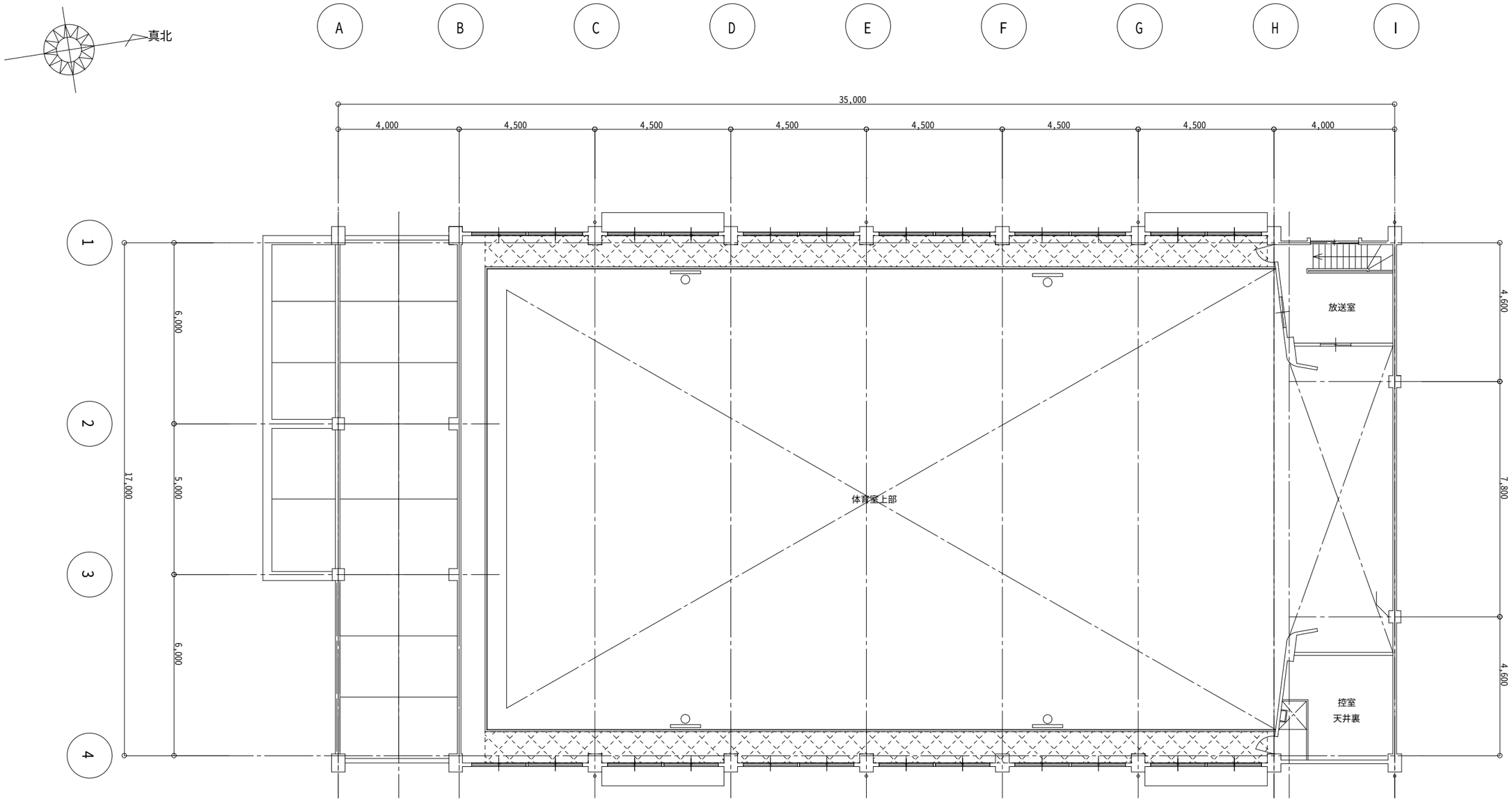
株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日				1/500	No　A－１１号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	配置図兼仮設計画図		枚ノ内



1階平面図　1:100

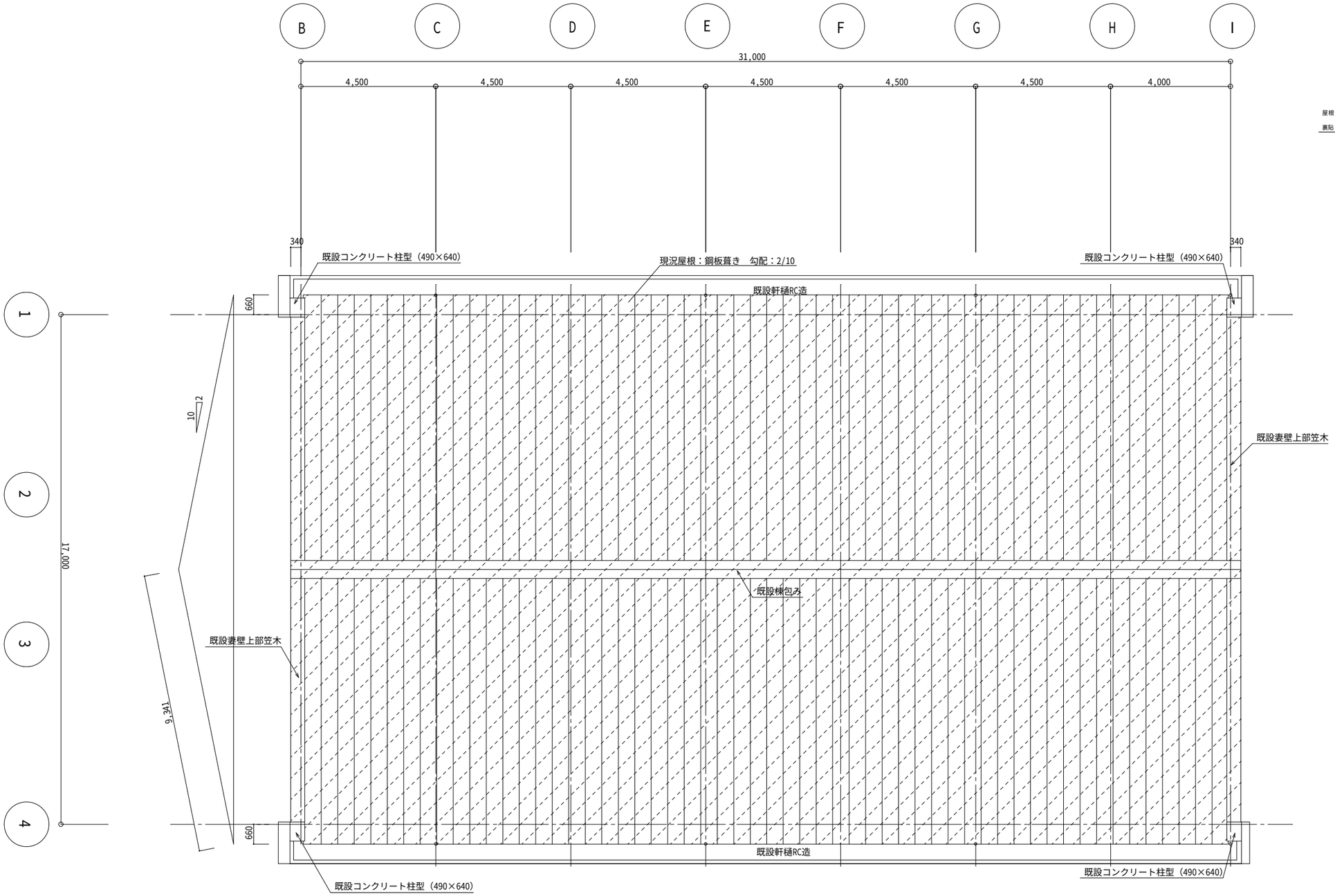
特記仕様	株式会社 木下建築設計事務所 611−0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号 TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生	製図年月日 2025 . 01 . 訂正年月日 監修 設計 製図	工事名称 木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称 改修 １階平面図	縮尺 1/100	図面番号 No Ａ－１２ 号図 枚ノ内



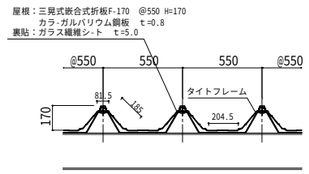
2階平面図　1：100

鉄筋等探査調査範囲

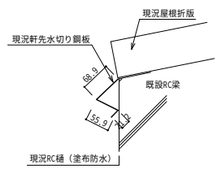
特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細 野 幹 生	製図年月日　2025 . 01 . 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　改修　２階平面図	縮尺　1/100	図面番号　No　Ａ－１３ 号図 枚ノ内



屋根伏図　1：100



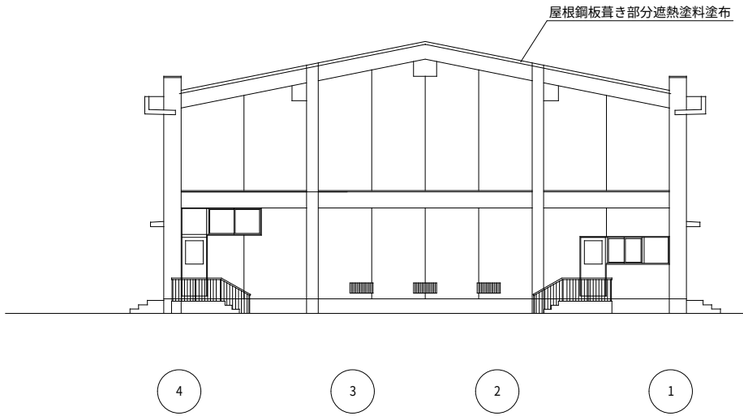
現況屋根材断面図 1:30



軒先詳細図 1:10

屋根鋼板葺き部分遮熱塗料塗布

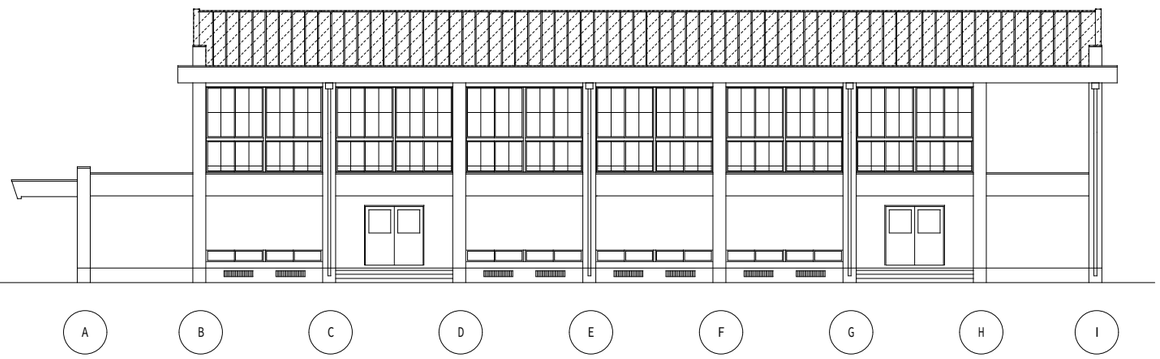
特記仕様	株式会社 木下建築設計事務所 611−0026 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号 TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細 野 幹 生	製図年月日 2025 . 01 . 訂正年月日 監修 設計 製図	工事名称 木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称 改修 屋根伏図	縮尺 1/100	図面番号 No A－１４ 号図 枚ノ内



北立面図　1:150

西立面図　1:150

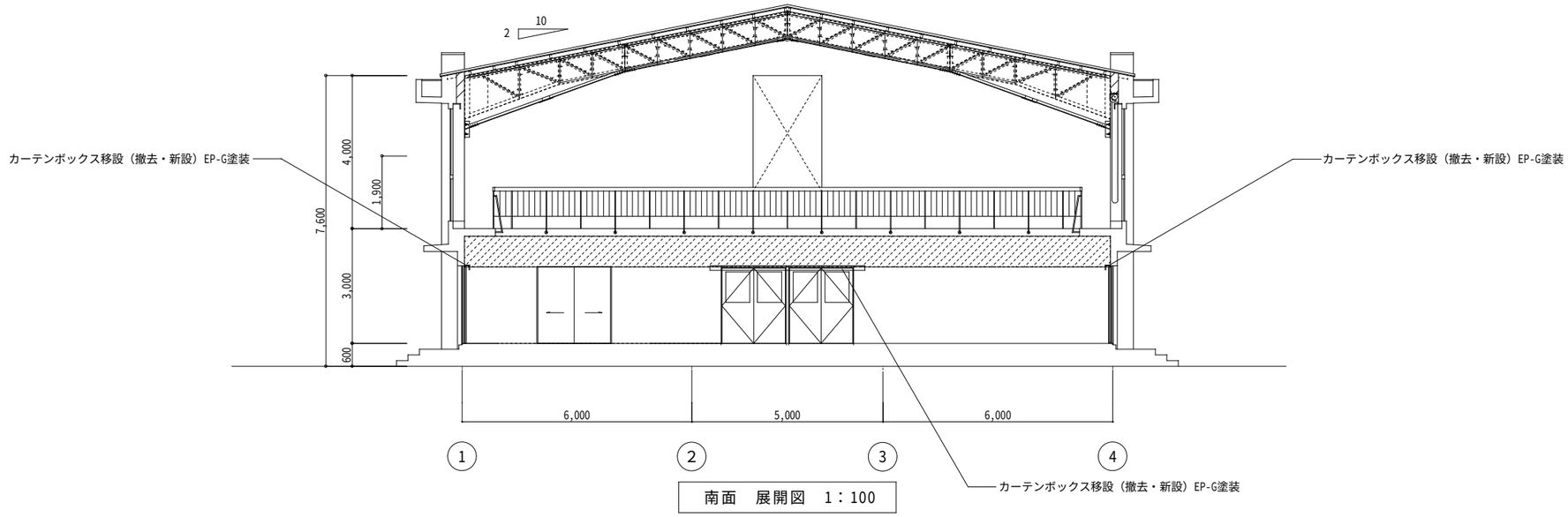
南立面図　1:150



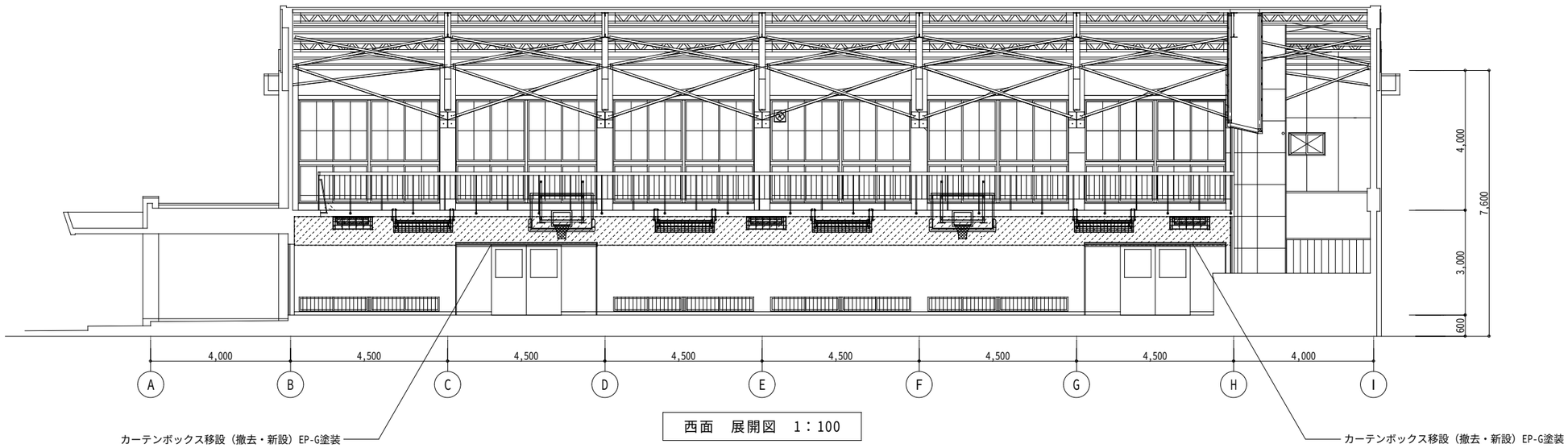
東立面図　1:150

屋根銅板葺き部分遮熱塗料塗布

特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細　野　幹　生	製図年月日　2025 . 01 . 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　改修　北・南・西・東立面図	縮尺　1/150	図面番号　No　Ａ－１５ 号図 枚ノ内



南面　展開図　1：100



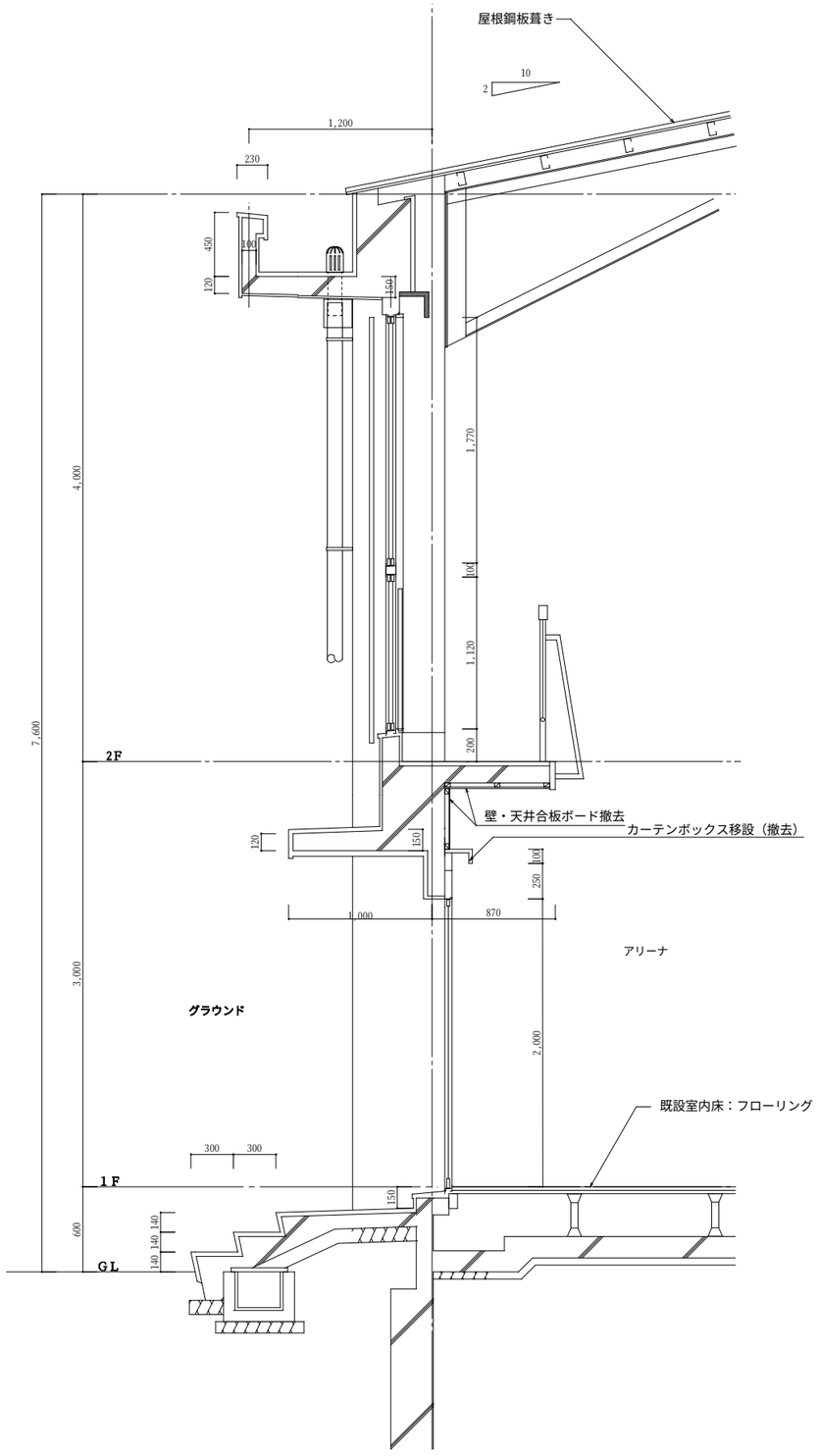
西面　展開図　1：100

鉄筋等探査調査範囲
壁・天井合板ボード撤去・新設
EP-G塗装

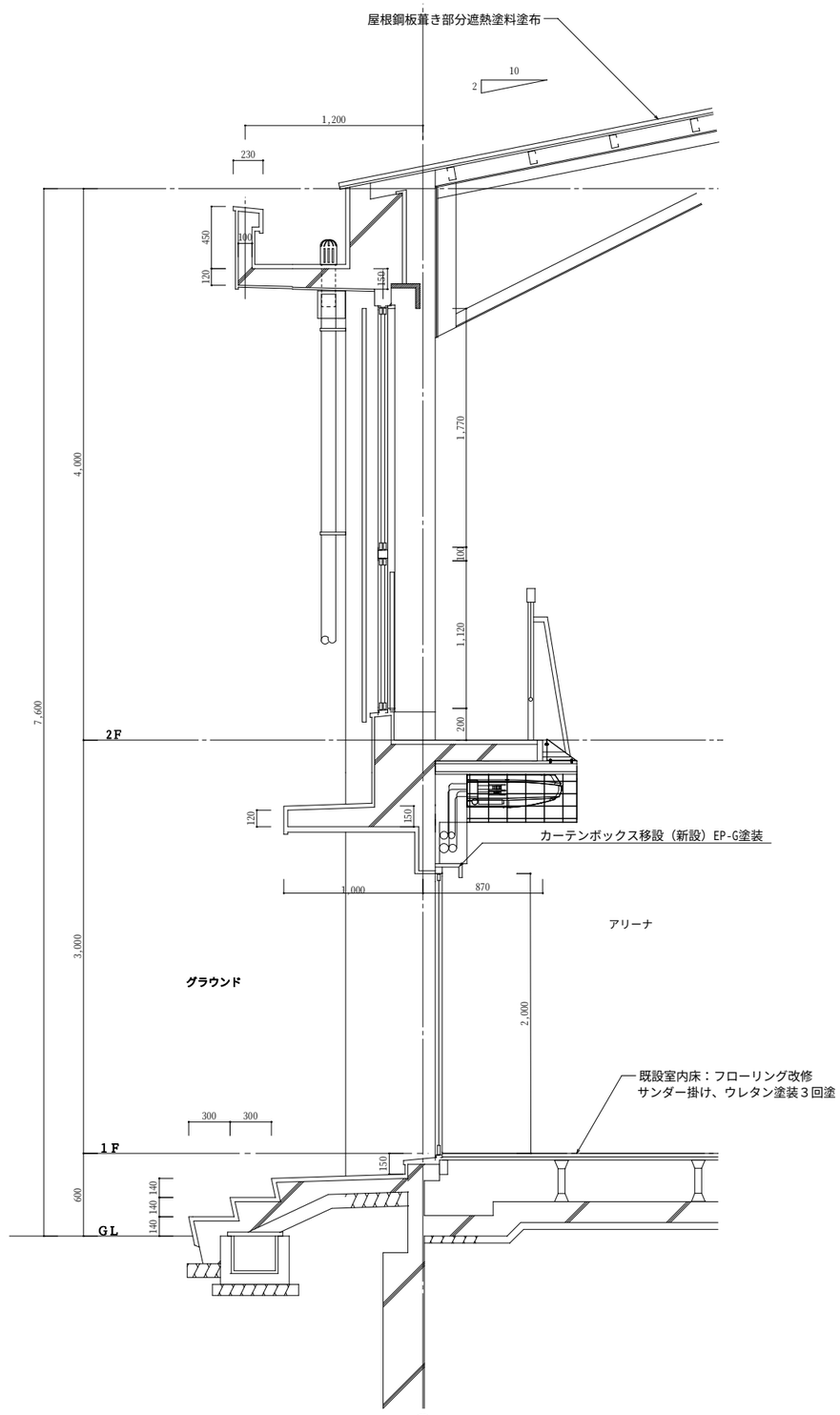
特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日 2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 1/100
訂正年月日			図面番号 No　Ａ－１６ 号図
監修 / 設計 / 製図	図面名称	改修　南・西展開図	枚ノ内

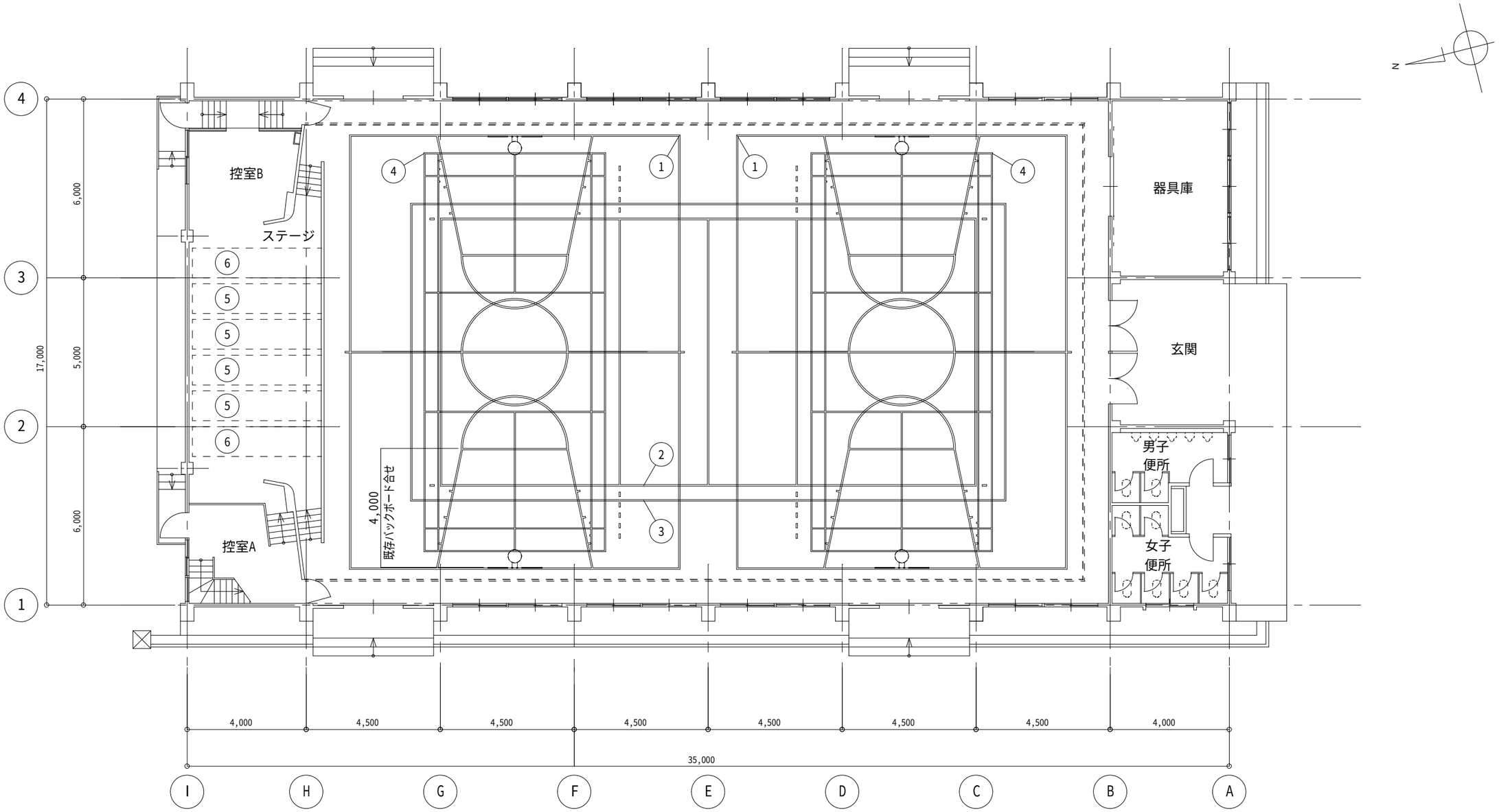


① 現況　矩計図　1:20



① 改修　矩計図　1:20

特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細　野　幹　生	製図年月日 2025．01． 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 1/20	図面番号 No　Ａ－１７ 号図
			図面名称	現況・改修　矩計図		枚ノ内



体育器具工事一覧表

NO	品　番	数量	品　名　／　仕　様	ライン色	ライン巾	優先順位
1	SL212	2面	ミニバスケットボールコート　(14,500×11,000)　全線(フリースローラインは既存バックボード合せ)		50㎜	
2	SL213	1面	一般6人制バレーコート　18,000×9,000　全線		50㎜	
3	SL214	1面	一般9人制バレーコート　20,000×10,000　全線		50㎜	
4	SL215	2面	バドミントンコート　13,400×6,100　全線		40㎜	

NO	品　番	数量	品　名　／　仕　様
5	SS707	4台	椅子収納台車(椅子用)　　キャスター浮上式　L=4,250
6	SS708	2台	万能台車(机・備品用)　　キャスター浮上式　L=4,250
7		527㎡	サンダー掛け、ウレタン塗装３回塗（アリーナ、ステージ、ステージ横階段、控室）

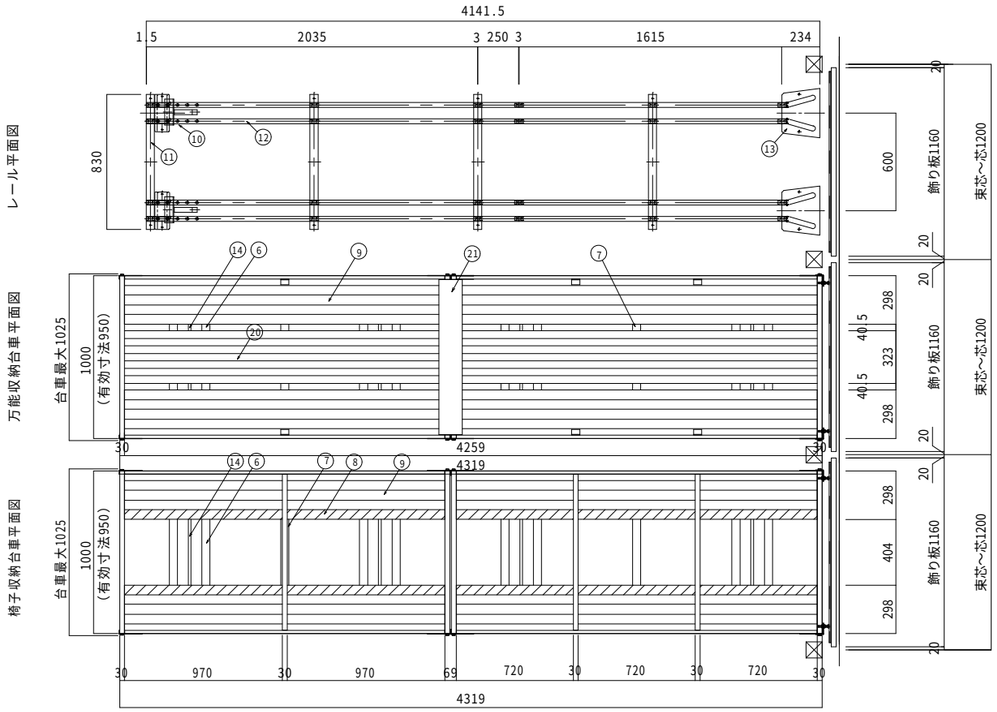
※優先順位・ライン色は、打合せ等により決定のこと
※各コートライン配置位置等は全て参考図示とする
※各コートライン位置は既存バスケットゴール、既存床金具合せとすること
※ミニバスケットボールコート寸法は参考とする。既存バスケット台状況等確認後、最終決定とする

特記仕様

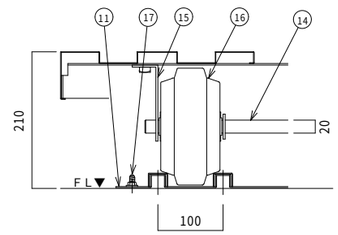
株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日				1/100	No　Ａ－１８ 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	コートライン配置　改修　１階平面図		枚ノ内

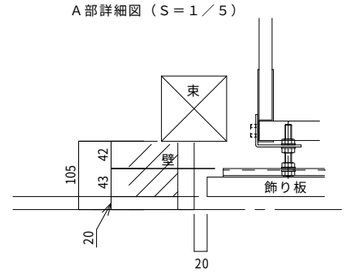
収納台車（Ｓ＝１／２０）

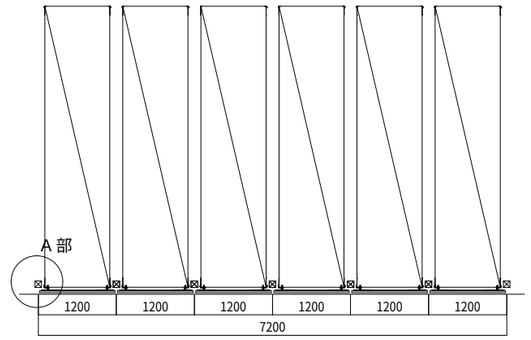


車輪部詳細　Ｓ＝１／５



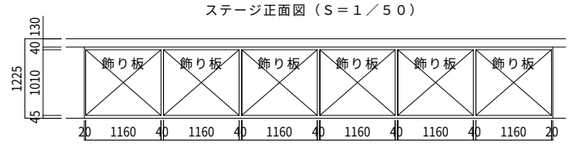
Ａ部詳細図（Ｓ＝１／５）



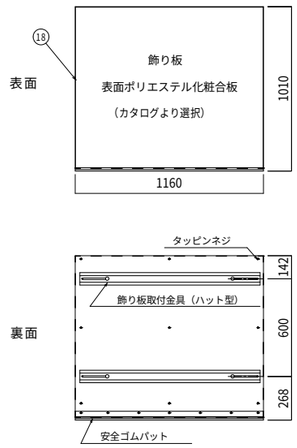


台車収納時平面配置図（Ｓ＝１／５０）

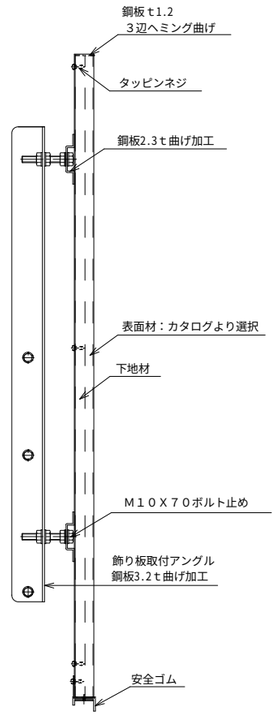
ステージ正面図（Ｓ＝１／５０）



飾り板詳細図（Ｓ＝１／２０）



飾り板断面図（Ｓ＝１／５）



仕　様

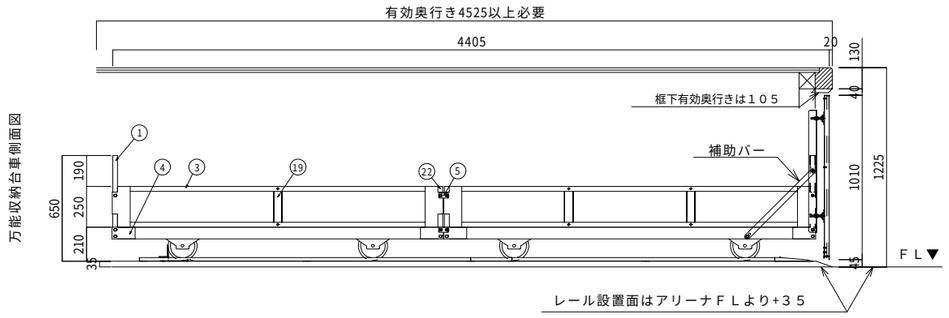
１．ＭＴトラック　椅子収納台車　４ピット４台
　　寸法　Ｗ１０００×Ｌ４２５０×Ｈ６５０
２．ＭＴトラック　万能収納台車　２ピット２台
　　寸法　Ｗ１０００×Ｌ４２５０×Ｈ６５０
３．飾り板　６ピット６枚（表面材はカタログより選択）
４．レール設置面はアリーナＦＬより+３５

主要構成部品仕様書

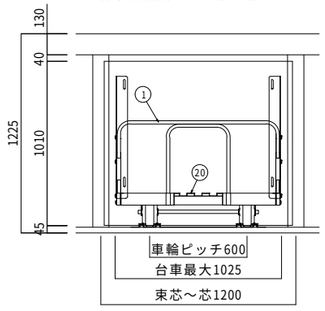
品番	品名	材料・加工等	表面処理
1	押手	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
2	椅子倒れ止め	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
3	サイド枠	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
4	コーナーガセット	鋼板 2.3t	黒色焼付
5	連結ＰＬＴ１	鋼板 2.3t	亜鉛メッキ
6	車輪サポート	鋼板 2.3t	黒色焼付
7	補助サポート	鋼板 2.3t	黒色焼付
8	椅子滑り止め	ポリエチレンシート	
9	床板	亜鉛メッキ鋼板 1.0t	亜鉛メッキ
１０	ストッパー	鋼材 4.5t	黒色焼付
１１	レールサポート	鋼板 1.6t	亜鉛メッキ
１２	ガイドレール	鋼板 1.6t	亜鉛メッキ
１３	車輪ｶﾞｲﾄﾞﾍﾞｰｽ	鋼板 1.6t	亜鉛メッキ
１４	車軸	丸棒 φ20	亜鉛メッキ
１５	軸受	鋼材 4.5t	黒色焼付
１６	車輪	車輪外径 φ１８０ ＭＴトラック専用車輪	本体は 亜鉛メッキ
１７	オールアンカー	Ｍ８×４０	亜鉛メッキ
１８	飾り板	表面ポリエステル化粧合板（カタログより選択） 下地鋼板 1.2t	黒色焼付
１９	サイド枠倒れ止	鋼材 4.5t	亜鉛メッキ
２０	中床板	亜鉛メッキ鋼板 1.0t	亜鉛メッキ
２１	連結ＰＬＴ２	鋼板 2.3t	黒色焼付
２２	パイプ	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ

※既存収納台車及びレール撤去の上新設

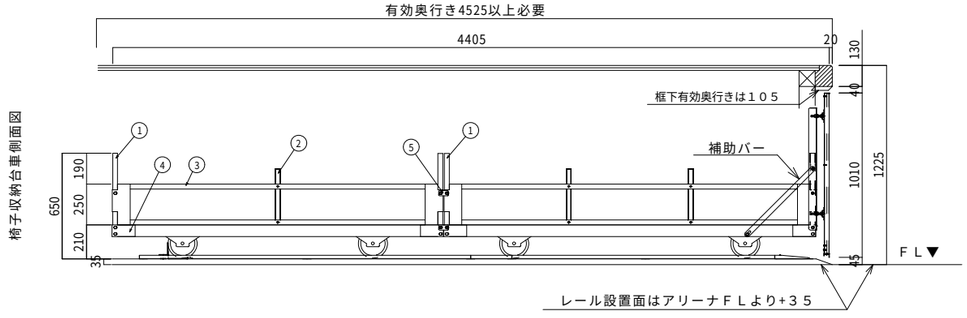
万能収納台車側面図



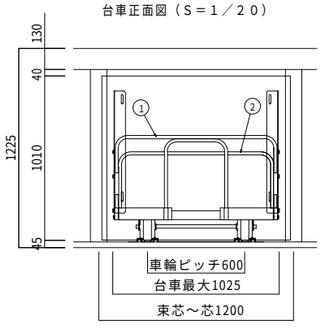
台車正面図（Ｓ＝１／２０）



椅子収納台車側面図



台車正面図（Ｓ＝１／２０）

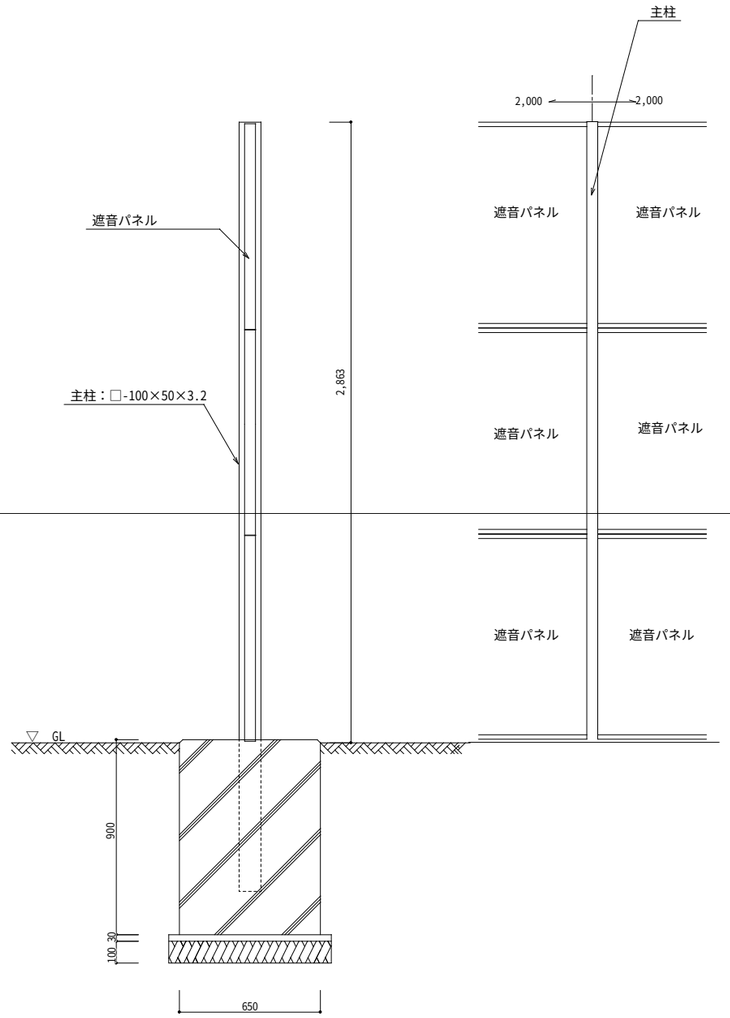


特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611−0026　京都府宇治市開町３７−１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生

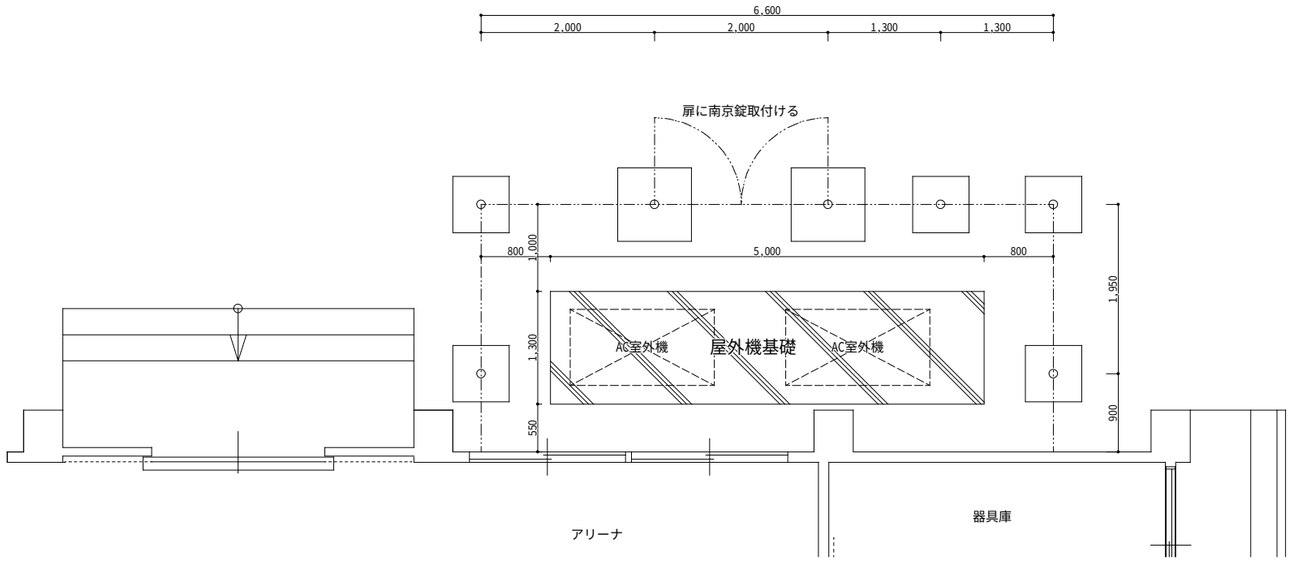
製図年月日	2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
訂正年月日			
監修	設計	製図	
図面名称	収納台車新設詳細図		

縮尺	図面番号
1/5 1/20 1/50	No　Ａ−１９ 号図
	枚ノ内

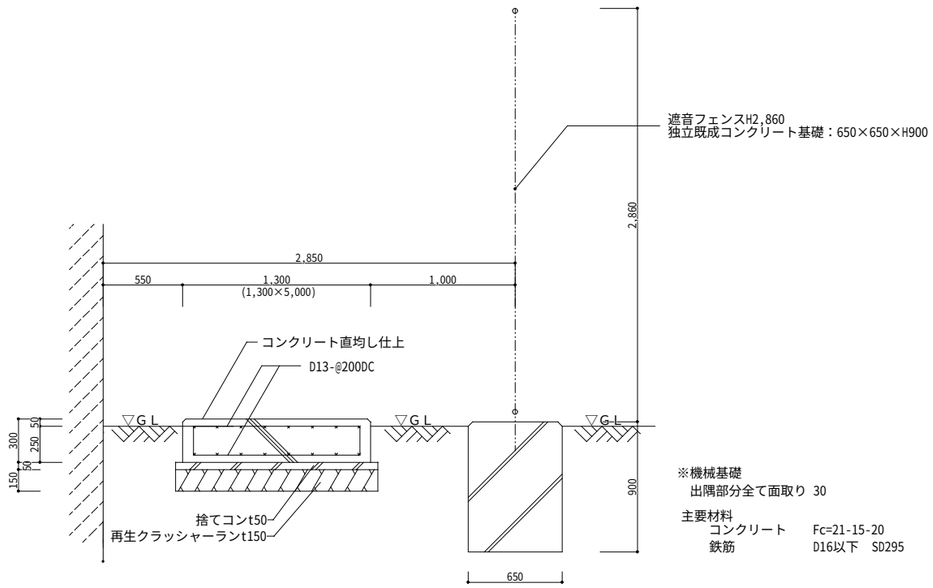


朝日スチール工業：目かくし遮音フェンス（GM-2860-GG）同等品

遮音フェンス詳細図　1:20



室外機配置図　1:50

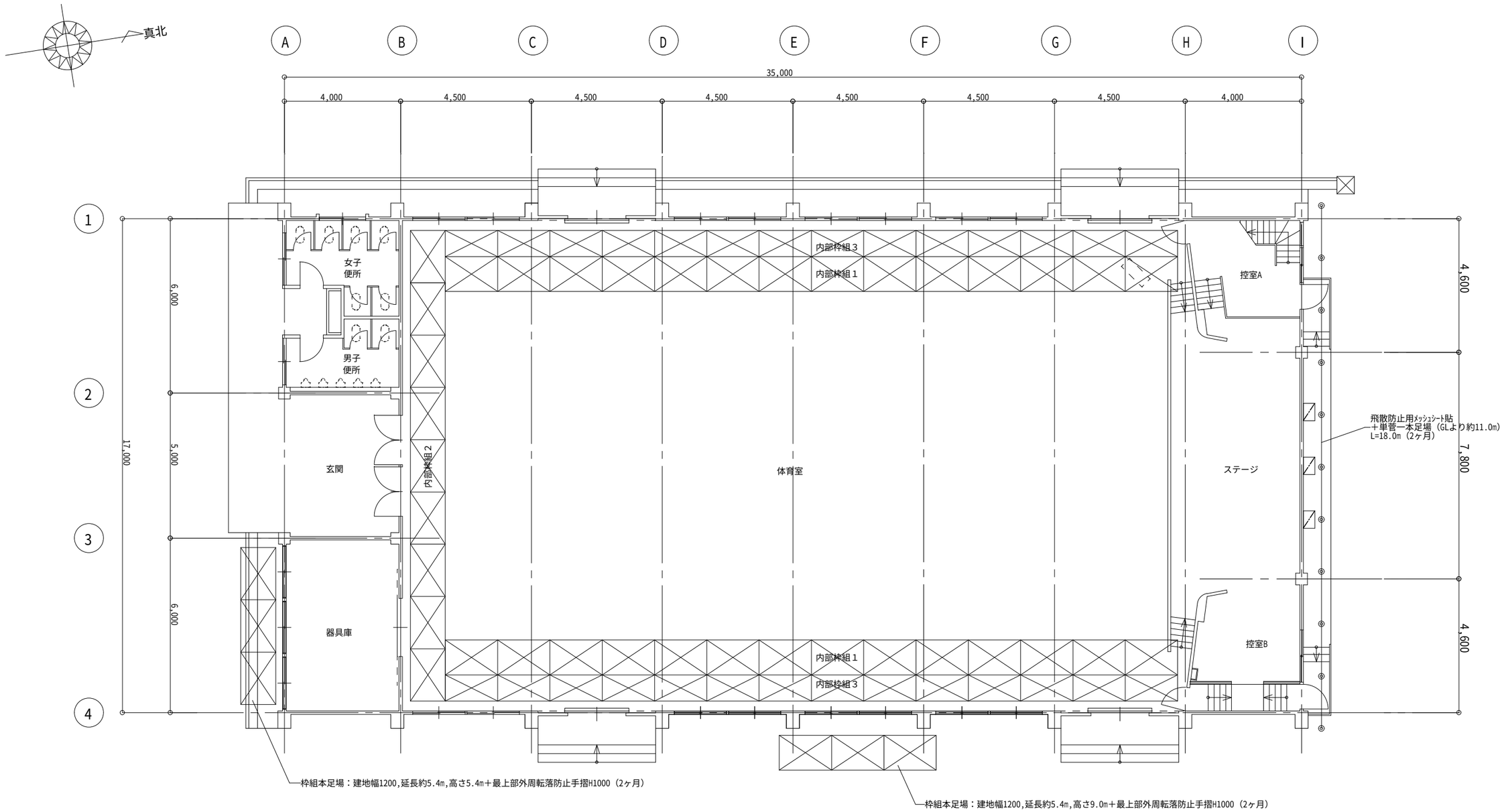


※機械基礎
出隅部分全て面取り 30

主要材料
コンクリート　Fc=21-15-20
鉄筋　D16以下　SD295

機械基礎詳細図　1:30

特記仕様							
	株式会社 木下建築設計事務所 611−0026 京都府宇治市開町３７−１０ 一級建築士登録 第125477号 TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生	製図年月日 2025 . 01 . 訂正年月日	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 1/50 1/30 1/20	図面番号 No A−２０号図
		監修 / 設計 / 製図	図面名称	空調室外機置場詳細図		枚ノ内



【凡例】

※体育室アリーナについて、足場より外側1m程度の範囲について床養生をする。
（ビニルシートの上、合板厚12mm）

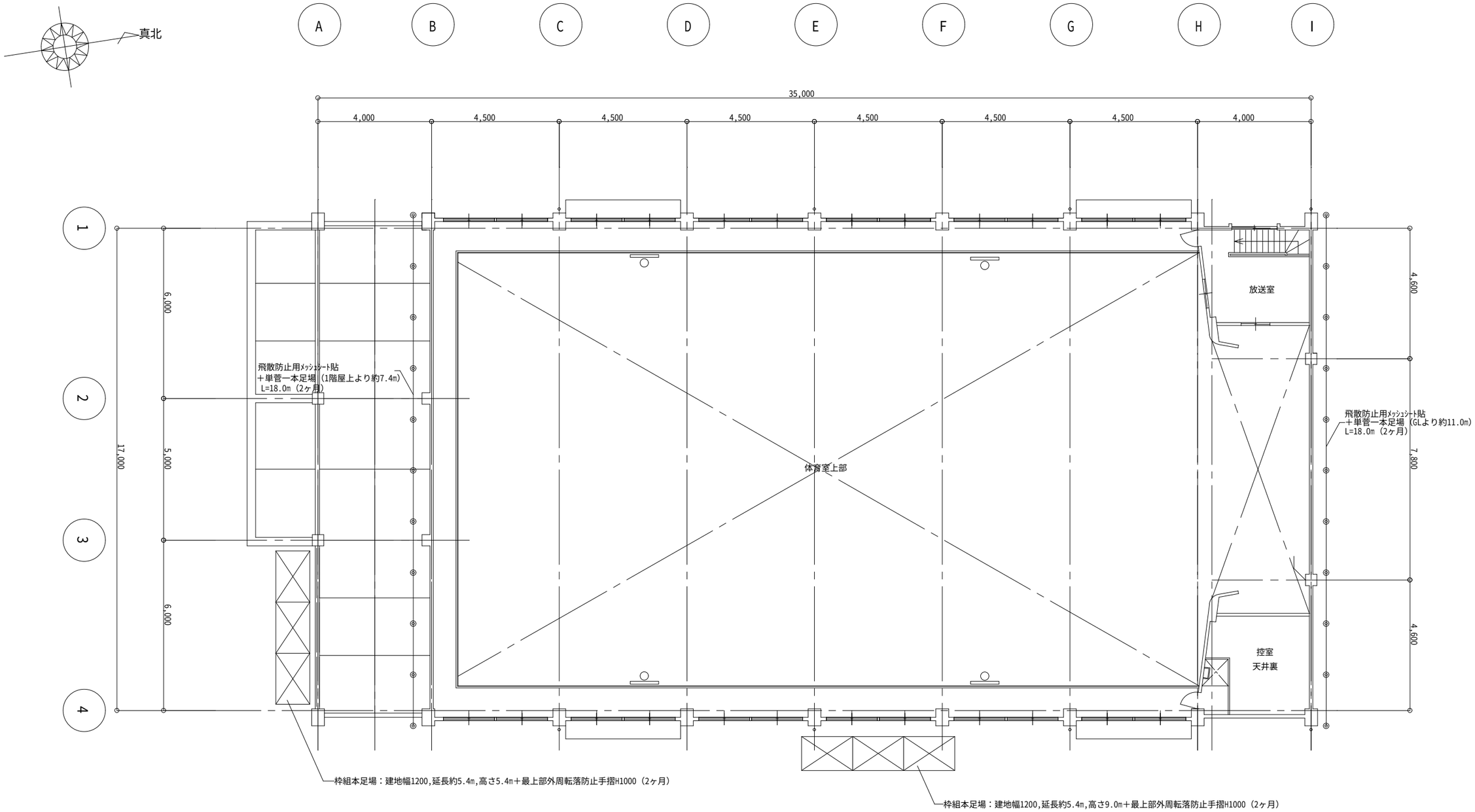
1階平面図　1：100

内部枠組１	枠組本足場：建地幅1200,延長約50.4m,高さ1800＋最上部外周転落防止手摺H1000（4ヶ月）
内部枠組２	枠組本足場：建地幅1200,延長約16.2m,高さ1800＋最上部外周転落防止手摺H1000（4ヶ月）※内部枠組１と連結
内部枠組３	枠組本足場：建地幅900,延長約50.4m,高さ1800＋最上部外周転落防止手摺H1000（4ヶ月）※内部枠組１，２と連結

特記仕様

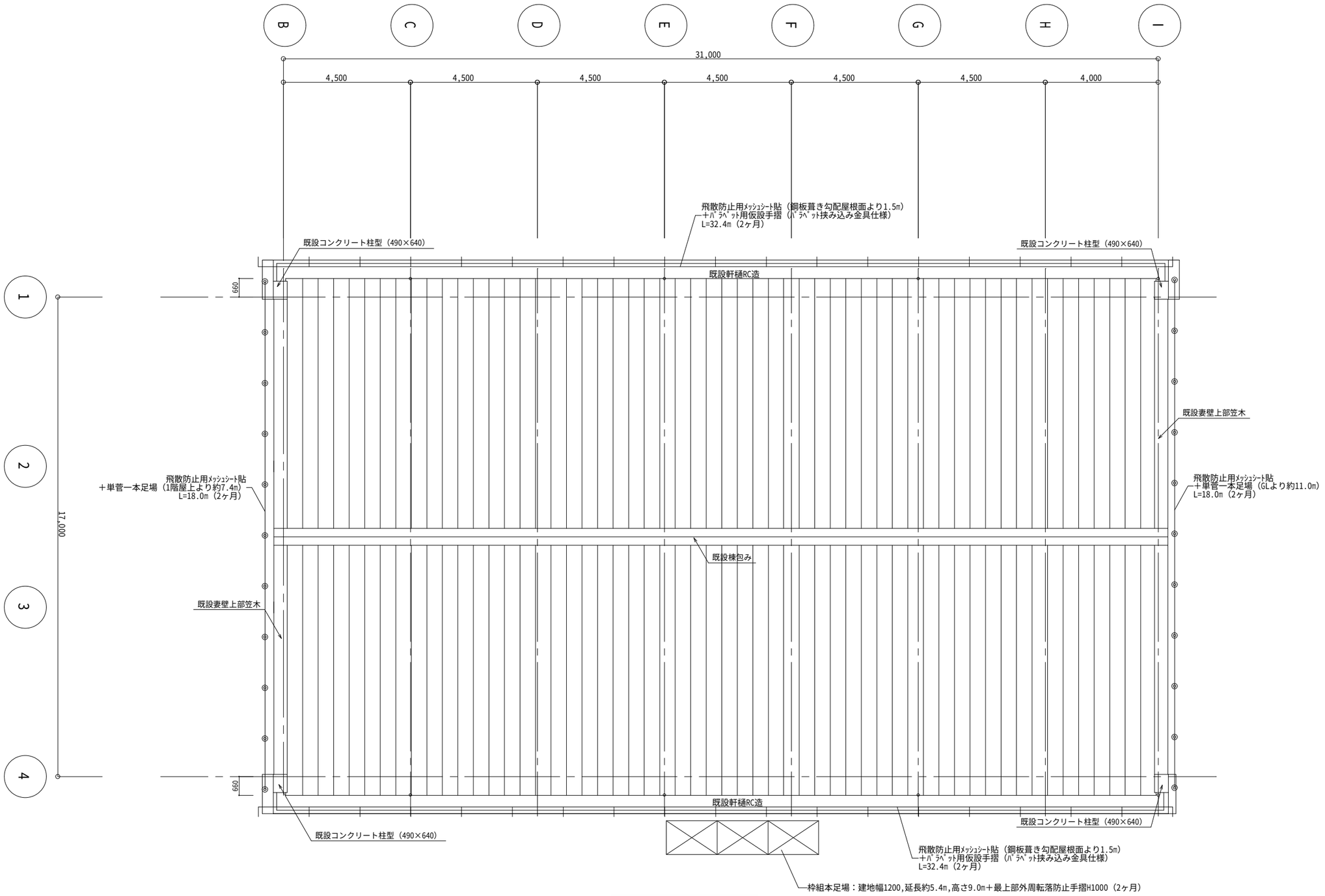
株式会社　木下建築設計事務所
611－0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生

製図年月日 2025 . 01 .	工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺	図面番号
訂正年月日			1/100	No　Ａ－２１ 号図
監修 / 設計 / 製図	図面名称	仮設計画　１階平面図（参考図）		枚ノ内



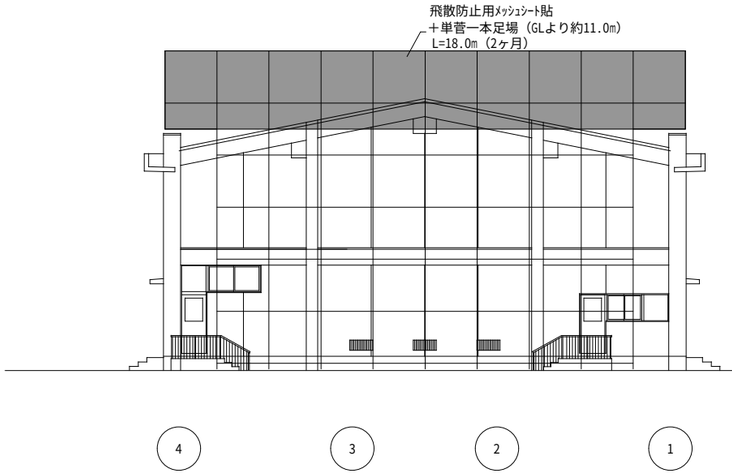
2階平面図　1：100

特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774)　41-6514　FAX (0774)　44-1080　細　野　幹　生	製図年月日　2025．01． 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　仮設計画　２階平面図（参考図）	縮尺　1/100	図面番号　No　Ａ－２２ 号図 枚ノ内

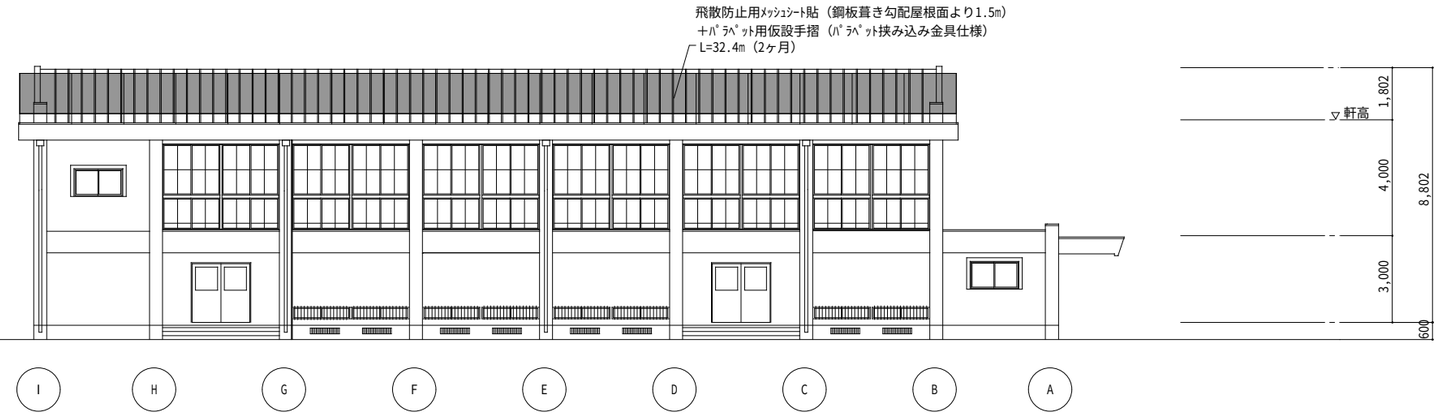


屋根伏図　1：100

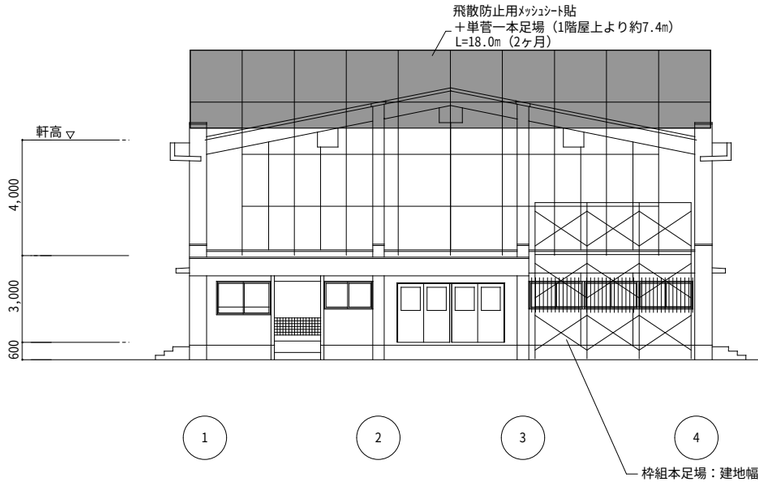
特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生	製図年月日 2025 . 01 . 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　仮設計画　屋根伏図（参考図）	縮尺 1/100	図面番号 No　Ａ－２３ 号図 枚ノ内



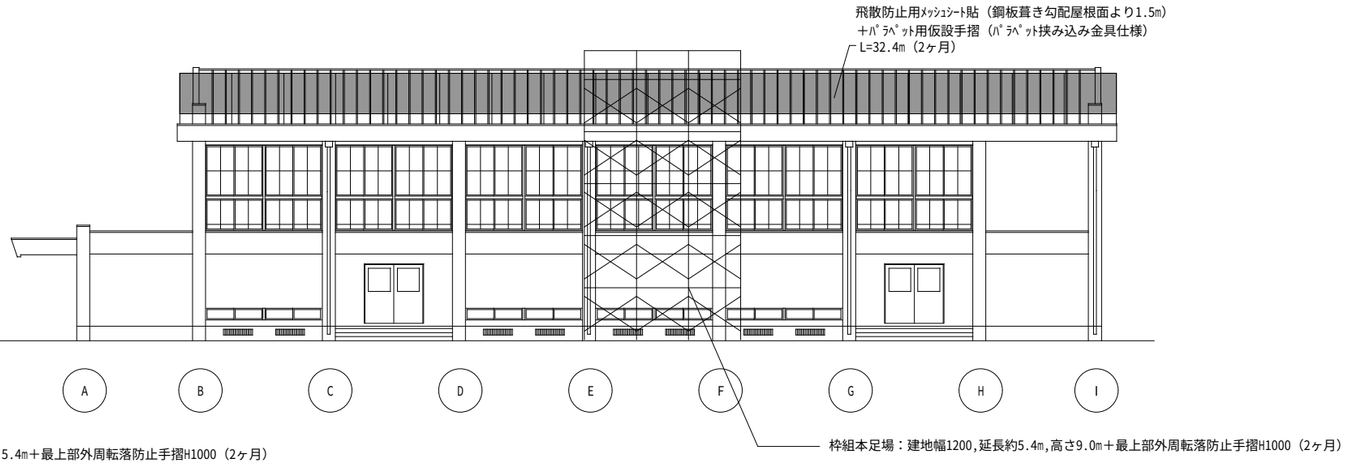
北立面図　1:150



西立面図　1:150



南立面図　1:150



東立面図　1:150

：飛散防止用ﾒｯｼｭｼｰﾄ貼範囲

特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611−0026　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細 野 幹 生	製図年月日 2025 . 01 . 訂正年月日 監修　設計　製図	工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　仮設計画　北・南・西・東立面図（参考図）	縮尺 1/150	図面番号 No　Ａ－２４ 号図 枚ノ内

電気設備工事特記仕様書－１

【工事概要】
1　工事場所　宇治市木幡赤塚4
2　建物概要

建　物　名	構　造	階　数	延床面積(m52)	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備　考
					○甲　○乙	工事区分を記載
					○甲　○乙	例：新営
					○甲　○乙	全館無人改修
					○甲　○乙	執務並行改修

3　工事科目　　●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目＼建物名称	体育館棟			
電灯設備	●	○	○	○
動力設備	○	○	○	○
雷保護設備	○	○	○	○
受変電設備	○	○	○	○
電力貯蔵設備	○	○	○	○
発電設備	○	○	○	○
構内情報通信網設備	○	○	○	○
構内交換設備	○	○	○	○
情報表示設備	○	○	○	○
映像・音響設備	○	○	○	○
拡声設備	○	○	○	○
誘導支援設備	○	○	○	○
テレビ共同受信設備	○	○	○	○
監視カメラ設備	○	○	○	○
駐車場管制設備	○	○	○	○
防犯・入退室管理設備	○	○	○	○
火災報知設備	○	○	○	○
中央監視制御設備	○	○	○	○
医療関係設備	○	○	○	○
構内配電線路	○	○	○	○
構内通信線路	○	○	○	○
電波障害調査	○	○	○	○
撤去工事	●	○	○	○

【特記事項】
1　一般事項
1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和４年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版」による。
2）工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
2　特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項　目	特　記　事　項
一般事項	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２（２）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第１０条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気工事士	契約電力５００ｋW以上の場合も、第１種電気工事士による施工を行う。
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが　※できる　○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない　○設置する　（○本工事　○別途）
	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)　・公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) ・電気設備工事監理指針　・電気設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針　・工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 ・公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)
	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理　○引き渡しを要するもの　【　　】 右記のほか、現場説明書による。　○再生資源利用を図るもの【　　】 ○特別管理産業廃棄物 ○ＰＣＢ使用機器　○ＳＦ６ガス使用機器　○
		○建設発生土処分　○構外指定地に搬出処理　※(一財)城陽山砂利採取地整備公社 右記のほか、現場説明書による。　○ ○構内指示場所に敷き均し
		再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書による。
		1）「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。 2）関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。
		○アスベスト成形板の処理等（以下のほか、現場説明書による） 施工調査　アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲　※成形板の製造年等の確認　○Ｘ線解析法 処理方法　※非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従いあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。

章	項　目	特　記　事　項
一般事項	※工事関係書類	営繕工事契約関係提出書類書式集5◆一覧表により提出。 ◆宇治市ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ参照tp://www.city.uji.kyoto.jp>
	※履行報告	月報　※２部　○３部　毎月末にメ〆、翌月の５日までに提出する。
	※工事写真	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領（最新版）」による。 2）工事完成時、整理の上、１部提出する。 3）小黒板情報電子化については、現場説明書による。。
	※完成図書	名　称 ／ 内　容 ／ 大きさ ／ 部　数 ○完成図 ／ 金文字製本 ／ Ａ４版 ／ １　部 ○完成図 ／ ○背貼り製本（　版）　○Ａ４ファイル止め ／ ／ ２　部 ○施工図 ／ ○背貼り製本（　版）　○Ａ４ファイル止め ／ ／ ２　部 ○機器完成図等 ／ 機器製作図　ファイル止め 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ／ Ａ４版 ／ ２　部 ○諸官庁提出書類 ／ 副　本 ／ ／ １　式 ○原図 ／ 完成図 ／ ／ １　部 ○完成写真 ／ アルバム綴り ／ ／ ２　部 電子納品については、現場説明書による。
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。
共通事項	●耐震施工	1）設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」により計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2）下記の設計用水平震度（ＫＨ）により、機器製作固定を行う。

設　置　場　所	●特定の施設 重要機器	●特定の施設 一般機器	○一般の施設 重要機器	○一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0（2.0）	1.5（2.0）	1.5（2.0）	1.0（1.5）
中　間　階	1.5（1.5）	1.0（1.5）	1.0（1.5）	0.6（1.0）
１階及び地下階	1.0（1.0）	0.6（1.0）	0.6（1.0）	0.4（0.6）

設　置　場　所	○特定の施設 水　槽	○一般の施設 水　槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5
中　間　階	1.5	1.0
１階及び地下階	1.5	1.0

注１　耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設、乙類の建物は一般の施設を適用する。
注２　屋外に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。
注３　（　）内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。
注４　設計用鉛直震度は、設計用水平震度の１／２とする。
注５　上層階の定義は、６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上階２階。
注６　重要機器（水槽類含む）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。）
○配電盤　○直流電源装置　○自家発電装置　○交換機
○電算用電源　○中央監視装置　○ＵＰＳ装置　○自動火災報知装置
注７　操作卓は本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとし、卓上機器は、転倒防止用の措置を講じたものとする。

章	項　目	特　記　事　項
共通事項	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分 Ｖo（○30　○32　○34）　地表面粗度区分（○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ）
	○風圧力（耐風力）	建築基準法施行令第８７条に定めるところによる風圧力（耐風力）検討（計算）書を監督職員に提出する。なお、検討（計算）範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 ○受雷部システム及び引下げ導線システム　○太陽光アレイ及び接続箱 ○風力発電装置　○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト　○
	●電線類	1）特記なきものは、ＥＭ－ＩＥとする。 2）ＥＭ電線、ＥＭケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。

ＥＭ－アクセスフロア	ＪＣＳ４５０２（６００Ｖアクセスフロア用耐燃性ポリエチレンシースケーブル）による６００Ｖアクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル（ＥＭ－ＥＥ）及び６００Ｖアクセスフロア用架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル（ＥＭ－ＣＥ）を示す。
ＥＭ－ＭＥＥＳ	ＪＣＳ４２７１に準じ、絶縁材及びシースにＪＣＳ規格によるＥＭケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの

3）長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入線（樹脂被覆鉄線等）を挿入する。

章	項　目	特　記　事　項
共通事項	●電線管	電　線　管　●ＰＦ管　ただし、露出部分は鋼製電線管とする。分電盤等の２次側で第１ボックスまでは(※鋼製電線管 ○ＰＦ管)とする。 ○ねじなし電線管 1）雨線外及び湿気の多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2）スラブ厚の１／４を越える外径の配管及び（ＰＦ２２）又は（Ｅ２５）相当を越えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。
		最上階の埋込配管　最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。
		下記の露出配管は塗装（指定色塗装）を行う。 ●屋外（○屋上を除く）　○屋内居室　○屋内ＰＳ･ＥＰＳ　○屋内機械室・電気室　○廊下
	●電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。
	○ボックス	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
	○予備配管	分電盤の予備の配線用遮断器が４個以下の場合（２５）を１本、５個以上の場合（２５）を２本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に（５１）を１本以上立上げる。
	●フラッシュプレート	和　室　○樹脂製　○金属製（○新金属製　○ステンレス製） その他　○樹脂製　●金属製（○新金属製　○ステンレス製）
	○床配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。（図面特記のあるものを除く。） 二重床　※インナー形　○飛び出し形　○内部固定形　○外部固定形 二重床以外　※飛び出し形　○引出し形　○内部固定形　○外部固定形 （フロアベースは水平高低調整式（空転防止リング付）　※砲金製　○アルミ製とする。）
	●機器	寸　法　盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接　続　電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト　アンカーボルト、全ネジ及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等　（○溶融亜鉛メッキ　●ＳＵＳ） その他　（○一般品　●ＳＵＳ　○　）

章	項　目	特　記　事　項
共通事項	●あと施工アンカー	施工後確認試験　●行う　○行わない 試験方法　引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成三十一年度版）「８．１２．７ 施工確認試験」による。 確認強度　監督職員との協議による。
	●機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、ＥＭ電線及びＥＭケーブルを使用する。 ただし、高圧主回路配線はこの限りでない。 ●分電盤　○ＯＡ盤　○実験盤　●開閉器箱　●制御盤 ●キュービクル式配電盤　○直流電源装置 ○交流無停電電源装置（ＵＰＳ）（簡易型を除く）
	●はつり	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。
	●再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛かり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。
	●その他	屋外の盤類・開閉器箱　○ＳＵＳ　●鋼板製（溶融亜鉛メッキ） 屋外のプルボックス　●ＳＵＳ　○鋼板製
電灯設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●電気方式	幹線　●単相３線式　１００Ｖ/２００Ｖ　○直流２線式　１００Ｖ 分岐　●単相２線式　○１００Ｖ　○２００Ｖ ○直流２線式　１００Ｖ
	○照明制御による効果の評価	一般社団法人日本照明器具工業会技術資料１３０「照明制御装置による消費電力削減効果の評価手法」により、消費電力削減効果の評価を行い監督職員に提出する。
	○照明制御装置	照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。センサー設定器を附属させる。
	○多重伝送制御システム	多重伝送制御システムの設定は、監督職員の指示による。システム設定器を附属させる。
	○ＬＥＤ制御装置の種類	図面特記があるものを除き、ＬＥＤ照明器具の制御装置の種類は、調光信号線が接続された器具にあってはＬＸ又はＬＺ、それ以外はＬＮ又はＬＪとする。
	○ＲＰ又はＭＰ形照明器具	標準図において、防雨形または防湿形の器具本体の材質に、ＳＵＳを含む複数の材料が適用されている場合は、ＳＵＳを適用する。
	○非常用照明の形式	○電池内蔵形　○電池別置形
	○フロアコンセント	○引出し形　○飛び出し形　○内部固定形　○外部固定形　○ＯＡフロアー用
	●分電盤等	1）本工事の分電盤、ＯＡ盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、ＪＩＳ Ｃ ８２０１-２-１「回路遮断器」、同付属書ＪＣ「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、ＪＩＳ Ｃ ８２０１-２-２「漏電遮断器」、同付属書ＪＣ「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」、による１極サイズのものとする。 2）ＳＰＤ分離器（配線用遮断機）は　（○警報接点付　○警報接点無）とする。 3）ＳＰＤ分離器は、監督職員の承諾を受けて、ＳＰＤ内蔵とすることができる。
		ＯＡ盤の端子盤部に　○通気口　○冷却ファン　を設ける
	○照明用ポール	○開閉器を設ける(○配線用遮断器○カットアウトスイッチ)　○開閉器を設けない
	○一般照明の照度測定	実施　○する　○しない
動力設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○電気方式	幹線　○三相３線式　２００Ｖ　○ 分岐　○三相３線式　２００Ｖ　○
	○制御盤	1）制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 2）インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付けた場合、開扉時に冷却装置を休止させる。 3）インバータ発熱対策用冷却装置の故障を　盤面に表示（○させる　○させない）
	○監視方法	○警報盤による代表監視　○中央監視制御装置による監視
	○インターロック	自動火災報知設備の受信機、連動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して、制御盤で空調機を停止させる。
	○インバータ装置の規約効率	三相可変性電動機用インバータ装置の規約効率は、次表の値以上とする。

電動機出力（kW）	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11
ｲﾝﾊﾞｰﾀ効率（%）	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5
電動機出力（kW）	15	18.5	22	30	37	45	55	75
ｲﾝﾊﾞｰﾀ効率（%）	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

備考）1）電動機の供給電圧は１００Ｖ又は２００Ｖとする。
2）インバータ効率は、１００%負荷時の値とする。

章	項　目	特　記　事　項
雷保護設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○保護レベル	○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ
	○受雷部システム	突針支持管　○鋼製　○ステンレス製
	○接地システム	○Ａ型接地極（○板状接地極　○垂直接地極　○放射状接地極） ○Ｂ型接地極（○環状接地極　○網状接地極） ○構造体利用接地極（構造体底盤部の大地抵抗率測定のための大地抵抗率測定用補助接地極を○設ける　○設けない）
受変電設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○電気方式	高圧　三相３線式　６ｋＶ 低圧　○三相３線式２００Ｖ　○単相３線式１００Ｖ／２００Ｖ ○三相４線式　Ｖ　○三相４線式　Ｖ／　Ｖ
	○配電盤形式	○屋内キュービクル式配電盤　○屋外キュービクル式配電盤　○開放形配電盤 ○変圧器盤　○コンデンサ盤　○系統連系保護制御盤 ○高圧スイッチギア（○　ＣＸ形　○　ＣＷ形　○　ＰＷ形　） ○低圧スイッチギア（○　ＣＸ形　○　ＣＳ形　○　ＣＷ形　○　ＦＷ形）
	○変圧器の規格〔グ〕	1）変圧器（スコット結線変圧器、モールド変圧器でＨ絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低圧または特別高圧のものを除く。）は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 2）ダイヤル温度計は、最高温度指針付とする。
	○監視方式	○警報盤による代表監視　○中央監視制御装置による監視
	○基礎	○本工事　○別途工事　○既設
	○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する。
	○その他	○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。（幅６００mm以上・高さ１，８００mm以上） ○盤内照明器具はＬＥＤとする。 ○換気扇を設ける場合は回転センサ付とする。（盤面警報ランプ共）

特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611－００２６　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生

製図年月日	R04.12	建築主	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 ――	図面番号
訂正年月日		工事名称			No　E-01　号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	電気設備工事特記仕様書　-１		枚ノ内

電気設備工事特記仕様書－２

章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○直流電源装置	用途　○建築基準法用　○消防法用　○受変電設備専用 その他　○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、９０Ｖとする。
	○交流無停電電源装置（ＵＰＳ）	用途　（　　） 方式　○一般形　○簡易形
発電設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○形式	○オープン形　○簡易形　○キュービクル
	○連続運転可能時間	○１０時間（乙）　○７２時間（甲）　○
	○発電機	電気方式　三相３線式 電　圧　○２１０Ｖ　○６．６ｋＶ　○４１５Ｖ 定格出力　ｋＶＡ以上　力率　０．８
	○原動機	種　別　○ガスタービン　○ディーゼル機関　○ガスエンジン ○マイクロガスタービン　○燃料電池　○コージェネレーション 定格出力　ｋＷ（　ＰＳ）以上 始動方式　○電気式　○空気式 冷却方式　○ラジエーター式　○水槽循環式 現地負荷試験　○行う　○行わない
	○燃料	種類　○重油　○軽油　○灯油　○ガス（　　） ○燃料小出槽　㍑ ○主燃料槽　㍑
	○監視方式	○警報盤による代表監視　○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池　アレイ　公称最大出力　ｋＷ以上 設置可能建築面積　ｍ52以下（長辺　ｍｘ短辺　ｍ）
		系統連系　○受動　○能動
		パワーコンディショナ出力　相　線式　Ｖ　ｋＷ以上
		逆潮流　○有　※無
		交流出力電圧　○１００Ｖ　○２００Ｖ
		出力電気方式　○三相３線式　○単相３線式　○単相２線式
	○外部移報	○有　○無
構内情報通信網設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
構内交換設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○保安器用接地	○本工事　○別途工事
	○形式	○電子交換機　○ボタン電話装置
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置　○出退表示設備　○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○親時計及び付属装置	○ＣＲ　-Ｐ　Ｍ　○ＣＷ　-Ｐ　Ｍ ○プログラムタイマ（○カード式　○キー式　○　　）
	○子時計	特記なきものは　○ＳＷＡ$3$3－Ｇ$ＰＢ$2　○
映像音響設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
拡声設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○増幅器	用途　○全館放送用（○一般放送　○非常放送）　○ローカル放送用
		○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
	○スピーカ	特記なきものは　○ＳＣ$6Ｈｉ－１Ｖ$3－Ｍ　○
誘導支援設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○工事内容	○音声誘導装置　検出方式　（○磁気式　○無線式　○画像認識）
		○インターホン　○電話式　○相互式
		○テレビインターホン　○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○
		○トイレ等呼出し装置　○１窓　○３窓　○５窓　○ 呼出しボタン　○壁付ボタン(プルスイッチの長さは０．２ｍ程度とする) ○壁付握りボタン(握りボタンの長さは１．２ｍ程度とする) ○通話機能
		○受付呼出し装置　○誘導音
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○アンテナ	○ＵＨＦ用　○ＢＳ用　○ＣＳ用 ○ＡＭ用　○ＦＭ用　○ＣＡＴＶ
	○アンテナマスト	○壁面取付形　○自立形 ○配管用ステンレス鋼鋼管 ○一般構造用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）
	○電界強度測定	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

章	項目	特記事項
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○画像	○カラー　○白黒
	○伝送方式	○ネットワーク伝送方式　○デジタル同軸伝送方式　○
駐車場管制設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式　○光線方式
防犯・入退室管理設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置　○入退室管理制御装置
火災報知設備	○自動火災報知装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○受信機（既設）　○　Ｐ形　１級　３５回線 ○壁掛形　○自立形 ○単独形　○複合形 ○副受信機　窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。
		○光警報装置　○
		○消火ポンプ始動　○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
		○機器収容箱　○消火栓一体形　○単独形
	○自動閉鎖装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○連動制御器（既設）　回線　【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独　○自火報受信機と一体
		○自動閉鎖装置　○防火戸用【ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事　瞬時通電式又は電動式　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下 遠方復帰機構（電動式）ＤＣ２４Ｖ　０．７Ａ以下】 ○防火シャッター用 【別途工事　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下】
	○非常警報装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○電気方式　ＤＣ２４Ｖ
		○電源装置　○非常電源（蓄電池）　○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○受信機　○単独形　○自火報受信機と一体
		○ガスの種類　○都市ガス（１３Ａ）　○液化石油ガス
	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓（　窓）を設ける。
中央監視制御設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○監視方式	○警報盤　○監視制御装置
医療関係設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット　○鋼製　○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出押ボタン　○有線式　○無線式 ○防滴　○防湿
	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
構内配電線路	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○電気方式	高圧　○三相３線式　６ｋＶ 低圧　○三相３線式　２００Ｖ　○ ○単相３線式　１００/２００Ｖ ○単２線式　（○１００Ｖ　○２００Ｖ）
	○ふ設方式	○地中線　○管路式　○波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ） ○ポリエチレン被覆管（ＰＬＰ） ○ 埋設深さ　特記なきものはＧＬ(舗装がある場合は、舗装下面)から３００mm以上とする。
		○架空線　電柱　○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器　７．２ｋＶ　３００Ａ
		用途　○架空引込用　○地中引込用
		構　○耐中塩じん用　○耐重塩じん用
		形式　○引外し装置付き（ＳＯＧ形）　○引外し装置なし　○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法　○標準図による　○図示による。 蓋の文字　○蓋の用途表示は電力とする。　○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはＥＭ－高圧架橋ポリエチレンケーブルは、ＪＣＳ　４３９５「６６００Ｖ　架橋ポリエチレンケーブル（３層押出型）」に（※よる　○よらない）
	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、１ヶ所以上で３m余長をとる。
	○碍子、高圧ケーブル端末処理	○一般用　○耐塩用　○重耐塩用
	○避雷器	○屋外形　○耐塩形
	○装柱材	○一般用　○耐塩形
	○外灯	基礎　○本工事　○別途工事 ○外灯ポールの材質が鋼製（ＳＰＣ）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
構内通信線路	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○ふ設方式	○地中線　○管路式　○波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ） ○ポリエチレン被覆管（ＰＬＰ） ○ 埋設深さ　特記なきものはＧＬ(舗装がある場合は、舗装（表層）下面)から３００mm以上とする。
		○架空線　電柱　○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法　○標準図による　○図示による。 蓋の文字　○蓋の用途表示は通信とする。　○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

章	項目	特記事項
電波障害調査	○調査範囲	○測定のみ　○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前　○工事中　○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表　付属品・予備品

○イージーキャビネット　箱　○キーボックス　○テスター　○マンホールフック ○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナー、ハンマー）	
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、２０％とする。

試験・検査一覧

工事完成に際しては，各種試験，検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
○受変電機器●動力盤及び電灯盤○耐圧試験●絶縁抵抗測定○接地抵抗測定●機器機能試験●その他監督職員の指示するもの
●工事着手に際し、事前に必要な機器（照明機器、空調機器、放送設備等）の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。（照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。）
●着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
●着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
●後施工アンカーの施工確認試験（引張試験機による引張試験）は、１日の施工本数の３％以上かつ３本以上とする。
例　盤・ケーブルラック・ケーブルダクト等

その他

●試験機器類の校正記録を提出する。
●停電工事の必要な時は、当該高圧受電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
●工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、引込移変に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針（令和４年度版）の資料５（Ｐ１１１９）に基づき施工する。
●鉄筋コンクリートをダイヤドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
●構外搬出適切産廃処分とする（電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する）。
○交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を２名以上配置する。
○カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
●盤、ボックス等撤去後の壁等の補修は本工事とする。

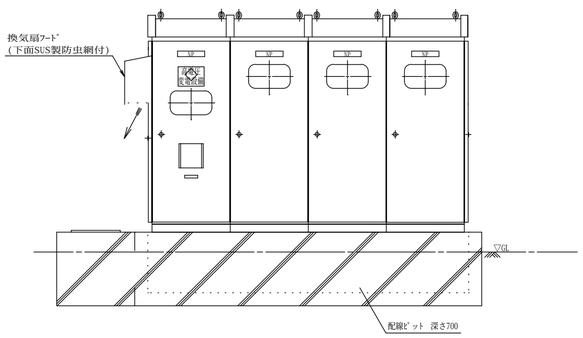
機器取付高さ　（参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。）

	名称	測点	取付高(mm)		名称	測点	取付高(mm)
電力共通	取引用計器	地上～上端	２,０００	電話	端子盤	床上～上端	１,９００
	引込開閉器	〃	１,８００		保安器函	天井下～上端	２００
					壁付位置ボックス	床上～中心	３００
動力	壁掛型制御盤	床上～上端	１,９００		〃　（和室）	〃	１５０
	手元開閉器	床上～中心	１,５００				
	操作スイッチ	〃	１,３００	拡声・時計	壁掛スピーカー	天井下～上端	２００
					アッテネーター	床上～中心	１,３００
					壁掛型親時計	床上～上端	１,９００
電灯	分電盤	床上～上端	１,９００		子時計	天井下～上端	２００
	スイッチ　（一般）	床上～中心	１,３００				
	〃　（身障者便所）	〃	９００	インターホン	壁掛インターホン	床上～中心	１,５００
	コンセント　（一般）	〃	３００		〃　（身障者）	〃	１,１００
	〃　（和室）	〃	１５０		壁付位置ボックス	〃	３００
	〃　（台上）	台上～中心	３００		〃　（和室）	〃	１５０
	〃　（土間）	床上～中心	１,３００				
	ブラケット　（一般）	〃	２,１００	テレビ共聴	機器収納函	天井下～上端	２００
	〃　（踊場）	〃	２,５００		直列ユニット	床上～中心	３００
	〃　（鏡上）	鏡上端～中心	１５０		〃　（和室）	〃	１５０

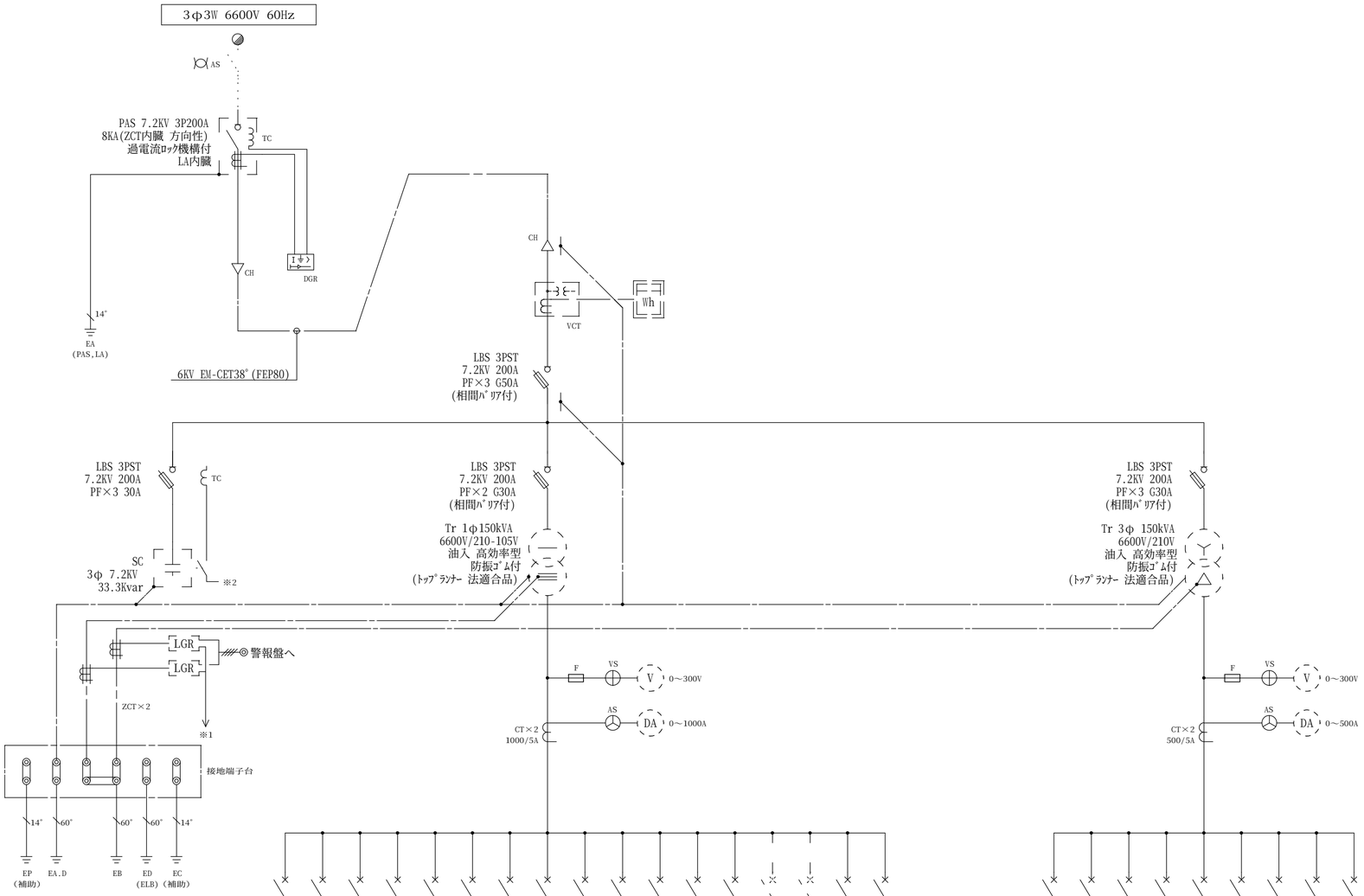
特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611－００２６　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生

製図年月日 R04.12	建築主	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 ——
訂正年月日	工事名称		図面番号 No E-02 号図
監修 / 設計 / 製図	図面名称	電気設備工事特記仕様書　-２	枚ノ内



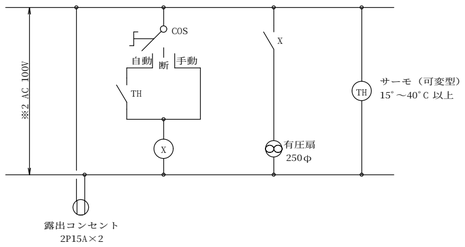
屋外型キュービクル正面図・基礎図

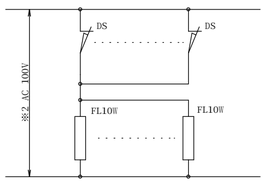


幹線No	負荷名称	P	AF	AT	幹線サイズ	負荷容量
SL1	南校舎1F SIL-1	3	225	150	EM-CET 100°	23.52 KVA
SL2	給食室 SIL-2	3	50	30	EM-CET 14°	10.88 KVA
SL3	南校舎2F S2L-1	3	100	100	EM-CET 38°	9.46 KVA
SL4	南校舎3F S3L-1	3	100	100	EM-CET 38°	6.45 KVA
SL5	家庭科室 S3L-2	3	100	75	EM-CET 22°	10.0 KVA
SL6	南校舎GIP S3L-3	3	225	200	EM-CET 100°	28.93 KVA
NL1	北校舎1F N1L-1	3	225	200	EM-CET 100°	29.67 KVA
NL2	北校舎2F N2L-1	3	100	100	EM-CET 38°	11.91 KVA
NL3	北校舎3F N3L-1	3	100	100	EM-CET 38°	17.11 KVA
L1	体育館 1L-T	3	100	75	EM-CET 38°	11.6 KVA
L2	プール LM-P	3	50	30	EM-CE 8°-3C	1.0 KVA
SL7	予備	3	100	100	EM-CET 38°	KVA
SL8	予備	3	100	75	EM-CET 22°	KVA
	予備 スペース	3	225			
	予備 スペース	3	225			
※1	LGR・ｺﾝﾃﾞﾝｻ保護電源	2	50	15		
※2	盤内換気扇・コンセント	2	50	15		

幹線No	負荷名称	P	AF	AT	幹線サイズ	負荷容量
SM1	給食室 SIM-1	3	225	150	EM-CET 60°	42.25 KW
SM2	生ごみ処理機	3	50	30	EM-CE 8°-3C	KW
SM3	職員室空調 SM-1	3	100	100	EM-CE 8°-3C	4.14 KW
SM4	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室空調 SM-2	3	100	100	EM-CET 22°	4.64 KW
PM1	ﾌﾟｰﾙ制御盤 1M-3	3	100	75	EM-CET 38°	5.5 KW
NM1	北校舎 1M-6	3	50	50	EM-CET 38°	3.8 KW
NM2	消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ盤 NM-1	3	100	100	EM-CET 14°	7.5 KW
NM3	揚水ﾎﾟﾝﾌﾟ盤 NM-2	3	100	75	EM-FPT 22°	5.5 KW
	予備 スペース	3	225		EM-CET 14°	

屋外型高圧キュービクル　単線結線図





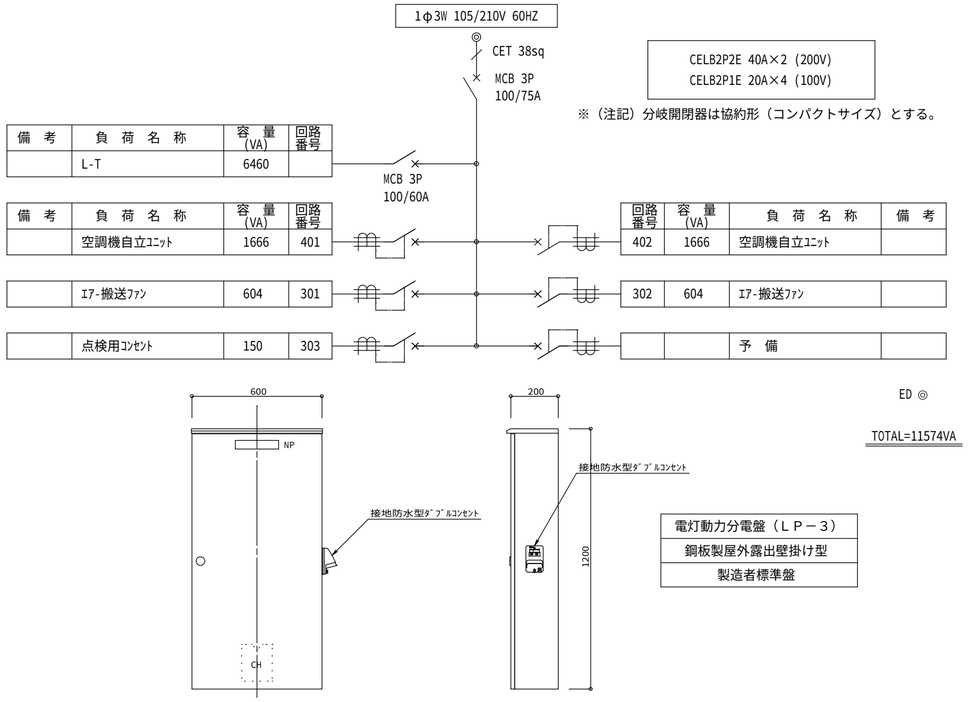
L1 ｹｰﾌﾞﾙ取替
改修前 CVT 22°
改修後 EM-CET 38°

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－００２６ 京都府宇治市開町３７－１０
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080
一級建築士登録 第125477号
細 野 幹 生

製図年月日	R07.03
訂正年月日	
監修	
設計	
製図	
建築主	
工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
図面名称	受変電設備　高圧単線結線図
縮尺	____
図面番号	No E-03 号図
	枚ノ内

分電盤結線図 LP-3 新設



備考	負荷名称	容量(VA)	回路番号
	L-T	6460	

備考	負荷名称	容量(VA)	回路番号
	空調機自立ﾕﾆｯﾄ	1666	401
	ｴｱ-搬送ﾌｧﾝ	604	301
	点検用ｺﾝｾﾝﾄ	150	303

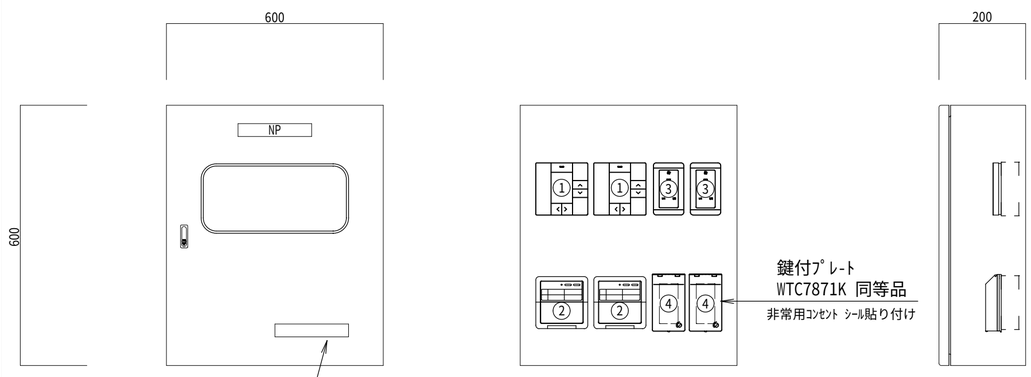
回路番号	容量(VA)	負荷名称	備考
402	1666	空調機自立ﾕﾆｯﾄ	
302	604	ｴｱ-搬送ﾌｧﾝ	
		予　備	

ED ◎

TOTAL=11574VA

電灯動力分電盤（ＬＰ－３）
鋼板製屋外露出壁掛け型
製造者標準盤

空調機リモコン盤 1R-1 新設



盤内非常用コンセント

窓付、鍵付
板厚（函体、扉）1.6 t
製造者標準仕様

盤寸法は参考

① 空調機リモコン （機械工事） × 2個
② ｽｹｼﾞｭｰﾙﾀｲﾏｰ （機械工事） × 2個
③ 搬送ﾌｧﾝリモコン （機械工事） × 2個
④ ｺﾝｾﾝﾄ（発電回路） （電気工事） × 2個

①②③④ 盤内ﾒﾀﾙﾓｰﾙBOX（電気工事）に取付

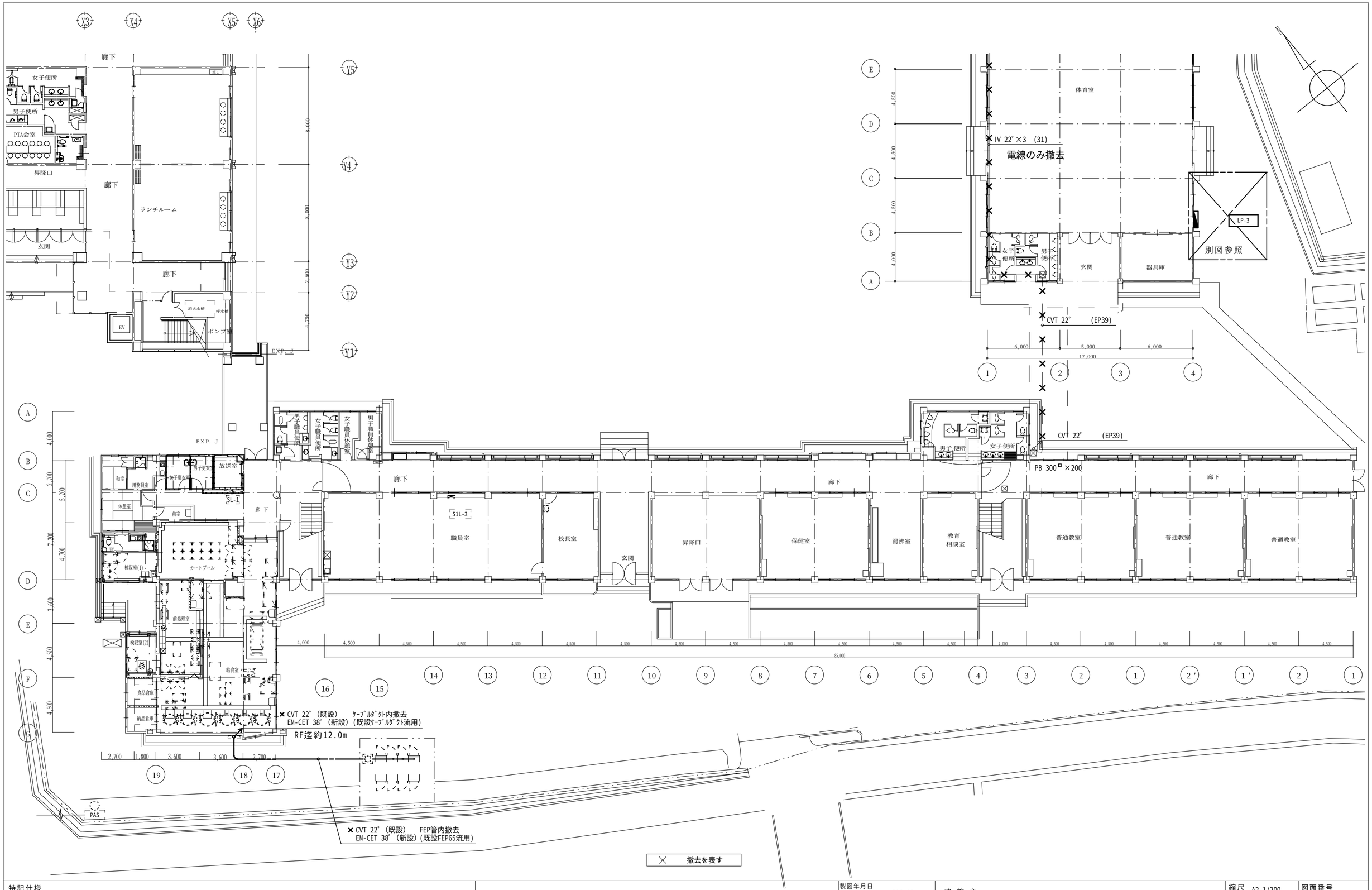
分電盤結線図 既設

盤名称 盤形式	主回路	回路	負荷名称	負荷容量(VA)	分岐開閉器 MCB	ELB	P	AF	AT	電圧	備考
L-T 屋内露出形	AC1φ3W 100/200V, L1, EM-CET 38°, MCB 3P 100/60A, Σ=6.46 KVA, 伝送ﾕﾆｯﾄ × 1, ﾘﾓｺﾝ ﾄﾗｼｽ× 1, ED ◎		ﾘﾓｺﾝﾄﾗﾝｽ		○		2	30	20	100	
		1	ｱﾘｰﾅ照明 左前		RMCB		〃	〃	〃	200	
		2	〃 右後		〃		〃	〃	〃	〃	
		3	〃 右前		〃		〃	〃	〃	〃	
		4	〃 左後		〃		〃	〃	〃	〃	
		5	舞台照明		○		〃	〃	〃	100	
		6	舞台横照明		○		〃	〃	〃	〃	
		7	便所、倉庫照明		○		〃	〃	〃	〃	
		8	両ｻｲﾄﾞ ｺﾝｾﾝﾄ		○		〃	〃	〃	〃	
		9	舞台 ｺﾝｾﾝﾄ		○		〃	〃	〃	〃	
		10	盤横 ｺﾝｾﾝﾄ		○		〃	〃	〃	〃	
		11	館内ｺﾝｾﾝﾄ		○		〃	〃	〃	〃	
		12	放送室ｺﾝｾﾝﾄ		○		〃	〃	〃	〃	

特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－００２６ 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

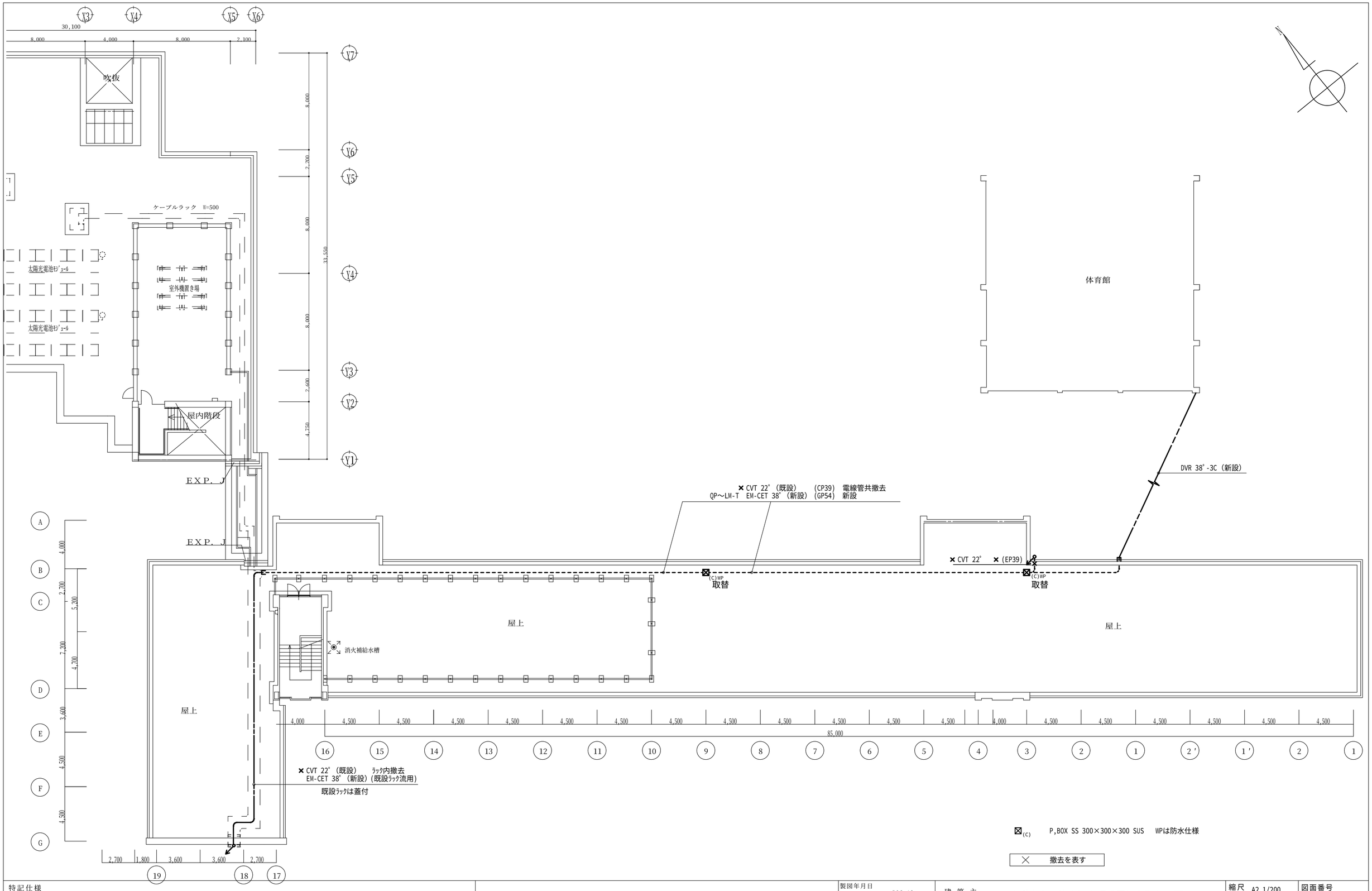
製図年月日	R06.12
訂正年月日	
監修 / 設計 / 製図	
建築主	
工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
図面名称	分電盤結線図
縮尺	——
図面番号	No E-04 号図
	枚ノ内



特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－００２６ 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

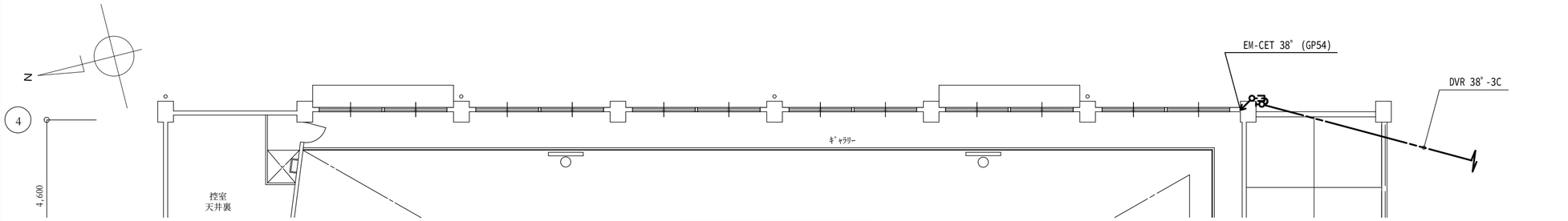
製図年月日	R06.12	建築主	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 A2 1/200	図面番号
訂正年月日		工事名称			No E-05 号図
監修 / 設計 / 製図		図面名称	幹線設備 １階平面図		枚ノ内



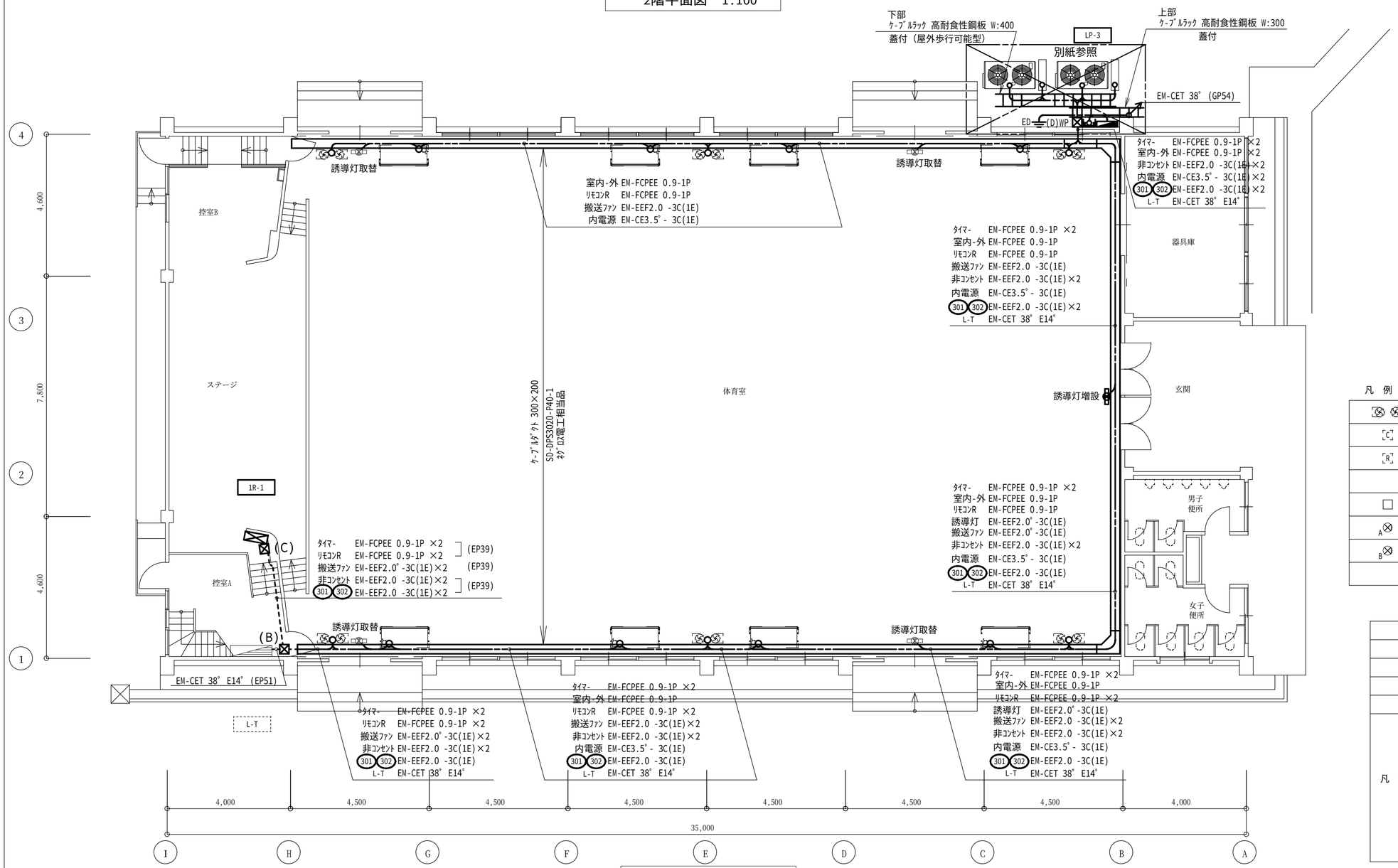
特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－００２６ 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

製図年月日	R06.12
訂正年月日	
監修	
設計	
製図	
建築主	
工事名称	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事
図面名称	幹線設備 R階平面図
縮尺	A2 1/200
図面番号	No E-06 号図
	枚ノ内



2階平面図　1:100



1階平面図　1:100

凡　例

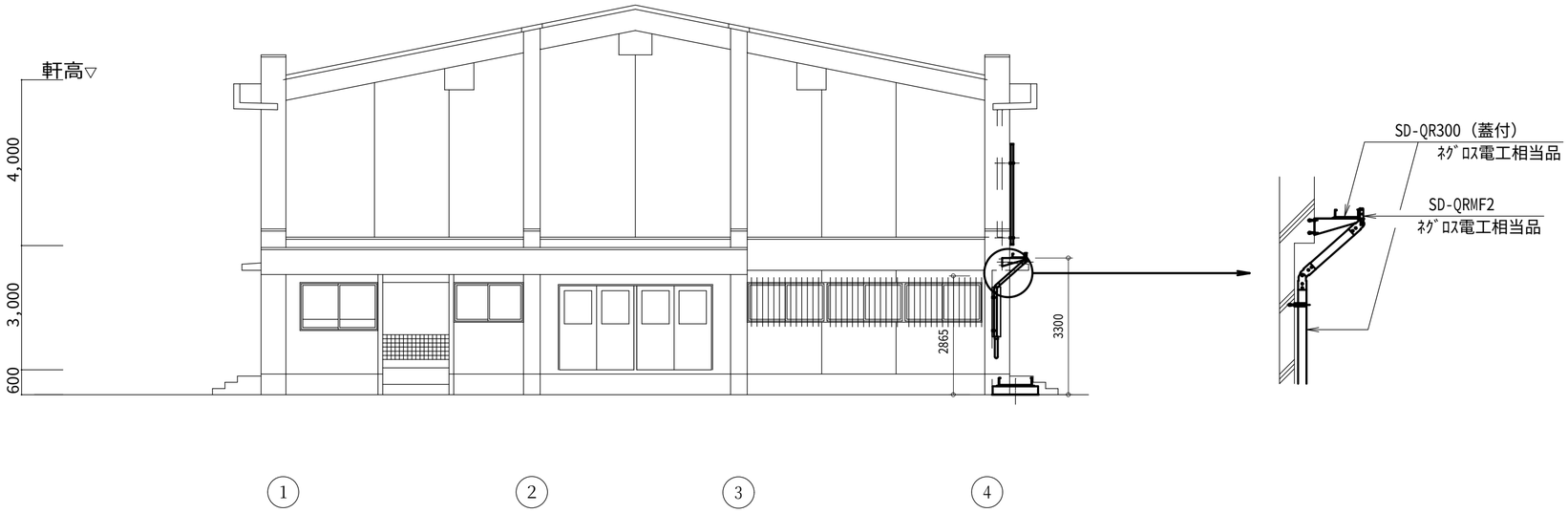
	ｴｱｰ搬送ﾌｧﾝ	1φ100V 151W	機械設備工事
[C]	ｴｱｰ搬送ﾌｧﾝ ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁ	ﾒﾀﾓｰﾙ 1ｺ用ﾎﾞｯｸｽ	機械設備工事
[R]	空調機ﾘﾓｺﾝ	ﾒﾀﾓｰﾙ2ｺ用ﾎﾞｯｸｽ	機械設備工事
□	ﾒﾀﾓｰﾙ ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ		ﾎﾞｯｸｽ類電気設備工事
A⊗	防雨入線ｶﾊﾞｰ	WP91319 相当品	
B⊗	防雨ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	WN7641K 相当品	

記載なきなき配管配線は、下記に依る。			
		EM-CE 3.5°-3C (1E)	(EP25) (GP28)
		EM-CE 3.5°-4C E2.0	(EP31) (GP28)
		EM-CE 5.5°-3C (1E)	(EP31) (GP28)
		C 空配管	(EP19) (GP22)
凡　例		露出配管配線（屋内ＥＰ、屋外ＧＰ電線管）	
		架空配線 突き出し	
	⊠(A)	P,BOX SS 150×150×150 SUS	WPは防水仕様
	⊠(B)	P,BOX SS 200×200×200 SUS	〃
	⊠(C)	P,BOX SS 300×300×300 SUS	〃
	⊠(D)	P,BOX SS 400×400×400 SUS	〃
	●	壁貫通(ﾀﾞｲﾔｶｯﾀｰ) 貫通処理は国交省大臣認定工法	

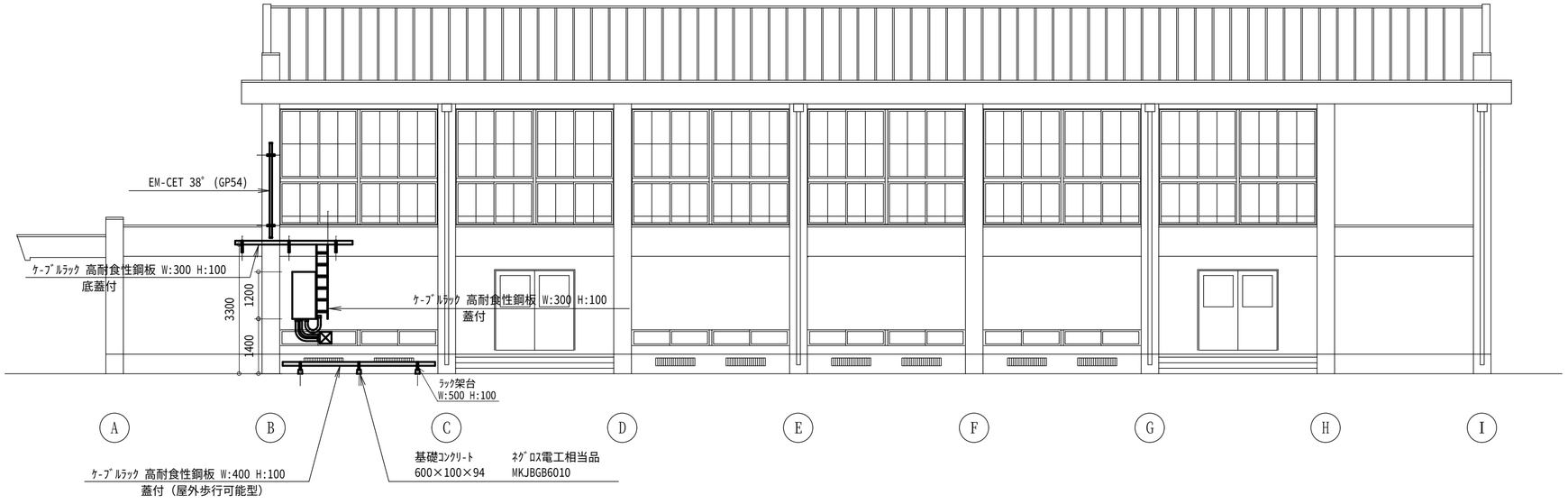
特記仕様

株式会社　木下建築設計事務所
611－００２６　京都府宇治市開明３７－１０　一級建築士登録　第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080　細野幹生

製図年月日 R06.12	建築主	木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事	縮尺 A2 1/100
訂正年月日	工事名称		図面番号 No E-07 号図
監修 / 設計 / 製図	図面名称	体育館１階平面図	枚ノ内

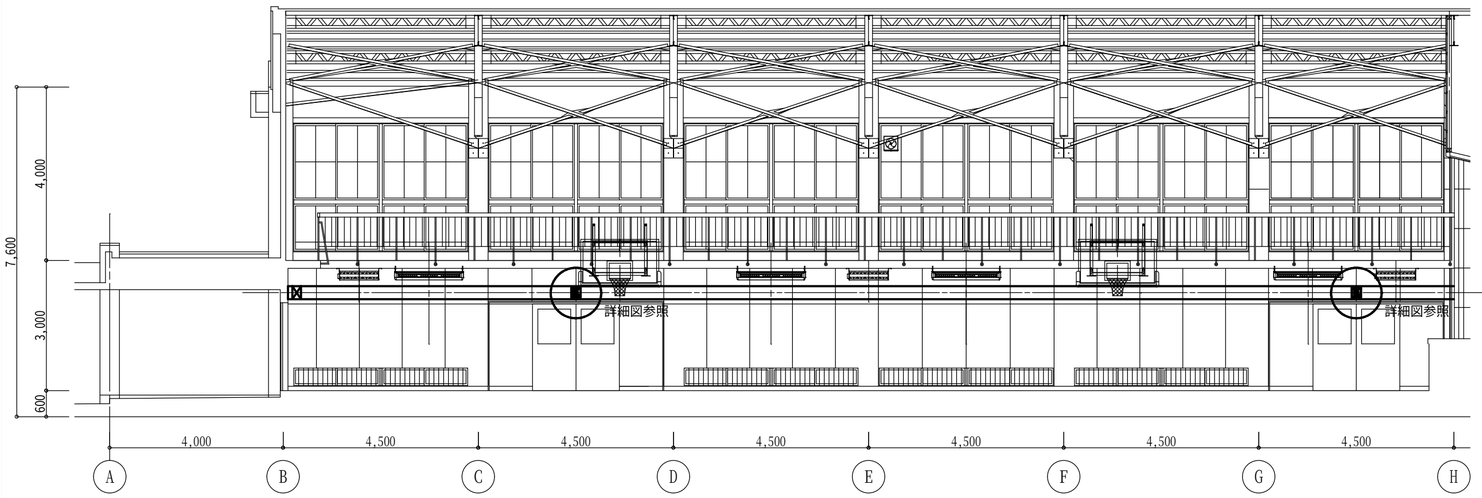


南立面図　1:100

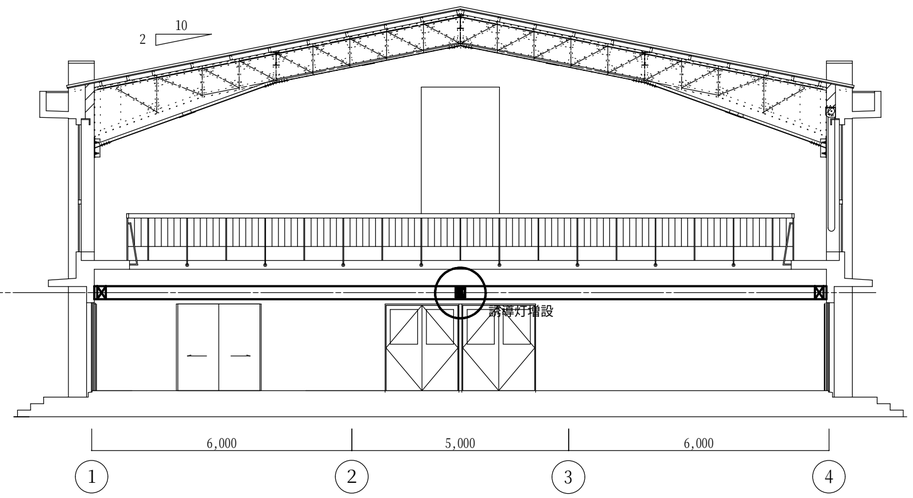


東立面図　1:100

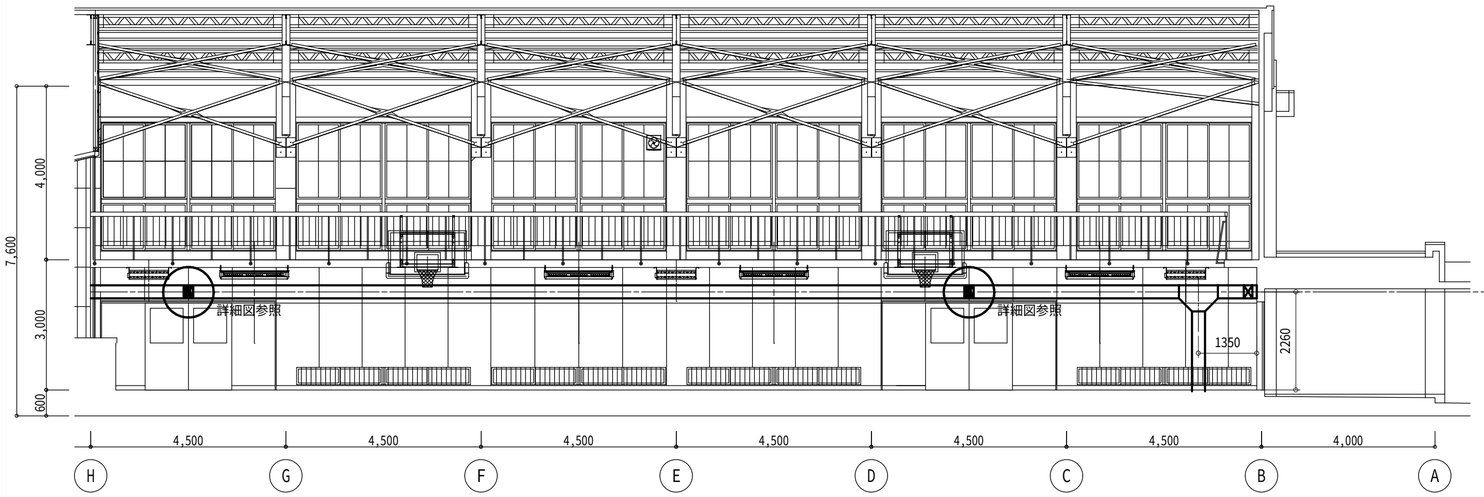
特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611－００２６　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生	製図年月日 R06.12 訂正年月日 監修　設計　製図	建築主 工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　電気設備 立面図	縮尺 A2 1/100	図面番号 No E-08 号図 枚ノ内



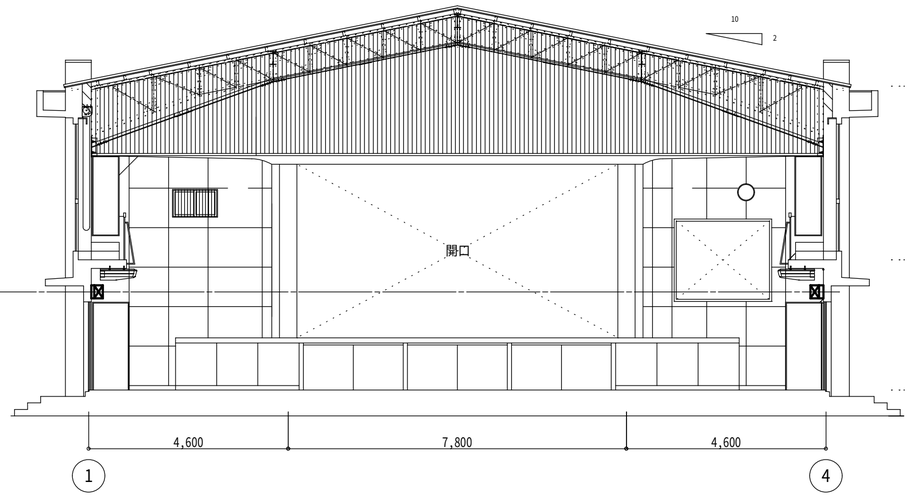
D面　展開図



C面　展開図



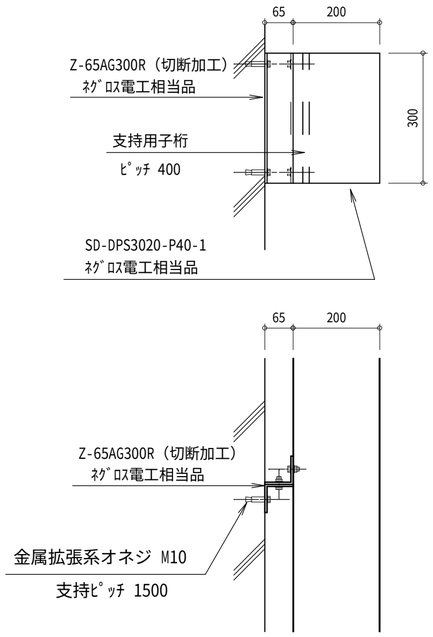
B面　展開図



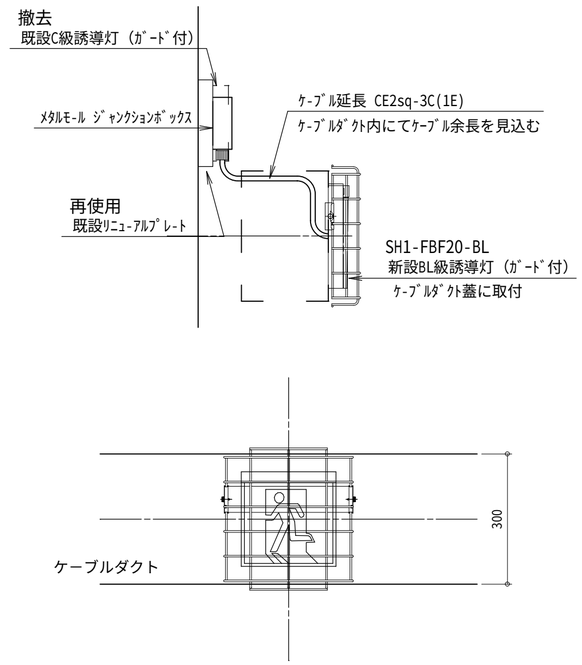
A面　展開図

特記仕様	株式会社　木下建築設計事務所 611－００２６　京都府宇治市開町３７－１０　一級建築士登録　第125477号 TEL　(0774) 41-6514　FAX (0774) 44-1080　細野幹生	製図年月日 R06.12 訂正年月日 監修　設計　製図	建築主 工事名称　木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事 図面名称　電気設備 展開図	縮尺 A2 1/100	図面番号 No E-09 号図 枚ノ内

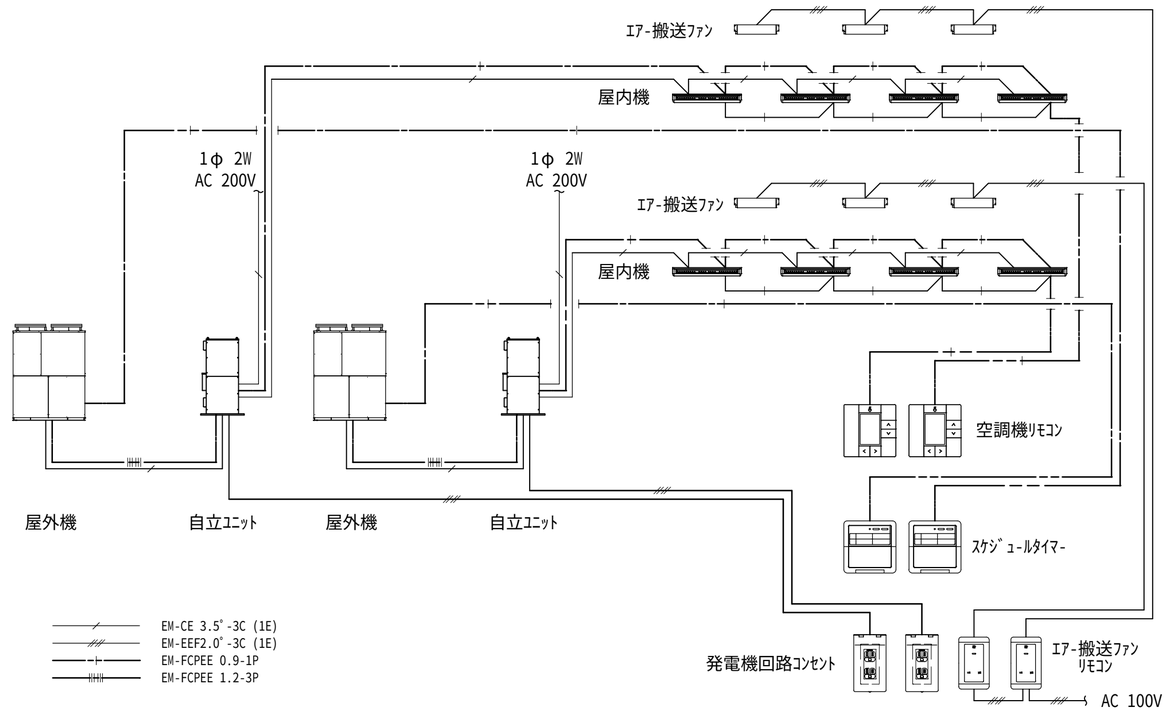
1 ケーブルダクト支持参考図 S:1/10



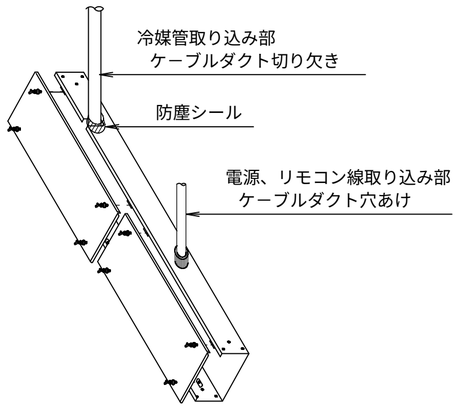
2 誘導灯取付位置変更参考図 S:1/10



3 機器接続系統図 電源1φ200V S:—

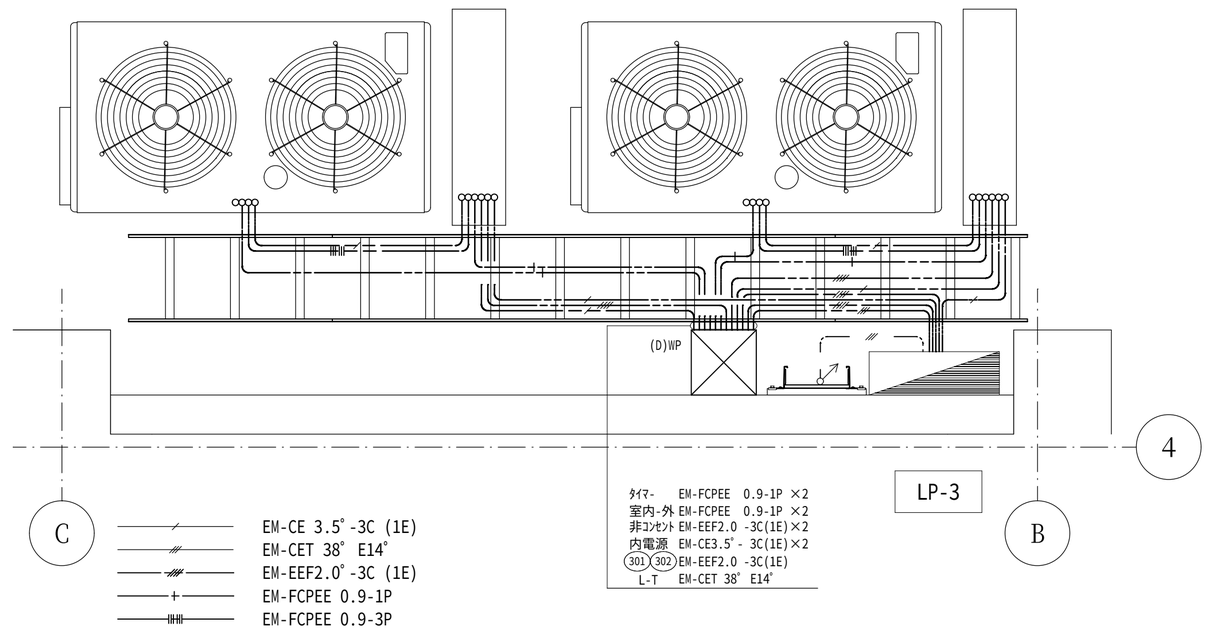


4 ケーブルダクト接続参考図 S:—



5

6 屋外機廻り配線図（下部） S:—



特記仕様

株式会社 木下建築設計事務所
611－００２６ 京都府宇治市開町３７－１０ 一級建築士登録 第125477号
TEL (0774) 41-6514 FAX (0774) 44-1080 細野幹生

製図年月日 R06.12	建築主	縮尺 ——	図面番号
訂正年月日	工事名称 木幡小学校体育館空調設置ほか改修工事		No E-10 号図
監修 / 設計 / 製図	図面名称 詳細図、配線系統図		枚ノ内